

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年6月24日

【事業年度】 第106期(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

【会社名】 アイザワ証券グループ株式会社

【英訳名】 AIZAWA SECURITIES GROUP CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 社長執行役員 藍 澤 卓 弥

【本店の所在の場所】 東京都港区東新橋一丁目9番1号

【電話番号】 03(6852)7744

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員 大 道 浩 二

【最寄りの連絡場所】 東京都港区東新橋一丁目9番1号

【電話番号】 03(6852)7744

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員 大 道 浩 二

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期
決算年月	2022年 3月	2023年 3月	2024年 3月	2025年 3月	2026年 3月
営業収益 (百万円)	16,050	12,751	18,980	20,588	20,973
(うち受入手数料) (百万円)	(10,176)	(8,971)	(13,224)	(14,190)	(16,713)
純営業収益 (百万円)	15,619	12,208	18,191	20,022	19,905
経常利益又は経常損失 ( ) (百万円)	1,429	1,911	1,941	2,571	666
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社 株主に帰属する当期純 損失 ( ) (百万円)	2,901	2,375	2,975	3,172	2,752
包括利益 (百万円)	761	2,677	6,369	2,136	5,761
純資産額 (百万円)	58,029	54,030	58,657	47,599	50,486
総資産額 (百万円)	104,723	98,835	124,119	109,529	124,324
1株当たり純資産 (円)	1,440.62	1,350.08	1,498.42	1,433.95	1,523.27
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純 損失 ( ) (円)	73.85	62.03	79.39	100.20	88.44
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	53.2	51.6	44.8	40.7	38.2
自己資本利益率 (%)	5.1	4.5	5.6	6.3	6.0
株価収益率 (倍)	9.94		14.75	14.80	16.37
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,930	9,487	8,447	5,759	4,503
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,749	474	1,478	1,180	3,470
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	959	3,824	1,519	4,886	1,156
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	18,666	13,734	22,709	13,161	22,375
従業員数 (名)	773	741	742	723	707
(外、平均臨時雇用者数)	(10)	(16)	(21)	(30)	(30)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 当社は、1株当たり純資産の算定において、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として保有する当社株式数を、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。  
 また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として保有する当社株式を含めております。

3. 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第105期の期首から適用しており、第104期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。なお、2022年改正会計基準については第20 - 3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用し、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)については第65 - 2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、第105期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
4. 第103期の株価収益率については、一株当たり当期純損失のため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期
決算年月	2022年 3月	2023年 3月	2024年 3月	2025年 3月	2026年 3月
営業収益 (百万円)	8,018	844	815	3,048	1,030
(うち受入手数料) (百万円)	(4,886)	( )	( )	( )	( )
純営業収益 (百万円)	7,974	844	815	3,048	1,030
経常利益又は経常損失 (百万円)	1,129	91	147	2,032	78
( )					
当期純利益 (百万円)	2,293	1	53	1,750	372
資本金 (百万円)	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
発行済株式総数 (千株)	47,525	47,525	47,525	39,525	39,525
純資産額 (百万円)	48,488	46,938	46,041	34,772	32,872
総資産額 (百万円)	52,184	49,044	48,950	47,712	51,076
1株当たり純資産 (円)	1,253.81	1,242.63	1,239.59	1,118.86	1,054.53
1株当たり配当額 (円)	28.00	26.00	39.00	96.00	117.00
(うち1株当たり中間配当額) (円)	(13.00)	(13.00)	(13.00)	(48.00)	(48.00)
1株当たり当期純利益 (円)	58.37	0.04	1.43	55.28	11.98
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	92.9	95.7	94.1	72.9	64.4
自己資本利益率 (%)	4.3	0.0	0.1	4.3	1.1
株価収益率 (倍)	12.57	17,250.00	818.88	26.83	120.87
配当性向 (%)	48.0			173.7	976.6
純資産(株主資本)配当率 (%)	2.1	2.1	3.2	7.6	9.4
従業員数 (名)	63	61	55	56	55
(外、平均臨時雇用者数)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)
株主総利回り (%)	76.0	74.3	126.1	166.9	175.0
(比較指標: 配当込みTOPIX) (%)	(102.0)	(107.9)	(152.5)	(150.2)	(202.2)
最高株価 (円)	1,217	749	1,361	3,060	1,548
最低株価 (円)	734	630	682	1,142	1,120

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 第105期の1株当たり配当額には、中間配当額35円00銭及び期末配当額35円00銭の計70円00銭の特別配当が含まれております。

3. 第106期の1株当たり配当額には、中間配当額35円00銭及び期末配当額35円00銭の計70円00銭の特別配当が含まれております。

4. 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第105期の期首から適用しており、第104期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。なお、2022年改正会計基準については第20 - 3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、第105期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
5. 当社は、1株当たり純資産の算定において、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として保有する当社株式数を、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。  
また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として保有する当社株式を含めております。
6. 最高株価及び最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第一部におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所プライム市場におけるものであります。

## 2 【沿革】

当社は、1918年7月、創業者藍澤彌八が東京株式取引所(現東京証券取引所)一般取引員港屋商店の営業を継承して、証券業務の取扱いを開始し、現在に至っております。

創業後の経過の概要は次のとおりであります。

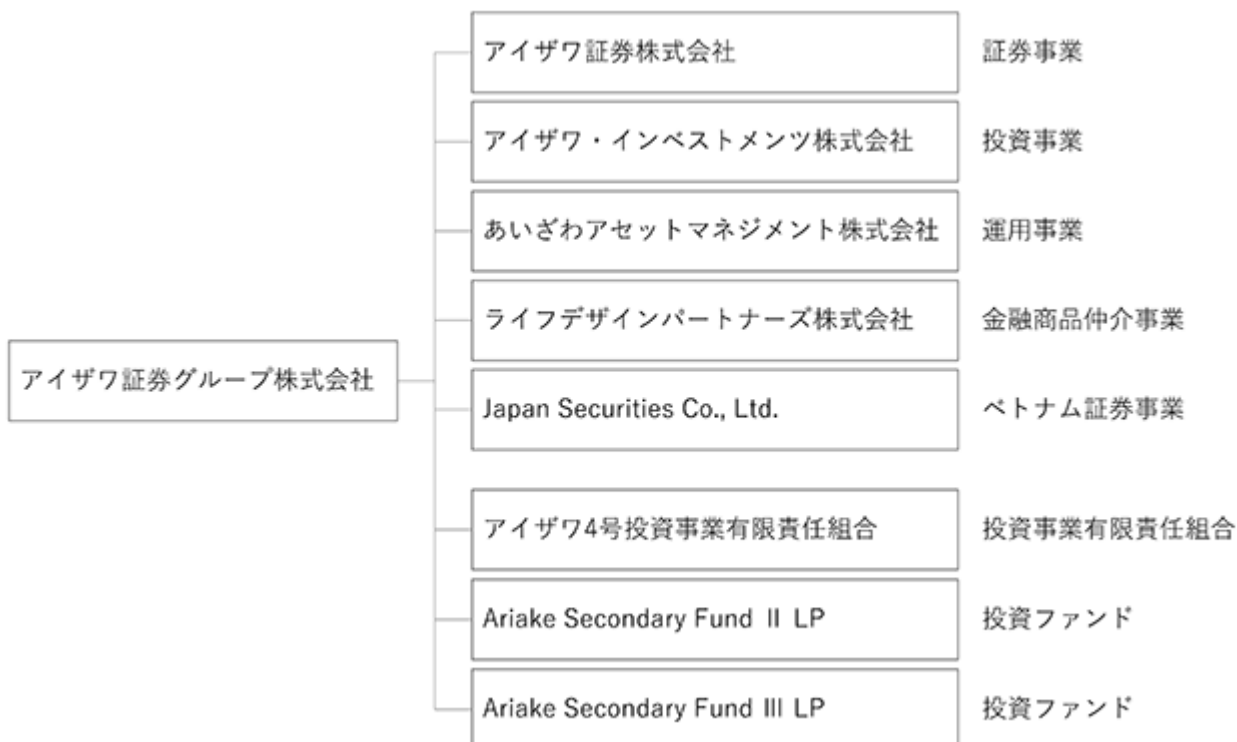
年月	変遷の内容
1933年10月	株式会社藍澤商店(資本金1百万円)を証券業務の取扱いを目的として、東京市日本橋区に設立
1944年5月	企業整備令により株式会社石崎商店を合併(資本金3百万円)
1948年10月	商号を藍澤證券株式会社に変更
1949年4月	証券取引法の施行に伴い東京証券取引所正会員として加入
1952年1月	日本証券投資株式会社(本社東京都)を吸収合併(資本金13百万円)
1958年2月	伊豆証券株式会社(本社静岡県)の営業権譲受け
1959年11月	常盤証券株式会社(本社静岡県)の営業権譲受け
1965年8月	永徳屋証券株式会社(本社静岡県)の営業権譲受け
1966年1月	国債引受証券団に加入
1968年3月	山梨証券株式会社(本社山梨県)の営業権譲受け
1968年4月	証券業の免許制への移行に伴い証券業の免許取得
1969年9月	公社債の払込金の受入及び元利金支払の代理業務の兼業承認取得
1983年6月	保護預り公共債を担保として金銭を貸付ける業務の兼業承認取得
1983年8月	累積投資業務及び証券投資信託受益証券の収益金、償還金及び一部解約金支払の代理業務の兼業承認取得
1985年12月	譲渡性預金の売買、売上の媒介、取次ぎ及び代理業務の兼業承認取得
1986年3月	円建銀行引受手形の売買及び売上の媒介の業務の兼業承認取得
1986年6月	大口顧客の資金運用を目的として藍澤投資顧問株式会社(本社 東京都、資本金15百万円、出資比率5%)を設立
1986年7月	大阪証券取引所正会員として加入
1987年11月	国内で発行されるコマーシャル・ペーパーの発行に係わる代理業務、売買、売上の媒介、取次ぎ及び代理業務の兼業承認取得
1988年7月	外国為替及び外国貿易管理法に基づく証券会社に指定
1988年9月	譲渡性預金証書及び国外のCPの売買、売上の媒介、取次ぎ及び代理業務並びに常任代理業務の兼業承認取得
1988年10月	抵当証券の販売の媒介及び保管業務の兼業承認取得
1989年1月	資本金を17億2百万円から32億2百万円に増資し、総合証券会社に昇格
1990年10月	金地金の売買取引の委託の代理業務の兼業承認取得
1991年9月	本社ビル完成により、東京都中央区日本橋一丁目20番3号に本店を移転
1993年11月	MMF・中期国債ファンドによるキャッシング業務の兼業承認取得
1998年12月	証券業の登録制への移行に伴い証券業登録
1999年10月	インターネット取引「ブルートレード」を開始
2000年5月	コールセンター事業を開始
2000年6月	最初の複合店(対面取引と通信取引の双方を取扱う複合店舗)として町田支店を開設
2000年8月	北アジアネットワーク事業を開始 香港、台湾、韓国のアジア株取引の開始

年月	変遷の内容
2000年9月	アジアマーケットへの進出を目的としてJapan Asia Securities Group Ltd.(現 Japan Asia Holdings Limited 本社ケイマン)へ出資
2001年3月	藍澤投資顧問株式会社(本社 東京都 資本金3億円)へ65%追加出資し、子会社化(出資比率70%)
2001年12月	中華人民共和国の国通証券(現 招商証券)と上海・深セン市場の株式の取扱いについてアライアンスを締結し、上海B株・深センB株の取扱いを開始
2002年2月	サン・アイ・エクセレント株式会社の株式を取得し、子会社化(出資比率100%)
2002年9月	藍澤投資顧問株式会社の株式を取得し、完全子会社化(出資比率100%)
2002年10月	平岡証券株式会社(本社 大阪府)と合併(資本金・50億円、店舗数31店舗)
2003年11月	藍澤投資顧問株式会社を解散
2005年4月	[子会社]上海藍澤投資諮詢有限公司を完全子会社として設立
2005年7月	アイザワ・インベストメンツ株式会社を完全子会社として設立
2005年10月	アイザワ・ベンチャー1号投資事業有限責任組合を100%出資で設立
2006年2月	株式会社ジャスダック証券取引所(現 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード))へ株式を上場し、資本金を80億円に増資
2006年3月	アイザワ・ベンチャー2号投資事業有限責任組合を100%出資で設立
2006年4月	[子会社]Aizawa Asset Management(C.I.)Ltd.を完全子会社として設立
2006年10月	シンガポール、タイ、マレーシア株式の取扱いを開始
2006年12月	投資一任運用サービス「ブルーラップ」の販売を開始
2008年2月	アイザワ3号投資事業有限責任組合を100%出資で設立
2008年5月	[子会社]アイザワ・インベストメンツ株式会社とサン・アイ・エクセレント株式会社を合併
2008年8月	中国の投資情報収集の拠点として上海駐在員事務所 上海代表処を設立
2009年2月	ベトナムの証券会社であるJapan Securities Co.,Ltd.(旧サクラ証券)へ出資
2009年3月	昇龍匿名組合1号から4号を子会社化
2009年6月	[子会社]上海藍澤投資諮詢有限公司を解散(上海駐在員事務所に吸収)
2009年8月	ベトナム、インドネシア、フィリピン株式の取扱いを開始
2010年1月	イスラエル株式の取扱いを開始
2010年4月	株式会社大阪証券取引所と株式会社ジャスダック証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)(現 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード))に上場
2010年10月	株式会社大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)(現 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード))に上場
2010年10月	昇龍匿名組合5号を子会社化
2010年12月	昇龍匿名組合1号から5号を清算並びに売却
2013年5月	八幡証券株式会社(本社 広島県)の株式を取得し、子会社化(出資比率100%)
2013年7月	米国株式国内店頭取引の取扱いを開始
2014年6月	欧州株式国内店頭取引の取扱いを開始
2015年1月	上海・香港ストックコネク(上海A株)の取扱いを開始
2015年3月	株式会社東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)から同取引所市場第一部へ上場市場変更
2016年2月	[子会社]八幡証券株式会社と合併(店舗数43店舗)
2016年10月	投資一任運用サービス「アイザワ ファンドラップ」の販売を開始
2016年12月	深セン・香港ストックコネク(深センA株)の取扱いを開始
2017年3月	日本アジア証券株式会社(本社 東京都)の株式を取得し、子会社化(出資比率100%)
2018年1月	[子会社]Aizawa Asset Management(C.I.)Ltd.を解散
2018年1月	ベトナムの証券会社であるJapan Securities Co.,Ltd.を子会社化することを目的とし、株式譲渡契約を締結
2018年7月	[子会社]日本アジア証券株式会社と合併(店舗数61店舗)
2018年9月	[子会社]アイザワ・ベンチャー1号投資事業有限責任組合を清算
2018年12月	[子会社]アイザワ・ベンチャー2号投資事業有限責任組合を清算
2019年4月	投資一任運用サービス「アイザワSMA スーパーブルーラップ」の販売を開始
2019年8月	アイザワ4号投資事業有限責任組合を100%出資で設立
2019年12月	[子会社]アイザワ3号投資事業有限責任組合を清算
2020年6月	あすかアセットマネジメント株式会社(本社 東京都)の株式を取得し、子会社化(出資比率100%)
2020年12月	あけぼの投資顧問株式会社(本社 東京都)の株式を取得し、子会社化(出資比率74%)

年月	変遷の内容
2021年2月	あすかアセットマネジメント株式会社とあけぼの投資顧問株式会社が合併し、商号をあいざわアセットマネジメント株式会社に変更（出資比率85%）
2021年2月	Ariake Secondary Fund LPへの出資に伴う子会社化（出資比率71%）
2021年4月	[子会社]アイザワ証券分割準備株式会社を完全子会社として設立
2021年4月	[子会社]ライフデザインパートナーズ株式会社を完全子会社として設立
2021年6月	監査等委員会設置会社へ移行
2021年8月	本店を中央区日本橋から港区東新橋に移転
2021年10月	証券事業と投資事業を会社分割の方法によりアイザワ証券分割準備株式会社とアイザワ・インベストメンツ株式会社にそれぞれ分割し、持株会社へ移行 商号をアイザワ証券グループ株式会社に変更
2021年10月	[子会社]アイザワ証券分割準備株式会社の商号をアイザワ証券株式会社に変更 [子会社]アイザワ証券株式会社が東京証券取引所が運営する株式市場TOKYO PRO MarketのJ-Adviserの資格取得
2021年12月	[子会社]ライフデザインパートナーズ株式会社が金融商品仲介業者の登録
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第一部からプライム市場へ移行
2022年6月	Ariake Secondary Fund LPへの出資に伴う子会社化（出資比率99%）
2023年6月	[子会社]アイザワ証券株式会社が第二種金融商品取引業務を開始
2023年8月	[子会社]アイザワ証券株式会社がゴールベースアプローチ型ラップサービス（愛称：スマイルゴール）の販売を開始
2023年11月	[子会社]アイザワ証券株式会社が会社分割（吸収分割）により、登録金融機関業務にかかる顧客の口座に関する権利義務を株式会社西京銀行より承継
2025年3月	[子会社]アイザワ証券株式会社が会社分割（吸収分割）により、登録金融機関業務にかかる顧客の口座に関する権利義務を株式会社佐賀共栄銀行より承継
2025年4月	「パーパス・ビジョン・バリュー」と「アイザワ宣言」を策定

### 3 【事業の内容】

当社グループは、証券事業、投資事業、運用事業、金融商品仲介事業、ベトナム証券事業等の各事業を柱とする連結子会社8社を中心にした事業グループを構成しております。



## 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
アイザワ証券株式会社(注)1.2	東京都港区	3,000百万円	金融商品取引業	100.0	経営指導・管理 資金借入 設備の賃貸借等の取引 役員の兼任 6名
アイザワ・インベストメンツ株式会社(注)1	東京都港区	100百万円	投資事業、投資事業組合財産の運用及び管理、不動産関連事業	100.0	経営指導・管理 資金借入 設備の賃貸借等の取引 当社の子会社であるアイザワ証券株式会社に不動産を賃貸しております。 役員の兼任 5名
あいざわアセットマネジメント株式会社	東京都港区	95百万円	第二種金融商品取引業、投資助言・代理業、投資運用業	46.4	経営指導・管理 設備の賃貸借等の取引 当社の子会社であるAriake Secondary Fund LP及びAriake Secondary Fund LPのインベストメントマネージャーを務めております。 役員の兼任 3名
ライフデザインパートナーズ株式会社	東京都港区	30百万円	金融商品仲介業、生命保険の募集に関する業務	100.0	経営指導・管理 資金貸付 設備の賃貸借等の取引 役員の兼任 3名
Japan Securities Co., Ltd. (注)1	ベトナム	3,000億 ベトナムドン	金融商品取引業	100.0	経営指導・管理
アイザワ4号投資事業有限責任組合(注)1	東京都港区	850百万円	投資事業有限責任組合(未公開企業)		当社の子会社であるアイザワ証券株式会社及びアイザワ・インベストメンツ株式会社に全額を出資しており、ベンチャーキャピタル業務を行っております。アイザワ・インベストメンツ株式会社が無限責任組合員として業務を執行しております。
Ariake Secondary Fund LP (注)1	ケイマン諸島	19.33百万 米ドル	投資ファンド		当社の子会社であるアイザワ証券株式会社が出資しており、当社の子会社であるあいざわアセットマネジメント株式会社がインベストメントマネージャーを務めております。
Ariake Secondary Fund LP (注)1	ケイマン諸島	2,969百万円	投資ファンド		当社の子会社であるアイザワ・インベストメンツ株式会社が出資しており、当社の子会社であるあいざわアセットマネジメント株式会社がインベストメントマネージャーを務めております。

(注) 1. 特定子会社であります。

2. アイザワ証券株式会社については、営業収益(連結会社相互間の内部取引を除く)の連結営業収益に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	営業収益	20,099百万円
	経常利益	931百万円
	当期純利益	567百万円
	純資産額	19,182百万円
	総資産額	64,735百万円

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

アイザワ証券グループは、時代の変化に応じて事業構造の大幅な変革を進めています。この中で、全社員が一体となって歩んでいく基盤を固めるために、私たちの存在意義・あるべき姿・大切にする価値観を明文化した「パーパス・ビジョン・バリュー（以下、PVV）」と、PVVを実現するためにステークホルダーの皆さまにお約束する「アイザワ宣言」を策定しております。

変化が激しく、将来の見通しが立てにくい時代において、お客さまとご家族との信頼関係を深め、社員一人ひとりが自信と誇りを持って働くためには、共通の目的と価値観の共有が不可欠であると考えています。

アイザワ証券グループの「PVV」および「アイザワ宣言」は、私たちの全ての原点となるものです。役職員一同が常に心に刻み行動することで、長期的にお客さまとご家族に寄り添い続ける資産運用・資産形成の伴走者を目指してまいります。

[パーパス：Purpose（存在意義）]

より多くの人に より豊かな生活を

[ビジョン：Vision（あるべき姿）]

資産運用・資産形成を通じて お客さまとご家族の人生の伴走者となる

[バリュー：Values（大切にする価値観）]

チャレンジ・・・行動力 成長 変革

リレーションシップ・・・信頼 思いやり 安心

プロフェッショナリズム・・・誠実 責任 使命感

チームワーク・・・調和 敬意 結束

[アイザワ宣言]

お客さまへ 私たちは、お客さまの未来を見据えた金融サービスを提供します。

株主の皆さまへ 私たちは、持続的な成長を通じて、企業価値向上に努めます。

社会へ 私たちは、地域との繋がりを大切に、社会の発展に貢献します。

従業員の皆さんへ 私たちは、社員一人ひとりを尊重し、成長と挑戦を後押しします。

#### (1) 経営環境

「貯蓄から投資へ」の大きな流れに代表されるように、我が国における個人の資産運用・資産形成はもはや不可避の流れです。その主体である資産形成層や準富裕層を中心に、「対面による継続的対話・アドバイス」へのニーズがますます高まっています。資産運用・資産形成アドバイスを含む「継続的・長期的にお客さまに寄り添う」ビジネスモデルへの転換が証券会社に求められています。

このようなニーズに応えていくために、アイザワ証券グループは、資産運用・資産形成を通じてお客さまとご家族の人生の伴走者となることを目指しております。当社グループの目指す「伴走者」とは、お客さまとご家族の資産運用・資産形成に関して、継続的にお話を傾聴し、それぞれのライフステージに合った提案・アドバイスを送り、世代を超えて対話を続ける、長期にわたる人生のパートナーです。

2025年4月には、2028年3月までの3年間を計画期間とする中期経営計画「資産運用・資産形成を通じてお客さまとご家族の人生の伴走者となる」を策定しました。中期経営計画に基づき、安定的にROE目標（8%以上）を達成できる事業構造・収益構造への抜本的な変革を実行してまいります。

(2) 事業戦略

財務報告上のセグメントごとの事業戦略は、以下のとおりであります。

証券事業

お客さまとご家族の資産運用・資産形成の伴走者としてのビジネスモデルを確立するため、ゴールベースアプローチ型営業と地域密着を徹底します。お客さまのライフプラン・将来の夢・希望といった「ゴール」を実現するために、継続的・長期的にお客さまに寄り添い、ゴールベースアプローチによりストック商品のご提案に注力してまいります。また、資産形成層のお客さまを中心とした顧客基盤を拡大するため、保険代理店や地域金融機関等との連携を強化し、プラットフォームビジネスの拡大に努めます。

投資事業

グループ連結業績の安定化と資産収益性向上に貢献する重要な事業と位置付け、運用成績を中期的に極大化することを最重視し、それを目的としたポートフォリオ運用、リスク管理及びパフォーマンス評価を行います。一定以上の流動性に留意しつつ、プライベートアセット、外国アセット、不動産等への投資を含めて運用を行ってまいります。

運用事業

非公開市場で取引される資産であるプライベートアセットは、世界的にも注目されており、市場の拡大が続いております。プライベートアセットの投資リターンは上場資産より高い場合もあり、リスクに見合ったリターンが期待できます。そのため、プライベートアセットの運用資産残高の増加に注力いたします。

(3) 目標とする経営指標

当社グループは、後述の中期経営計画『資産運用・資産形成を通じてお客さまとご家族の人生の伴走者となる』において、2028年度3月期の達成目標として以下の計数目標を掲げております。

中期経営計画の1年目となった2026年3月期は、全社を挙げてゴールベースアプローチ型営業を徹底した成果が出ており、2026年3月末時点で総預り資産が前期末比21.3%増加の2兆3,855億円、ストック商品（投資信託とラップ商品）預り資産が前期末比33.2%増加の5,639億円と順調に推移しております。実質ストック収益実質販管費カバー率についても、信託報酬の増加により実質ストック収益が増加したことにより、前期比6.9ポイント増加の35.6%となりました。

KPI	2028年3月期 達成目標	2026年3月期 実績
ROE（自己資本利益率）	8%以上	6.0%
ストック商品預り資産	8,000億円以上	5,639億円
総預り資産	2兆5,000億円以上	2兆3,855億円
実質ストック収益（注）1 実質販管費カバー率（注）2	40%以上	35.6%
女性管理職比率	15%以上	15.0%
エンゲージメントスコア（注）3	80%以上	75.8%

（注）1 信託報酬とラップ報酬の合計額から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料分を除外した収益額

（注）2 アイザワ証券の販売費・一般管理費から金融商品仲介業者等に支払う仲介手数料を除外した額

（注）3 当社グループのエンゲージメント調査において、アイザワ証券グループに愛着や誇りを感じる、もしくはやや感じると回答する割合

#### (4) 内部管理体制の整備・運用状況

内部牽制組織、組織上の業務部門及び管理部門の配置状況、社内規程の整備状況その他内部管理体制の強化のための牽制組織の状況

当社グループは、内部監査の独立性を高めるため、内部監査を所管する監査部をいずれの業務ラインにも属さない独立した部署として設置しております。

監査部は、「内部監査規程」に基づき、毎期初に策定する「内部監査計画書」に従って監査を実施し、監査結果報告会において監査対象部門と問題点の共有化を図ったうえで改善を指示し、改善状況の確認を行います。

また、当社グループの内部統制については、統制組織及び統制手段の両面から内部牽制が有効に機能する仕組みを構築しております。統制組織としては、日本証券業協会の「協会の内部管理責任者等に関する規則」に基づき、内部管理を担当する取締役1名を「内部管理統括責任者」として定めております。内部管理責任者は組織上、コンプライアンス部に属しており、人事上の評価につきましては組織の上長並びに内部管理統括補助責任者が行うこととし、内部管理体制の充実に努めております。これらの制度を通じ、金融商品取引法その他法令諸規則等の遵守、投資勧誘等の営業活動、顧客管理等が適正に行われるよう社内の監査部門が中心となり、内部管理体制の整備に努めております。

内部管理体制の充実にに向けた取り組みの最近1年間における実施状況

##### (イ) コンプライアンス評価委員会

金融商品取引法をはじめとした法令・諸規則遵守の強化を図るため、社内に「コンプライアンス評価委員会」を設置し、法令違反の未然防止策の立案、社内の問題点の洗い出しと改善策の検討・具体化を図っております。

##### (ロ) リスク管理委員会

内部統制上の会社のリスクを洗い出し、業務に活かすため「リスク管理委員会」を設け、月一回定期的に業務上のあらゆる問題を討議・検討しております。

##### (ハ) 内部統制構築プロジェクト

監査部内に内部統制専門の担当者を設け、内部統制の運用を行っております。

## 2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(2026年6月24日)現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) サステナビリティ全般に関する事項

当社グループは、サステナビリティに係る対応を経営上の重要課題と認識し、中期経営計画において経営機能強化策の一つとして「サステナビリティ推進」を掲げるとともに、2026年4月にサステナビリティ基本方針を見直しました。パーパス・ビジョン・パリューと「アイザワ宣言」を踏まえた新たな基本方針のもと、持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進しております。

#### [ サステナビリティ基本方針 ]

「地域社会に伴走し より多くの人と地域とともに成長していく」

大切な人の笑顔を守ること。それが何よりも幸せなことだと思います。未来のために、アイザワ証券グループができることは何か。アイザワ証券グループは、サステナビリティへの取組みを経営の重要課題としています。パーパス(私たちの存在意義)「より多くの人に より豊かな生活を」のもと、持続可能な地域社会と地域経済の発展に向け、アイザワ宣言の実践を通じて、社会課題の解決に寄与してまいります。

#### ガバナンス

サステナビリティに関する方針や重要課題は取締役会で協議・決定し、各種施策の定期的な見直し・特定は経営会議にて決定します。施策の推進は各事業を営むグループ子会社がそれぞれの事業にて行い、経営上の重要事項については経営会議において報告を受けて討議し、取締役会は適宜報告を受け、審議・監督するガバナンス体制としております。

## 戦略

当社グループは、社会（地域社会）への貢献を中心に据えた基本方針を策定し、またステークホルダーを意識したマテリアリティ（重要課題）を特定しました。サステナビリティの取組みを誠実に積み上げていくことで、社会課題の解決に寄与し、社会と当社が持続的に成長していく循環の構築を目指しております。

マテリアリティ	関連するステークホルダー	関連するValues	マテリアリティ達成のための取組み
さらなる100年に向け変革を重ね 選ばれつづける会社へ	お客さま 株主の皆さま 社会 従業員	チャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話（傾聴）を重視し、お客さまとご家族との関係強化</li> <li>ゴールベースアプローチ型営業の徹底</li> <li>プラットフォームビジネスの強化により、顧客基盤拡大</li> </ul>
ステークホルダーとの対話に努め より信頼される存在へ	お客さま 株主の皆さま 社会 従業員	リレーションシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な開示による透明性の確保</li> <li>ステークホルダーの皆さまとの継続的・長期的な対話の促進</li> </ul>
金融リテラシー教育を通じて 安心できる暮らしの実現へ	お客さま 社会	リレーションシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>世代に合わせた金融リテラシー教育の実施</li> <li>社会人向けの資産形成・資産承継等セミナーの実施</li> </ul>
社会の一員として 使命感を持つ伴走者へ	お客さま 社会	プロフェッショナルリズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域金融機関・教育機関・地方自治体との連携強化</li> <li>「Aizawa One-stop Solution」をベースとし、お客さまに寄り添ったコンサルティングの提供</li> <li>地域に根差した貢献活動の積み上げ</li> </ul>
環境と調和のとれた地域社会を次世代へ	社会	チームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会の環境の保全</li> <li>脱炭素社会へ向けた革新的技術などへの投資</li> </ul>
互いの価値観に敬意を持ち 自律的成長を支援できる会社へ	従業員	チームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事ビジョンの策定、「働きがい」と「働きやすさ」の両立</li> <li>キャリア・デベロップメント・プログラム（CDP）</li> <li>階層別研修の強化</li> </ul>

## リスク管理

当社グループはリスク管理基本方針及びリスク管理規程のもと、全社的なリスクについて、リスクの把握・評価と必要に応じた定性・定量それぞれの面からの適切な対応を行うため「リスク管理委員会」を設置し、総合的なリスク管理を実施しております。重要なリスクは経営会議の協議を経て取締役会へ報告し、監督する体制としております。

サステナビリティに係る様々なリスクについても、将来の不確実性を高める要素と捉え、既存のリスク管理プロセスへの反映を検討しております。

## (2) 気候変動に関する事項

気候変動がビジネスに与える影響は徐々に拡大していると認識しており、当社グループは気候変動に係る対応を経営上の重要課題と位置づけております。TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言へ賛同し、当社グループの事業に影響を及ぼす気候変動のリスクと機会を把握した上で、情報開示を行っております。

## 戦略

### < 気候変動が当社グループの事業に及ぼすリスクと機会 >

TCFD提言に基づき、全社を対象として気候変動リスク・機会による事業インパクト、対応策の検討に向けたシナリオ分析を行いました。

2 未満及び4 の気温上昇時の世界を想定し、2023年度より将来までの間に事業に影響を及ぼす可能性がある気候関連のリスクと機会の重要性、また気候変動リスク・機会に対する当社戦略のレジリエンスを評価しました。

## 移行リスク

リスク/ 機会-要素	リスク 種類	リスク	機会の 種類	機会	評価	影響	ビジネス・戦略 ・財務等への影響	
							2 シナリオ	4 シナリオ
開示規則	政策・ 法規制	情報開示 範囲の拡大 に伴う開示漏れ	市場	情報提供機 会の増加に よるレピュ テーション 向上	大	当該リスクへの対策コ スト等が発生するため 当社業績への影響度は 高いと考えられます。	大	大
	政策・ 法規制	炭素税の 導入や新 たな法規 制の制定	市場	各種規制等 の対応に よるレピュ テーション 向上	中	当該リスクへの対策コ スト等が発生し、当社 への中規模のリスクが あると考えられます。	小	小
次世代技術	技術	炭素技術 の進展に よる金融 サービス の普及	製品サ ービス	新たな金融 商品サ ービスの 提供	中	当該リスクへの対策コ スト等が発生し、当社 への中規模のリスクが あると考えられます。	小	小
電力/ 石油価格	市場	電力・石 油価格高 騰による 消費者行 動の変化	市場	投資行動の 抑制	大	顧客の投資活動が消極 的になり、各種手数料 収入が減少するため当 社業績への影響度は高 いと考えられます。	大	大
	評判	気候変動 の取組に よるレピ ュテーシ ョンへの 影響	市場	売買高の減 少 株価下落	中	当該リスクへの対策コ スト等が発生し、当社 への中規模のリスクが あると考えられます。	大	小
ステーク ホルダーの嗜 好変化	評判	ステーク ホルダー からの批 判	市場	売買高の減 少 株価下落	中	当該リスクへの対策コ スト等が発生し、当社 への中規模のリスクが あると考えられます。	中	小

## 物理的リスク

リスク/ 機会-要素	リスク 種類	リスク	機会の 種類	機会	評価	影響	ビジネス・戦略 ・財務等への影響	
							2 シナリオ	4 シナリオ
自然災害の 増加 (豪雨、地 震等)	急性	店舗やイ ンフラの 被害による 業務の停 止	製品サ ービス	グリー ンファイ ナンス市 場の拡大 による投 資機会の 増加	大	顧客の投資活動が消極 的になり、各種手数料 収入が減少するため当 社業績への影響度は高 いと考えられます。	小	大
感染症のま ん延	慢性	外出自粛 による生 活スタイル の変化	製品サ ービス	オンライ ン取引の 増加	大	顧客の投資活動が消極 的になり、各種手数料 収入が減少するため当 社業績への影響度は高 いと考えられます。	中	大

<シナリオ分析>

《 2 程度の気温上昇シナリオ》

2100年時点において、産業革命時期比で2 程度の気温上昇に抑制されるシナリオ。

気候変動対応が強められ、政策規制、市場、技術、評判等における移行リスクが高まる。

顧客の投資に対する志向が変化し、企業の気候変動対応が強く求められ、未対応の場合は、顧客流出やレピュテーションリスク上昇が発生するなど、移行リスクは高まると推測。一方、気候変動による災害の激甚化や増加が一定程度抑制されるなど、物理的リスクは相対的に低いと推測。

《 4 程度の気温上昇シナリオ》

産業革命前の水準から気温上昇が4 程度まで上昇するシナリオ。

自然災害の激甚化、海面上昇や異常気象の増加等の物理的リスクが高まる。

この影響により、BCP対応が整備されている企業の競争力は高まるものと想定。

		項目	2 シナリオ	4 シナリオ
移行リスク	市場	顧客ニーズの変化	サステナブルな社会の実現のため、気候変動への対応から環境関連商品への需要が高まると思われる	環境関連商品への興味関心度が増す
		環境関連商品の取扱い	グリーンボンドやサステナビリティ商品の拡充	環境関連商品への興味関心度が増す
		電力コストの上昇	24.9円/kWh	13円/kWh
物理リスク	慢性	年平均気温の上昇	約1.4 上昇	約4.5 上昇
		猛暑日の年間数	約2.8日増加	約19.1日増加
		日降水量200mm以上の年間日数	約1.5倍に増加	約2.3倍に増加
	急性	1時間降水量50mm以上の頻度	約1.6倍に増加	約2.3倍に増加
		台風の激甚化	台風の強度が高まる	猛烈な台風の発生頻度が増える

電力コストについては、（公財）地球環境産業技術研究機構「2050年カーボンニュートラルのシナリオ分析」を参照

物理リスクについては、文部科学省・気象庁「日本の気候変動 2020 -大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書-」を参照

シナリオに基づく財務影響

	シナリオ	炭素価格(ドル) 1、2	為替	炭素価格 (円/t-CO2)	炭素税の年間負担額 (百万円/年) 3
2030年	2	130	130	16,900	2.9
	4	100		13,000	2.2
2050年	2	250		30,000	5.1
	4	160		19,200	3.2

1 IEA「World Energy Outlook 2021」B.2 CO2 prices Net Zero Emissions by 2050「Advanced economies」の数値を参考

2 IEA「Net Zero by 2050」A Roadmap for the Global Energy Sector Table 2.2 CO2 prices for electricity, industry and energy production in the NZE「Advanced economies」の数値を参考

3 2030年3月期：CO2排出量は約169t-CO2、\$1=130円で試算

シナリオ分析を踏まえた気候変動に対する対応策の検討

項目	対応策
環境基準への対応	社用車やバイク（リースを含む）等の電気自動車への転換や、事務所で使用する電力の再生可能エネルギー等への切替を行う。
環境関連開示の義務拡大	環境関連開示に適切に対応し、その他の非財務情報の開示も充実を図ることで、当社のESG評価を向上させる。
顧客ニーズの変化	グリーンボンドやサステナビリティ商品等の環境関連商品の取扱いを行う。
新たな成長分野への投資	ベンチャー企業や環境関連ビジネス、プロジェクトへの投資を行う。
平均気温や海面の上昇等、それらによってもたらされる自然災害等、異常気象の激甚化	顧客とのコミュニケーションを最優先に図るため、WEBや電話等の各種ツールを活用し、当社が強みとする対面での様々な活動が円滑に継続できるような体制を構築する。

指標及び目標

2025年度の温室効果ガス排出量は、Scope1（自社が直接排出する排出量）は、284t-CO2、Scope2（他社から供給された電気等の使用に伴う排出量）は、517t-CO2でした。

当社グループは、気候変動が社会の喫緊の課題であると認識し、温室効果ガス削減や省エネルギー化を実践してカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでおります。

持続可能な社会の実現に向けて、Scope1、2について、2030年度末までにグループ全体のCO2排出量の40%削減（2021年度比）、2050年度末までに排出量の実質ゼロ達成を目標としております。

GHG排出量（単位：t-CO2）

	2021年度	2025年度	目標
Scope1 （社用車等の使用に伴う直接排出）	251.6	284.0	< 2030年度 > 2021年度比40%削減
Scope2 （店舗等の電力使用に伴う間接排出）	806.3	517.8	< 2050年度 > 排出量ゼロ

< 環境長期目標の実現に向けて >

温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーへの切替やガソリン使用車から電気自動車への転換、カーボンオフセットの活用等を実施・検討してまいります。

また、再エネや省エネ等の着実な低炭素化（トランジション）や脱炭素化に向けた革新的技術（イノベーション）への投資等、グリーン成長戦略のもと、省エネ関連産業を成長分野にするべくESG投資も行ってまいります。

(3) 人的資本に関する事項

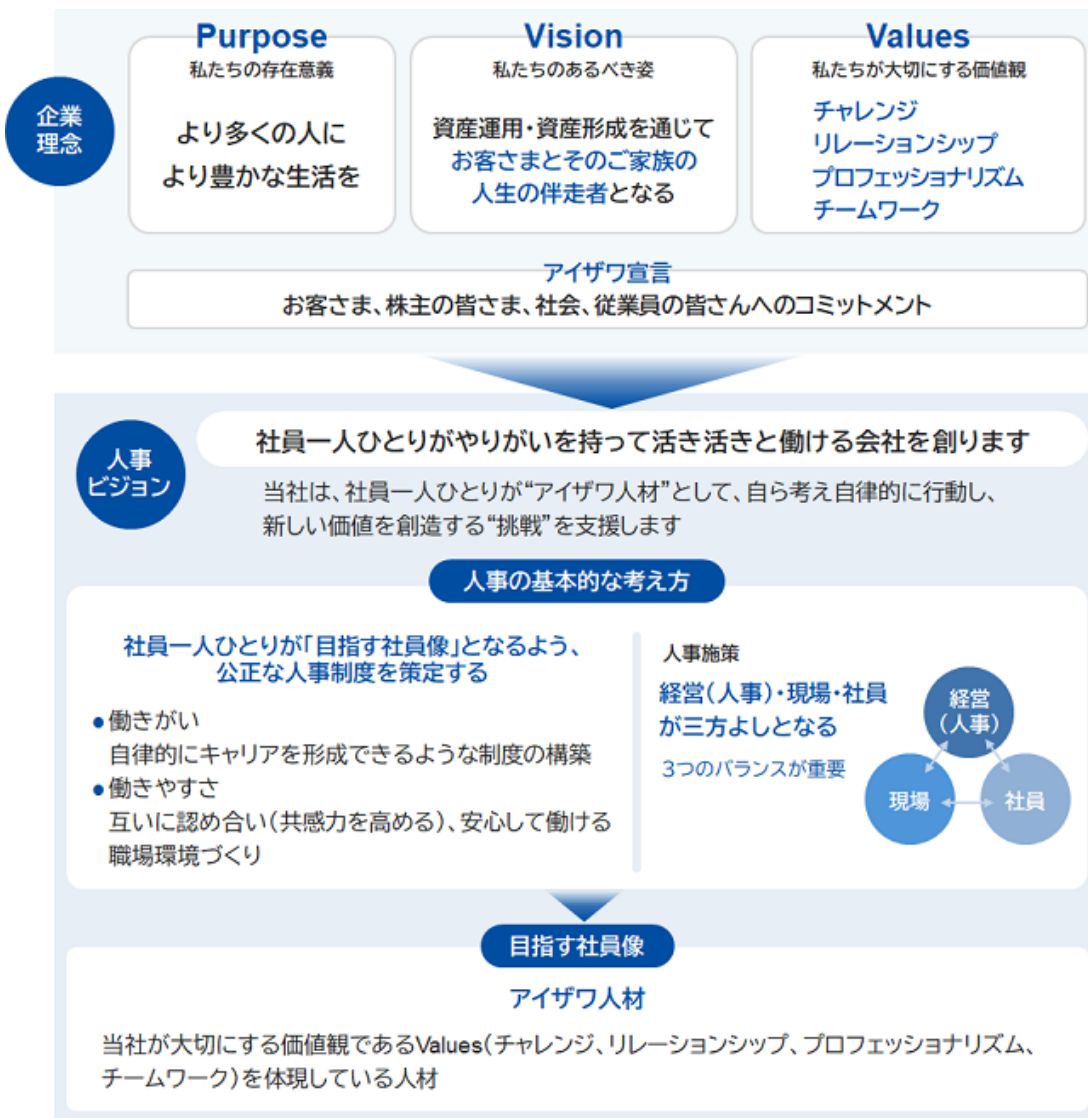
当社グループは、人的資本投資を当社グループが取り組むべき重点課題と位置づけており、中期経営計画において経営機能強化策の一つとして「人的資本投資の取組強化」を掲げるとともに、2026年4月に人事ビジョンを策定しました。パーパス・ビジョン・バリューと「アイザワ宣言」を踏まえた人事ビジョンのもと、持続的な成長と中長期的な企業価値向上のため、各種人事施策を推進しております。

[人事ビジョン]

社員一人ひとりがやりがいを持って、生き活きと働ける会社を創る

戦略

当社グループは、社員一人ひとりの成長と活躍が企業価値向上の源泉であるという考えのもと、社員（ヒト）を人的資源（コスト）とみるのではなく人的資本（投資）とみなし、人事ビジョンを策定しました。自律的にキャリアを形成できるような制度の構築により働きがいを高め、互いに認め合い（共感力を高める）、安心して働ける職場環境づくりにより働きやすさを向上させる公正な人事制度を策定し、経営（人事）・現場・社員が三方よしとなる人事施策を推進しております。これにより、社員一人ひとりが“アイザワ人材（私たちが大切にしている価値観であるValuesを体現している人材）”として、やりがいを持って生き活きと働ける会社創りに努めております。



[ 人材育成方針 ]

中期経営計画において人的資本投資は当社グループが取り組むべき重点課題と位置づけ、持続的な成長と中長期的な企業価値向上のため、自発的に行動し変化に対応できる人材の育成に努めております。社員の自律的成長を中長期的に支援するキャリア・デベロップメント・プログラム（CDP）を中心とした人材育成により、個人の適性・希望を考慮し、能力開発やキャリア開発をサポートしております。社員の能力を最大化し、自主性を重んじることで働きがいを高め、会社の成長を担う優秀な人材を育成してまいります。また、多様な人材の育成のため、研修等の実施や人事交流の活発化、キャリア選択の多様化等の施策を推進してまいります。

[ 社内環境整備方針 ]

社員の会社への愛着度（エンゲージメント）を重視し、定期的に全社員を対象とした調査を実施しており、活き活きと働ける環境整備を推進しております。男女問わずワーク・ライフ・バランスを実現できる職場環境を目指し、育児・介護休業の取得促進やライフプラン・ライフステージの変化に応じて選択できる着脱式のエリア限定制度の運用等、働きやすさを高める施策を実行し、エンゲージメントの向上に取り組んでまいります。また、社員の健康保持増進に取り組み、健康診断受診100%、人間ドック受診等の補助を通じ、健康経営を推進してまいります。

< 多様な人材の活躍 >

当社グループは、社員（人材）を会社の重要な財産（人財）と捉え、年齢、性別、国籍、人種、役職、働き方等の属性に偏ることなく多様性を認め、能力や実績を重視し、人物本位の採用及び登用を行っております。また、仕事と家庭の両立を支援するとともに、働きやすい環境をつくることによって、すべての社員がその能力を十分に発揮できるよう雇用環境の整備を行っております。

管理職への登用については、性別や国籍、採用方法等に関係なく、能力、スキル、経験、適性等を総合的に判断しております。現時点では、女性・外国人・中途採用者の社員に占める割合が低く、当社はこれを課題と認識しております。当社グループの持続的な成長のために積極的に女性の採用を行ってまいります。

女性の管理職登用については、社員一人ひとりが自らのキャリアを継続し成長できる環境を整備し、各種研修等の充実に取り組んでおります。

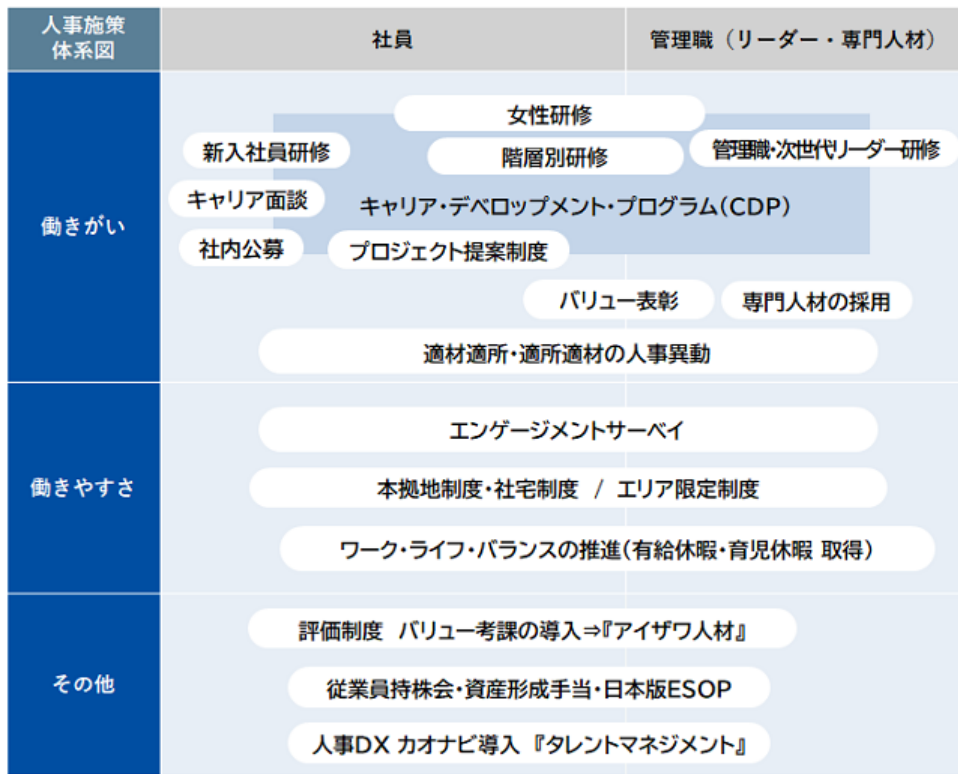
なお、中核子会社であるアイザワ証券株式会社では、女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定（2段階目）、次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん」認定を取得しております。

< ファイナンシャル・ウェルネスに関する取組み >

当社グループでは、社員のファイナンシャル・ウェルネスを支援するため、確定拠出年金（DC）継続教育プログラムにてeラーニングやセミナー等を提供し、DCへの理解や資産形成への知識を深める取組みを行っております。

また、従業員持株会を設け、当社株式購入時の奨励金を支給するほか、子会社のアイザワ証券株式会社を通じて、同社で取り扱う国内外の株式や投資信託、ラップ商品等の金融商品の購入を可能とするとともに、購入条件に応じた資産形成手当を支給しております。

さらに、従業員向けインセンティブ・プラン（日本版ESOP）として株式交付制度を2019年から導入しており、社員の資産形成に対する支援に積極的に取り組んでおります。



指標及び目標

当社グループでは、上記「戦略」において記載した人材育成方針・社内環境整備方針について、次の指標を用いております。当該指標に関する目標及び実績は次のとおりであります。

指標	2027年度達成目標	2025年度実績
女性管理職比率	15%以上	15.0%
エンゲージメントスコア	80%以上	75.8%

エンゲージメントスコア：当社グループのエンゲージメント調査において、アイザワ証券グループに愛着や誇りを感じる、もしくはやや感じると回答する割合

3 【事業等のリスク】

当社グループの事業その他に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項についても、投資者の判断上重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。本項においては将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末において判断したものであります。

(1) 事業関連について

主要な事業の前提に係るリスク

当社グループでは、主要な事業活動である金融商品取引業務につき、金融商品取引法に基づく金融商品取引業の登録（登録番号関東財務局長(金商)第3283号）を受けております。金融商品取引業者は、金融商品取引業又はこれに付随する業務に関し、法令又は法令に基づく規定に違反した時は、登録又は認可の取消し、一定期間の業務停止又は何らかの改善命令を受ける可能性があります。現時点において当社グループはこれらの取消事由に該当する事実はないと認識しております。しかしながら、将来何らかの事由により登録等の取消しを命じられた場合には、当社グループの主要な事業活動に支障をきたすとともに、当社グループの業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

#### 市場の縮小に伴うリスク

株式・債券相場下落又は低迷により、流通市場の市場参加者が減少し、売買高や売買代金が縮小する場合、あるいは発行市場において計画の延期や中止が行われた場合、当社グループの受入手数料が減少する可能性があります。このような場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 相場の急激な変動に伴うリスク

当社グループでは、自己勘定で市場リスクを内包するトレーディングを行っておりますので、株価・債券価格・金利・為替その他市場価格等の変動により当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 競合によるリスク

当社グループが属する金融商品取引業界においては、株式の売買委託手数料の自由化、規制緩和に伴う他業態からの新規参入等をはじめとした環境変化が進行しております。とりわけ、近年においては、オンライン取引に特化した金融商品取引業者の台頭、銀行の金融商品取引仲介業の解禁等もあり、当業界を取り巻く環境は年々厳しさを増す傾向にあります。そのため、このような事業環境の中で、競争力を低下させた場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 業務範囲の拡大に伴うリスク

当社グループは株式市況に過度に依存しない収益体質を構築するため、金融商品取引業務以外の金融関連業務を行うことを目的として、投資事業組合や匿名組合等への投資並びに新規業務を行っております。これらの投資及び新規業務への開始に際してはその採算性等について十分な検討を行っておりますが、投資先の事業及び新規業務が計画的に遂行できなかった場合等においては、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 財務関連について

#### 信用取引に伴うリスク

信用取引においては、顧客への信用供与が発生し、市況の変動によっては顧客の信用リスクが顕在化する可能性があります。株式相場の変動等により、担保となっている有価証券等の価値が低下した場合等、各顧客に追加で担保の差し入れを求める場合があります。顧客が追加担保の差し入れに応じない場合には、担保となっている代用有価証券を処分いたしますが、株式相場が急激に変動し、顧客への信用取引貸付金を十分に回収できない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

なお、取引所取引における先物取引及びオプション取引（売建て）につきましても類似のリスクがあります。

#### 固定資産の減損に関するリスク

当社グループが保有する固定資産について、資産の収益性低下等により投資額の回収が見込めなくなる可能性があります。これに伴い「固定資産の減損に係る会計基準」に規定される減損損失を認識するに至った場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

#### 年金債務に関するリスク

当社グループの退職給付費用及び債務は、割引率等数値計算上で設定される前提条件に基づいて算定されております。実際の結果が前提条件と異なる場合、又は前提条件が変更された場合には、将来期間において認識される費用及び計上される債務に影響を及ぼします。

### (3) 資金調達について

当社グループは事業の特性上、日常業務の遂行に必要な大量の資金を機動的かつ安定的に調達する必要があります。このため、長期・短期借入金といった安定的な資金調達に加えて、金融機関との間にコミットメントラインを設定する等、資金調達手段の多様化を図っております。また、調達による借換リスクを低減させるため、資金調達源の分散を図っております。ただし、経済情勢やその他の要因により、当社グループの経営成績及び財政状態が悪化した場合には、金融市場、資本市場等からの資金調達が困難となる、もしくは資金調達コストが上昇する可能性があります。

(4) 法的規制等について

当社グループは、金融商品取引法その他、各金融商品取引所、日本証券業協会等の自主規制機関による法令・諸規則等に従って業務を遂行しておりますが、将来的に当社業務に係る法令・諸規則や実務慣行、解釈等の変更が当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 自己資本規制比率について

金融商品取引業者は、金融商品取引法及び金融商品取引業等に関する内閣府令に基づき、自己資本規制比率を120%以上に維持することが求められております。万一、定められた自己資本規制比率を維持できない場合は業務停止や金融商品取引業者の登録の取消しを命じられる可能性があります。そのため、当該比率が低下した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 法令遵守に関するリスクについて

当社グループは法令遵守（コンプライアンス）体制の整備を経営の最重要課題として位置付け、内部統制の整備を図り、より充実した内部管理体制の確立と役職員の教育・研修等を通じた意識徹底に努めております。こうした内部統制の整備やコンプライアンス研修は、役職員の違法行為を未然に防止するための有効な方策ではありますが、違法行為の全てを排除することを保証するものではありません。また、役職員による意図的な違法行為は、総じて周到に隠蔽行為がなされ、長期間にわたって発覚しないケースもあり、将来において当社グループの業績に影響を及ぼすような損害賠償を求められる可能性もあります。このほか、非公開情報の不適切な使用・漏洩・情報受領者と共謀等の不正行為の可能性もあります。これらの不正行為は、会社の使用者責任及び法的責任等を問われることもあり、場合によっては監督官庁より種々の処分・命令を受ける可能性があります。また、当社グループの社会的な信用が低下する可能性もあります。かかる事態の発生により、当社グループが損失（若しくは得べかりし利益の逸失）を被り、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 訴訟等について

顧客に対する説明不足あるいは顧客との認識の不一致などによって、顧客に損失が生じた場合には、当社グループが訴訟の対象となる可能性があります。万一、訴訟等に発展し、当社の主張と異なる判断がなされた場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。なお、現在係争中の訴訟案件につきましては当社グループの経営に重大な影響を及ぼす可能性は低いと考えております。

(8) その他

システムに関するリスク

当社グループが提供するインターネット取引システム及び当社が業務上使用するコンピューターシステムが、回線の不具合、外部からの不正アクセス、災害や停電時の諸要因によって障害を起こした場合、障害規模によっては当社業務に支障をきたし、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

情報セキュリティに関するリスク

当社グループでは「リスク管理委員会」を組織し、「情報セキュリティ管理規程」及び「情報セキュリティマニュアル」等を制定し、情報漏洩防止体制等管理体制の強化を図っておりますが、万一、顧客情報を含む社内重要事実が社外に不正流出した場合、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。当社グループといたしましては、さらに技術的、人的安全管理措置等、顧客情報の管理を図ってまいります。

業務処理におけるリスク

有価証券の受発注に関しましては、入力項目の確認等を励行しているほか、システム上の画面表示も注意喚起する等事故防止策が図られております。さらに、約定代金及び売買単位が多量になる場合には、システム的に一定の権限を付与された者以外は入力できないシステムとなっております。しかし、万一入力項目を誤って入力し、約定が成立した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 人材の確保及び育成について

当社グループは常に質の高い投資情報サービスを提供し、お客様の満足度の向上を実現できる人材の確保並びに育成が重要な経営課題と捉えております。この観点から、新規採用及び中途採用の両面から積極的に人材を採用し、かつ社内研修の充実度を高めていく方針であります。しかしながら、当社グループが必要とする人材が確保できなかった場合には、当社グループの経営成績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

#### 業務の外部委託について

当社グループは、業務の効率化を図るため、業務の一部を他社へアウトソーシングしております。これらの業務委託先がシステムの故障、処理能力の限界又はその他の理由によりサービスの提供を中断又は停止し、適時に代替策を講じることができない場合には、当社グループの顧客へのサービスの提供が途絶し、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

当社グループといたしましては、他社へアウトソーシングした業務を管理し、一部の業務では外部委託先の内部統制について独立監査人の報告書入手する等のモニタリングを実施しております。

#### 自然災害等について

当社グループの証券事業を営むアイザワ証券株式会社の営業拠点は、東京近郊、東海及び関西に集中していますが、一般的に他の地域と比較して地震の頻度が多いため、それに伴う被害も受けやすい地域であるといえます。

また、大規模な地震、津波、台風、噴火等の自然災害による直接的な影響のほか、これらに起因する社会的インフラへの影響、また、コンピューター・ウィルス、テロ攻撃といった事象などにより、同様の混乱状態に陥る可能性があります。

これらの災害等により、金融商品取引に関するインフラ等への物理的な損害、従業員への人的被害並びにお客様への被害等があった場合、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### 気候変動等に係るリスクについて

気候変動に係るリスク及び収益機会が事業活動や収益等に与える影響につきましては、今年度より新たに策定した中期経営計画において、当社が取り組むべきマテリアリティ（重要課題）として認識しております。一方、当社グループにおける各事業活動や収益等に与える影響は小さく、また事業活動による環境への負荷も小さいと想定しております。今後、必要なデータの収集・分析を行い、TCFD等の国際的に確立された枠組みに基づいて適切に開示することを検討してまいります。

## 4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日まで）において、世界の株式市場は米国のトランプ政権による相互関税やイラン戦争の長期化に関する懸念で相場が調整する局面もありましたが、堅調な米国経済や歳出・減税法案の成立、FRB（米連邦準備制度理事会）による利下げ再開、欧州・中国の金融緩和・財政出動等を追い風に株高基調を維持しました。

米国株式市場は、生成AI関連の設備投資拡大・イノベーション加速を背景に半導体やクラウド関連企業に対する物色が強まり、ダウ工業株30種平均やS&P500種、ナスダック総合等主要株価指数は史上最高値を更新しています。生成AIツールの台頭やプライベートクレジット問題、イラン戦争等のリスク要因が一時意識されましたが、底堅い雇用情勢と個人消費、半導体を中心とした好調な企業業績を背景に株価の上昇が続いています。

国内株式市場は、2025年4月に発表された米国の相互関税をきっかけに日経平均株価が急落した後、米国との関税合意や生成AI関連の設備投資拡大、高市政権の誕生を背景に株価の上昇が加速し、史上最高値を更新しています。国内景気は米国の相互関税と中国との関係悪化、中東情勢緊迫化等の逆風が想定されるものの、高市政権による積極財政政策や企業の賃上げ、日銀の追加利上げ等によって経済は好循環に入るとの期待が高まっています。

アジア株式市場は、世界的な生成AI関連の設備投資拡大を背景に、半導体・電子部品に強みを持つ韓国と台湾の株高が目立ったほか、輸出が好調なベトナムと金融緩和・財政出動を強化している中国（香港）の株価も上昇基調を維持しました。その中で韓国総合指数と台湾加権指数、ベトナムVN指数は史上最高値を更新し、米国から広がる国際分散投資の受け皿となっています。アジア各国の景気はまだら模様であるものの、新興産業の成長や景気支援に対する期待が株価の追い風となっています。

このような環境のもと、当社グループは2025年4月に企業理念を刷新し、パーパス（私たちの存在意義）「より多くの人に より豊かな生活を」、ビジョン（私たちのあるべき姿）「資産運用・資産形成を通じて お客さまとご家族の人生の伴走者となる」、バリュー（私たちが大切にしている価値観）としてチャレンジ・リレーションシップ・プロフェッショナルリズム・チームワークを定めるとともに、ステークホルダーの皆さまに対するコミットメント（約束）として「アイザワ宣言」を策定しました。

また、新企業理念に基づき、2026年3月期から2028年3月期までの3年間を計画期間とする中期経営計画「資産運用・資産形成を通じて お客さまとご家族の人生の伴走者となる」を策定しました。事業戦略として証券事業の変革・投資事業のグレードアップ・運用事業の再構築を掲げ、安定的にROE目標（8%以上）を達成できる事業構造・収益構造への抜本的な変革を進めております。中期経営計画の1年目となる当期は、証券事業においてゴールベースアプローチ（GBA）型営業の徹底というきわめて大きな改革を実行し、収益構造の転換が着実に進展しました。

当社グループは、証券事業を主軸とし、投資事業、運用事業を展開しております。各事業における取組みは以下のとおりです。

#### [証券事業]

証券事業を営むアイザワ証券株式会社は、収益構造の安定化に向けた改革を実行しております。全社一丸となってGBA型営業を推進しており、お客さまとご家族の不安を解消（安心を提供）し、ライフプランの実現に向けて伴走支援しております。GBA型の営業スタイルを確立するため、2025年4月より一部の店舗を試行店として展開し、お客さまとご家族と着実に対話を重ねております。2026年4月より全店展開することで、さらなるGBA型営業の徹底を図っております。このGBA型営業を通じて、ストック商品（投資信託とラップ商品）の残高積上げに注力し、相場環境に左右されにくい安定的な収益構造の実現を目指しております。2026年3月末時点で総預り資産2兆3,855億円（前年度末比4,193億円増）、うちストック商品預り資産5,639億円（同1,406億円増）となりました。

プラットフォームビジネスにおいては、ライフプランの実現に向けて伴走者を必要とするお客さまを有する、金融商品販売を本業としない金融商品仲介業者（IFA業者）や預金金融機関と連携し、対面証券ならではの手厚いサポートを提供しております。資産形成層のお客さまの積立投資口座の獲得と積立金額の増加に取り組んでおり、顧客基盤の拡大を図っております。2026年3月末時点でプラットフォームビジネスにおける預り資産3,657億円（同926億円増）、うちストック商品預り資産1,377億円（同498億円増）となりました。プラットフォームビジネスの拡大に伴い、販売費・一般管理費が増加しておりますが、資産形成層のお客さまへアプローチする重要なチャネルであるため、引き続き本ビジネスの強化に取り組んでまいります。

当期の証券事業における業績は、好調な相場環境により株式委託手数料が増加し、またストック商品預り資産残高の伸長により信託報酬が増加した結果、営業収益201億27百万円（前年度比12.6%増）、営業利益10億54百万円（同313.2%増）、税引前利益8億67百万円（同139.4%増）となりました。

#### [投資事業]

投資事業を営むアイザワ・インベストメンツ株式会社は、国内外の成長企業や、配当金を含め安定的な期待収益が見込める企業等、中長期投資を基本に上場有価証券への投資を行っております。また、有望なベンチャー企業へ投資し、将来的な上場へ向けてサポートを行っているほか、ベンチャーキャピタルファンドやプライベートエクイティファンド、プライベートデットファンド等への投資を行っております。国内不動産に対する直接投資も行い、主に首都圏においてレジデンスを中心に物件を保有し、賃料収入による収益を得ております。

当社グループにおいて、投資事業は連結業績の安定化と資産収益性向上に貢献する重要な事業と位置付けており、運用成績を中期的に極大化することを最重視し、それを目的としたポートフォリオ運用、リスク管理及びパフォーマンス評価を行っております。

当期の投資事業における業績は、前年度に計上した投資先ファンドからの収益（分配金等）が減少したことにより、営業収益が前年度比65.4%減の8億32百万円となりました。また、非上場資産に投資するファンドの評価損や営業投資有価証券の減損損失の計上により、7億22百万円の営業損失となりました。一方で、投資有価証券の売却損益は一定水準の利益を確保したため、税引前利益は25億58百万円（同37.3%減）となり、連結純利益の確保に寄与しました。

## [ 運用事業 ]

運用事業を営むあいざわアセットマネジメント株式会社は、「日本で最も投資家に求められるオルタナティブ資産運用会社」になることを目標に掲げ、プライベートエクイティのセカンダリー投資を中心とするオルタナティブ資産の運用を行っております。

当期の運用事業における業績は、営業収益 1 億94百万円（前年度比54.0%減）、ヘッジファンド事業の撤退に伴う費用増加により営業損失 3 億64百万円、税引前損失 3 億43百万円となりました。

アイザワ証券グループは、2024年10月に社債に係る発行登録を行い、2024年10月28日（効力発生日）から2026年10月27日までの2年間で上限300億円の社債を発行する予定です。本社債発行は、資金調達手段の多様化による財務安定性の向上を企図し、当社グループの将来の成長に必要な資金を機動的に調達できる体制を構築することを目的としております。

これからも当社は、グループ各社がそれぞれの強みを発揮することで、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に努めてまいります。

### 財政状態及び経営成績の状況

#### a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は1,243億24百万円と、前連結会計年度末に比べ147億95百万円の増加となりました。

当連結会計年度末の負債合計は738億37百万円と、前連結会計年度末に比べ119億 8 百万円の増加となりました。当連結会計年度末の純資産合計は504億86百万円と前連結会計年度末に比べ28億87百万円の増加となりました。

#### b. 経営成績

当連結会計年度の経営成績は、営業収益は209億73百万円（前年度比1.9%増）、営業利益は26百万円（同98.6%減）、経常利益は 6 億66百万円（同74.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は27億52百万円（同13.2%減）となりました。

#### c. セグメント毎の経営成績

証券事業の営業収益は201億27百万円（前連結会計年度比12.6%増）、セグメント利益は10億54百万円（同313.2%増）となりました。

運用事業の営業収益は 1 億94百万円（同54.0%減）、セグメント損失は 3 億64百万円となりました。

投資事業の営業収益は 8 億32百万円（同65.4%減）、セグメント損失は 7 億22百万円となりました。

上記のセグメント別営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高が含まれており、セグメント利益は連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ92億13百万円増加し、223億75百万円となりました。当連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は45億 3 百万円となりました。これは主に預り金の増加、信用取引負債の減少によるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は34億70百万円となりました。これは主に投資有価証券の取得、投資有価証券の売却によるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は11億56百万円となりました。これは主に短期社債の発行、短期社債の償還、配当金の支払によるものです。

トレーディング業務の概要

トレーディング商品：当連結会計年度末のトレーディング商品の残高は以下のとおりです。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部のトレーディング商品(百万円)	347	135
商品有価証券等(百万円)	347	135
株式・ワラント(百万円)	121	20
債券(百万円)	226	115
受益証券等(百万円)	0	0
負債の部のトレーディング商品(百万円)	24	48
商品有価証券等(百万円)	24	48
株式・ワラント(百万円)	24	48

トレーディングのリスク管理：

トレーディング業務は、市況の変化に影響を受けやすく、取引商品の多様化並びにマーケットリスクが複雑化しておりますので、リスク管理は極めて重要と認識しております。当社グループのリスク管理の基本は、財務状況に合せたリスクを適切にコントロールすることであり、このため当社の連結子会社であるアイザワ証券株式会社では「自己計算による売買取引の実施権限に関する規程」を定め、ポジション枠、ロスカットルール、与信枠等の設定をしております。また、リスク管理は、商品部門、営業部門から独立したコンプライアンス部が掌握し、トレーディングポジションの状況は経営者に毎日報告されており、損益と合わせて報告書が月例取締役会に提出され分析・検討が行われております。

また、自己売買に関するポジション管理を目的とした、リスク管理委員会において、多様な取引手法やポジション枠の増加につきリスクをより正確に把握、監視する体制としております。

生産、受注及び販売の実績

当社グループは、金融商品取引業を営む会社を中核とする企業集団であるため、「生産、受注及び販売の実績」に該当する事項はありません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等

(イ) 財政状態

(資産合計)

当連結会計年度末の資産合計は1,243億24百万円と、前連結会計年度末に比べ147億95百万円の増加となりました。

主な要因は、現金・預金98億34百万円の増加、預託金22億24百万円の増加、投資有価証券33億24百万円の増加によるものです。

(負債合計)

当連結会計年度末の負債合計は738億37百万円と、前連結会計年度末に比べ119億8百万円の増加となりました。

主な要因は、信用取引負債23億68百万円の減少、預り金70億37百万円の増加、短期社債60億85百万円の増加によるものです。

(純資産合計)

当連結会計年度末の純資産合計は504億86百万円と前連結会計年度末に比べ28億87百万円の増加となりました。

主な要因は、利益剰余金3億12百万円の減少、その他有価証券評価差額金32億6百万円の増加によるものです。

(ロ) 経営成績

(営業収益)

当連結会計年度の営業収益は209億73百万円(前年度比1.9%増)となりました。営業収益のおもな内訳は次のとおりです。

1) 受入手数料

当連結会計年度の受入手数料は、167億13百万円(同17.8%増)となりました。科目別の概況は以下のとおりです。

) 委託手数料

委託手数料は株式委託取引の増加により、72億12百万円(同25.0%増)となりました。

) 引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料

引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料は、国債の取扱いの増加により36百万円(同11.3%増)となりました。

) 募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料

募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料は、投資信託の販売の増加により33億15百万円(同1.2%増)となりました。

) その他の受入手数料

その他の受入手数料は、投資信託報酬の増加等により、61億49百万円(同20.2%増)となりました。

2) トレーディング損益

当連結会計年度のトレーディング損益は、24億74百万円(同18.2%減)となりました。科目別の概況は以下のとおりです。

) 株券

外国株国内店頭取引売買代金の減少により、20億78百万円(同17.2%減)となりました。

) 債券

外国債券の取扱いに伴う収益の減少により、1億22百万円(同29.3%減)となりました。

) その他

外国為替取引から生じる損益の減少等により、2億73百万円(同19.9%減)となりました。

3) 金融収益

金融収益は受取利息の増加等により9億75百万円(同10.1%増)となりました。

金融費用は支払利息の増加等により1億20百万円(同21.0%増)となりました。これにより、金融収支は8億54百万円(同8.8%増)となりました。

4) その他の営業収益

その他の営業収益は営業投資有価証券売上高の減少等により8億10百万円(同67.4%減)となりました。

なお、その他の営業費用は営業投資有価証券売上原価の増加等により9億47百万円(同103.1%増)となりました。

(販売費・一般管理費)

販売費・一般管理費は、取引関係費及び人件費の増加等により、198億79百万円(同9.6%増)となりました。

(営業外損益)

営業外収益は受取配当金4億86百万円、収益分配金2億61百万円等により9億1百万円となりました。営業外費用は支払利息1億14百万円、社債利息1億22百万円等により2億61百万円となりました。これにより営業外損益は6億40百万円の利益(同6.5%減)となりました。

(特別損益)

特別利益は投資有価証券売却益により38億65百万円となりました。特別損失は投資有価証券償還損 2億70百万円等により3億75百万円となりました。これにより特別損益は34億89百万円の利益となりました。

b. 経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループは、2025年4月に策定した中期経営計画において、2026年3月期から2028年3月期までを、お客さまとご家族の資産運用・資産形成の伴走者としてのビジネスモデルを確立し、安定的にROE目標を達成できる事業構造・収益構造に転換する3年間と位置付けております。

中期経営計画の1年目となる当期は、証券事業においてゴールベースアプローチ(GBA)型営業の徹底というきわめて大きな改革を実行しました。相場環境に左右されにくい安定収益の確保に努め、ストック商品(投資信託とラップ商品)預り資産が大きく増加し、収益構造の転換が着実に進展しました。投資事業は、非上場資産の評価損等により営業赤字となりましたが、上場株式の売却利益計上により事業全体としては黒字となり、連結純利益の確保に寄与しました。運用事業は費用増加がありましたが、将来を見据えた事業再構築に尽力しているためであります。引き続き、将来の利益拡大のための改革を実行してまいります。

c. 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、企業理念であるパーパス・ビジョン・バリューと「アイザワ宣言」のもと、2025年4月に策定した中期経営計画において、お客さまとご家族の資産運用・資産形成の伴走者としてのビジネスモデルを確立し、安定的にROE目標を達成できる事業構造・収益構造に転換することを目標としております。この目標の達成状況を判断するための客観的な指標として、連結ROE(自己資本利益率)8%以上、証券事業におけるストック商品預り資産8,000億円以上、総預り資産2兆5,000億円以上、実質ストック収益 実質販管費カバー率40%以上を掲げております。

d. セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

証券事業は株式委託手数料の増加等により、営業収益は201億27百万円(前連結会計年度比12.6%増)、セグメント利益は10億54百万円(同313.2%増)となりました。

運用事業は運用報酬の減少に伴い、営業収益は1億94百万円(同54.0%減)、セグメント損失は3億64百万円となりました。

投資事業は営業投資有価証券売上高の減少に伴い、営業収益は8億32百万円(同65.4%減)、セグメント損失は7億22百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

a. キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

b. 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの事業活動における資金需要の主なものは、信用取引買付代金の顧客への貸付であります。信用取引買付代金は株式市況の変動の影響を受けますが、当社グループは主に日本証券金融株式会社の貸借取引により調達しております。また、不測の事態に備え、安定的かつ機動的な財務運営を行うため、三井住友信託銀行株式会社と総額7億500百万円のコミットメントラインを設定しております。

なお、当連結会計年度における当社グループの借入金の総額は148億61百万円です。借入の内訳は金融機関等からの短期借入金75億12百万円、証券金融会社からの信用取引借入金20億33百万円、金融機関からの長期借入金53億15百万円です。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

この連結財務諸表の作成に当たりまして、決算日における資産・負債の報告数値、報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積りは、主に固定資産の減損会計、税効果会計、貸倒引当金、賞与引当金、役員賞与引当金、退職給付に係る資産、退職給付に係る負債及び法人税等であり、継続して評価を行っております。当社グループの採用した重要な会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」の(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)に記載しております。

なお、見積り及び判断・評価については、過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づき行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

5 【重要な契約等】

(1) 資本業務提携

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約年月日	契約期間	提携内容
提出会社	ファイブスター 投信投資顧問株式会社	東京都中央区	2020年 6月12日	2025年6月12日から 2026年6月11日まで (1年毎の自動更新)	(1) 個人のお客様に対する商品・サービスの提供 (2) 法人・金融機関のお客様に対する商品・サービスの提供 (3) 当社の自己運用の高度化 等

(2) 提出会社が発行する社債に付された財務上の特約

提出会社が発行する下記の社債には財務上の特約が付されており、主な内容は以下の通りです。

a. 社債の発行をし、又はこれらの特約が付された年月日

- ・ 第6回無担保社債：2025年4月23日
- ・ 第7回無担保社債：2025年5月23日
- ・ 第8回無担保社債：2025年6月24日
- ・ 第9回無担保社債：2025年7月25日
- ・ 第10回無担保社債：2025年8月22日
- ・ 第11回無担保社債：2025年9月25日
- ・ 第12回無担保社債：2025年10月24日
- ・ 第13回無担保社債：2025年11月28日
- ・ 第14回無担保社債：2025年12月24日
- ・ 第15回無担保社債：2026年1月28日
- ・ 第16回無担保社債：2026年2月20日
- ・ 第17回無担保社債：2026年3月24日

b. 社債の発行残高及び償還期限並びに社債に付された担保の内容

- ・ 第6回無担保社債  
発行残高：1,000百万円 償還期限：2026年4月22日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第7回無担保社債  
発行残高： 800百万円 償還期限：2026年5月22日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第8回無担保社債  
発行残高： 800百万円 償還期限：2026年6月23日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第9回無担保社債  
発行残高： 800百万円 償還期限：2026年7月24日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第10回無担保社債 (注)  
発行残高： 800百万円 償還期限：2026年8月21日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第11回無担保社債 (注)  
発行残高： 800百万円 償還期限：2026年9月24日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第12回無担保社債 (注)  
発行残高： 800百万円 償還期限：2026年10月23日 社債に付された担保の内容：なし

- ・ 第13回無担保社債  
発行残高： 800百万円 償還期限：2026年11月27日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第14回無担保社債  
発行残高：1,500百万円 償還期限：2026年12月23日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第15回無担保社債  
発行残高：1,500百万円 償還期限：2027年1月27日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第16回無担保社債  
発行残高：1,500百万円 償還期限：2027年2月19日 社債に付された担保の内容：なし
- ・ 第17回無担保社債  
発行残高：1,000百万円 償還期限：2027年3月23日 社債に付された担保の内容：なし

(注)第10回無担保社債、第11回無担保社債及び第12回無担保社債については、発行残高のうち各5百万円を連結子会社であるアイザワ証券株式会社が保有しております。

c. 財務上の特約の内容

各無担保社債に共通して付された財務上の特約の内容

- ・ 提出会社は、期末又は第2四半期末の当社の純資産額を、前年同期末の純資産額の50%以上に維持しなければならない。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施した設備投資の総額は1,068百万円であり、主な内容は、システム改修費用578百万円、賃貸不動産の取得費用157百万円及び店舗移転改修費用309百万円等であります。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

当社の主要な設備は以下のとおりであります。

2026年3月31日現在

店舗名等	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数(名)
			建物	器具備品	土地(面積㎡)	ソフトウェア	その他	合計	
本店(注) (東京都港区)	全社 (共通)	本社機能	167	41	( )	0	11	221	56

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、長期前払費用(前払費用計上分を含む。)であります。

##### (2) 国内子会社

2026年3月31日現在

会社名	店舗名等	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数(名)
				建物	器具備品	土地(面積㎡)	ソフトウェア	その他	合計	
アイザワ証券株	本店(注) (東京都港区)	証券事業	本社機能 営業店舗	8	183	( )	11	662	866	239
	東京スカイツリーイーストタワー支店 (東京都墨田区)	証券事業	営業店舗	18	11	( )			30	14
	町田支店 (東京都町田市)	証券事業	営業店舗	39	7	( )			46	12
	成田支店 (千葉県成田市)	証券事業	営業店舗	30	1	55 (400.96)			87	8
	水戸支店他 (茨城県水戸市)	証券事業	営業店舗	26	11	18 (385.27)		0	57	15
	館林支店 (群馬県館林市)	証券事業	営業店舗	20	2	16 (416.59)		0	39	11
	静岡支店 (静岡県静岡市)	証券事業	営業店舗	29	7	( )			36	21
	掛川支店 (静岡県掛川市)	証券事業	営業店舗 賃貸	55	5	187 (545.42)			249	18
	あべのハルカス支店 (大阪府大阪市)	証券事業	営業店舗	30	5	( )			36	17
五條支店 (奈良県五條市)	証券事業	営業店舗	219	8	9 (201.19)			237	12	

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、借地権、その他の無形固定資産及び長期前払費用(前払費用計上分を含む。)の合計であります。

会社名	店舗名等	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）						従業員数（名）
				建物	器具備品	土地（面積㎡）	ソフトウェア	その他	合計	
アイザワ・インベストメンツ(株)	富士ビル（静岡県富士市）	投資事業	営業店舗	62	0	68 (387.24)			130	
	グランデュオ上馬（東京都世田谷区）	投資事業	賃貸	460		564 (190.91)			1,025	
	ラベルラ柿の木坂（東京都目黒区）	投資事業	賃貸	319		672 (432.39)			992	
	スクエアコート早稲田（東京都渋谷区）	投資事業	賃貸	202	0	406 (349.92)			609	
	グランデュオ富ヶ谷（東京都渋谷区）	投資事業	賃貸	317		560 (385.96)			878	
	メゾン東府中（東京都府中市）	投資事業	賃貸	492	2	1,072 (1,075.56)			1,567	
	T's garden仲町台（神奈川県横浜市）	投資事業	賃貸	383	7	1,239 (608.00)			1,629	
	クレール柏（千葉県柏市）	投資事業	賃貸	303	1	368 (395.18)			673	
	コンフォートグリーン（千葉県市川市）	投資事業	賃貸	222	0	465 (1,021.86)			688	
	パレード（埼玉県蕨市）	投資事業	賃貸	603	4	625 (1,206.60)			1,233	
	甲府駐車場土地（山梨県甲府市）	投資事業	賃貸		0	58 (290.39)			59	
	三島駐車場土地（静岡県三島市）	投資事業	賃貸	0	0	57 (540.31)			57	
	熱海駐車場土地（静岡県熱海市）	投資事業	賃貸			34 (139.87)			34	

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末において計画中有る重要な設備の新設、除却等は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

提出会社及び連結子会社における重要な設備の新設の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

提出会社及び連結子会社における重要な設備の売却、除却の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	198,000,000
計	198,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2026年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2026年6月24日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	39,525,649	39,525,649	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株 であります。
計	39,525,649	39,525,649		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2025年3月14日	8,000,000	39,525,649		8,000		7,863

(注) 自己株式の消却による減少であります。

## (5) 【所有者別状況】

2026年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		16	21	71	59	44	7,880	8,091	
所有株式数(単元)		60,988	7,226	113,978	5,826	351	206,715	395,084	17,249
所有株式数の割合(%)		15.43	1.82	28.84	1.47	0.08	52.32	100.00	

- (注) 1. 自己株式7,573,823株は「個人その他」に75,738単元、「単元未満株式の状況」に23株含まれております。  
 なお、自己株式7,573,823株は2026年3月31日現在の実所有株式数であります。  
 2. 当社において証券保管振替機構名義の株式はありません。

## (6) 【大株主の状況】

2026年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
藍澤不動産株式会社	東京都中央区銀座5 1 4 8	5,046	15.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1 8 1	1,664	5.20
藍澤 卓弥	東京都世田谷区	1,436	4.49
鈴木 啓子	東京都中央区	1,217	3.80
藍澤 基彌	東京都世田谷区	1,159	3.62
株式会社野村総合研究所	東京都千代田区大手町1 9 2	1,000	3.12
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1 8 12	908	2.84
株式会社七十七銀行	宮城県仙台市青葉区中央3 - 3 - 2 0	813	2.54
株式会社SMBC信託銀行(株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	東京都千代田区丸の内1 - 3 - 2	765	2.39
住友不動産株式会社	東京都新宿区西新宿2 - 4 - 1	619	1.93
計		14,630	45.78

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式7,573千株があります。  
 2. 上記の発行済株式より除く自己株式には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として所有する当社株式は含まれておりません。  
 3. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。  
 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 1,664千株  
 株式会社日本カストディ銀行(信託口) 908千株  
 株式会社SMBC信託銀行(株式会社三井住友銀行退職給付信託口) 765千株  
 なお、株式会社日本カストディ銀行(信託口)が所有する908千株には「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として保有する778千株が含まれております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2026年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,573,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,934,600	319,346	
単元未満株式	普通株式 17,249		
発行済株式総数	39,525,649		
総株主の議決権		319,346	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として信託が保有する当社株式778千株(議決権7,787個)が含まれております。  
 2. 当社において証券保管振替機構名義の株式はありません。  
 3. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式23株が含まれております。

【自己株式等】

2026年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アイザワ証券グループ 株式会社	東京都港区東新橋一丁目 9番1号	7,573,800		7,573,800	19.16
計		7,573,800		7,573,800	19.16

- (注) 1. 「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として所有する778,700株につきましては、上記の自己株式等に含まれておりませんが、貸借対照表においては自己株式として処理をしております。  
 2. なお、事業年度末現在の自己株式数は7,573,823株であります。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(譲渡制限付株式報酬)	42,200	55		
保有自己株式数	7,573,823		7,573,823	

- (注) 1. 当期間における保有自己株式には、2026年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。  
 2. 当事業年度及び当期間における保有自己株式数には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託口)が保有する株式数(当事業年度778,700株、当期間765,700株)を含めておりません。

3 【配当政策】

当社の配当に対する基本方針は、株主様への利益還元にあたり、安定的かつ高水準の利益還元を継続的に行うことに努め、具体的には、自己株式取得を含めた連結ベースの総還元性向50%以上の還元を行うこと、また、配当は株主資本配当率(DOE)2%程度を上回ることを目標とし、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

また、当社は、2025年3月期から2028年3月期までの間、普通配当に加えて、以下のとおり特別配当を実施する予定です。

	1株当たり特別配当金		
	中間配当金	期末配当金	年間配当金
2025年3月期	35円	35円	70円
2026年3月期	35円	35円	70円
2027年3月期	35円	35円	70円
2028年3月期	35円	35円	70円

(注) 上記の特別配当の金額は、2024年4月26日時点で入手可能な情報に基づく一定の前提(仮定)及び将来の予測等に基づき見込んでいる金額であり、今後、分配可能額規制その他の法令上の規制や経営環境の変化等の事情により変動する可能性があります。

これら剰余金の配当の決定機関は、取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき、中間配当として1株当たり48円(普通配当13円、特別配当35円)を実施しており、当事業年度末の期末配当を69円(普通配当34円、特別配当35円)といたしました。内部留保資金につきましては、資本効率の向上を図るため、株主還元を実施するほか、今後の事業展開に資する所存であります。

当社は、「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によっては定めず、取締役会の決議によって定める」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度にかかる剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たりの配当額(円)
2025年10月30日 取締役会決議	1,533	48.00
2026年5月20日 取締役会決議	2,204	69.00

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業の社会的責任を深く自覚し、企業価値の向上を目指すとともに、常に最良のコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組む。また、当社は、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図る観点から、法令順守の徹底、経営の効率化とともに、経営の透明性を確保することによって、実効性の高いコーポレート・ガバナンスを実現することが重要であると考え、次の基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組む。

- (イ) 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
- (ロ) 株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと適切に協働する。
- (ハ) 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
- (ニ) 独立社外取締役が中心的な役割を行う仕組み（取締役会の構成、指名報酬諮問委員会の設置等）を構築し、取締役会による業務執行の監督機能を実効化する。
- (ホ) 中長期的な株主の利益と合致する投資方針を有する株主との間で建設的な対話を行う。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

(企業統治の体制の概要)

当社は監査等委員会設置会社であり、提出日（2026年6月24日）現在、取締役（監査等委員である取締役を除く。）9名中3名、監査等委員である取締役3名中2名を独立社外取締役とし、取締役の業務執行を監督しております。また、監査等委員である取締役は、監査基準及び監査計画に従い、取締役会等の重要会議に出席し意見を述べ、審議内容や決議事項の適法性及び妥当性をチェックするとともに、取締役等と定期的な会合を行い、取締役の職務執行の監査を実施しております。

また、内部監査につきましては監査部が実施しております。監査部は、内部監査計画書に従って監査を実施し、監査結果報告会において監査対象部門と問題点の共有化を図ったうえで改善を指示し、改善状況の確認を行っております。監査等委員である取締役は、監査結果報告会等へ出席することにより監査部と連携を図っております。

会計監査につきましては、会計監査人は有限責任 あずさ監査法人を選任しております。会計監査人は、監査を効率的に実施する観点から、監査等委員会及び社内関連部署等と連携しつつ、内部統制の状況等について把握するとともに、その有効性を評価し、監査等委員会へ報告しております。監査等委員会と会計監査人は、監査計画や監査の実施状況及び結果等についての定期的な報告、意見交換、情報共有を実施しております。前事業年度に当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、宮田世紀氏、饒田留美子氏であり、会計監査業務にかかる補助者は、公認会計士3名、その他7名であります。

コンプライアンス評価委員会は、金融商品取引法をはじめとした法令・諸規則遵守の強化を図るため、原則1事業年度に2回以上開催しております。法令違反の未然防止策の立案、社内の問題点の洗い出しと改善策の検討・具体化を図っております。

当社のリスク管理体制は、リスクの多様化・高度化とともに専門性が必要とされることから、リスク管理基本方針及びリスク管理規程に基づき、管理すべきリスクの所在と種類を明確にしたうえで、それぞれのリスクごとに担当部署を定め管理する体制としております。リスク管理委員会は情報セキュリティ及びBCPも含めた当社グループに関わる各種リスクの管理について、部門横断的に検討、協議、調整を行い、対応方針の策定、経営への答申等を行っており、原則月1回開催しております。

また、当社は、適切な経営体制の構築に資することを目的とした取締役会の諮問機関（任意委員会）として指名報酬諮問委員会を設置しております。指名報酬諮問委員会は独立社外取締役が過半数を占め、当社の取締役候補者（監査等委員である取締役を除く。）の指名及び解任等並びに取締役の報酬の決定過程における公正性及び客観性を担保し、適切な関与・助言を得ております。

(現在の体制を採用する理由)

当社は、取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を取締役会の構成員として議決権を有すること等により、取締役会の監督機能を高め、更なるコーポレート・ガバナンス体制の強化と企業価値の一層の向上を図ることができると判断していることから、監査等委員会設置会社を採用しております。また、一層の透明性、客観性を維持するため、社外取締役5名を独立役員に指定しております。

監査等委員会及び社外取締役の充実による客観的・中立監視を行うことで、経営の監視機能の面では業務執行、経営の監督が有効かつ効率的に機能すると認識しております。

当社は、2026年6月26日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として「取締役（監査等委員である取締役を除く。）10名選任の件」及び「監査等委員である取締役1名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されると、当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は10名（内、独立社外取締役3名）、監査等委員である取締役3名（内、独立社外取締役3名）となります。また、当該定時株主総会の直後に開催が予定されている取締役会の決議事項として「取締役の役位についての議案」が付議される予定です。これらが承認可決された場合の取締役会の構成員については、後記「（2）役員の状況 役員の一覧（口）」のとおりであります。

(当事業年度における会社機関の活動状況)

(イ) 取締役会

当社は、取締役会を原則月1回開催しており、取締役会の主な検討事項や構成や出席状況については、次のとおりであります。

[ 当事業年度における主な検討事項 ]

- ・中期経営計画の進捗及び当事業年度の業務執行の状況の報告
- ・業務の有効性・効率性、法令等の順守、内部統制システムの運用状況等の報告、審議
- ・取締役会実効性評価の報告と審議等

[ 各取締役の出席状況 ]

区分	氏名	出席状況
代表取締役社長 社長執行役員	藍澤 卓弥	18回/18回(100%)
取締役 専務執行役員	大石 敦	18回/18回(100%)
取締役 常務執行役員	真柴 一裕	18回/18回(100%)
取締役 執行役員	大道 浩二	18回/18回(100%)
取締役 執行役員	馬場 雄一	14回/14回(100%)
取締役	芝田 康弘	18回/18回(100%)
取締役	白木 信一郎	4回/4回(100%)
社外取締役	徳岡 國見	4回/4回(100%)
社外取締役	増井 喜一郎	18回/18回(100%)
社外取締役	武藤 雅俊	14回/14回(100%)
社外取締役	住釜 智子	14回/14回(100%)
取締役(監査等委員)	新島 直以	18回/18回(100%)
社外取締役(監査等委員)	花房 幸範	17回/18回(94%)
社外取締役(監査等委員)	清家 麻紀	8回/11回(73%)
社外取締役(監査等委員)	平尾 嘉昭	7回/7回(100%)

- (注) 1.取締役 執行役員 馬場雄一氏、社外取締役 武藤雅俊氏、社外取締役 住釜智子氏については、2025年 6月26日開催の定時株主総会での就任後に開催された取締役会の開催回数・出席回数を記載しております。
- (注) 2.取締役 白木信一郎氏、社外取締役 徳岡國見氏については、2025年 6月26日開催の定時株主総会の終結の時をもって、取締役を退任しておりますので、退任までの期間に開催された取締役会の開催回数・出席回数を記載しております。
- (注) 3.社外取締役(監査等委員)平尾嘉昭氏については、2025年10月31日付での就任後に開催された取締役会の開催回数・出席回数を記載しております。
- (注) 4.社外取締役(監査等委員)清家麻紀氏については、2025年10月31日付で辞任しておりますので、辞任までの期間に開催された取締役会の開催回数・出席回数を記載しております。

#### [取締役会の実効性に関する評価結果の概要]

当社取締役会は、コーポレート・ガバナンスに関する基本方針第18条に基づき、取締役会の実効性の向上を目的として、取締役会全体の分析・評価を毎年実施しております。全取締役を対象に2026年3月期における取締役会の実効性に関する自己評価を行い、その後、取締役会において取締役会全体の実効性の分析・評価を行いました。その結果、取締役会の構成、運営、資料、審議、責務においてそれぞれ適切に行われ、取締役会の実効性は確保されているものと判断いたしました。

本評価を踏まえ、今後も継続して取締役会の実効性向上を図ってまいります。

#### 取締役会の構成

取締役会の員数は、取締役会における実質的な議論を確保する観点からおおむね適切であるとの評価となりました。また、取締役会参加者は、当社の企業価値・経営戦略・営業戦略・事業計画を適切に理解しており、取締役会全体としての知識・経験・能力のバランスの多様性は適切に確保されていると評価されております。今後、取締役会の監査機能を強化し、さらなる監査体制の強化を通じてより一層のコーポレート・ガバナンスの充実を図るため、引き続き、取締役会の構成の充実に努めてまいります。

#### 取締役会の運営

取締役会における議題数は結果として増加しましたが、経営戦略やリスク管理に関する議題が増加しており、他社取締役会と比較し、当社取締役会が効果的に運営されているかについて、社外取締役より、おおむね効果的であると評価されております。しかしながら、議案数の増加に伴い、取締役会における議題の数・内容・進め方への改善を求める意見もありました。重要な議案の議論に集中できるよう、引き続き運営の改善に努めてまいります。

#### 取締役会の資料

取締役会の資料に関しては、必要な情報が十分に網羅され、分かりやすく整理されたものとなっているとの評価がある一方、資料のボリュームが多すぎるとの指摘がありました。議案毎に報告内容を要約した一文を加え、参考資料は別紙でまとめる等の対応は行ったものの、議案数が増加したこともあり、十分な改善には至りませんでした。引き続き、経営判断を行うにあたって必要な情報が十分に網羅され、かつ、わかりやすく整理された資料の作成に努めてまいります。

#### 取締役会の審議

中長期的な経営戦略・方針等に関する議論は質・量ともに向上してきておりますが、さらに深度のある議論ができるよう議論環境を充実させていく必要があると認識しております。社外取締役が自由に発言し、活発な議論を重視する雰囲気形成されており、審議時間についても十分に確保されているとの回答が多数を占める一方で、取締役会が長時間にわたるとの指摘もあり、議案数のコントロールを行う等の効率的な運営を求める意見がありました。意思決定後の効果、議論後の変化についての報告につきましては、更なる効果計測及び継続報告を行い、どのように経営に反映されているのかが明確になるよう努めてまいります。

取締役会の責務

取締役会は、全体としてその役割・説明責任等を含めた責務を実効的に果たしているとの回答が多数を占めており、取締役会の経営監督機能の強化のため、事業戦略の執行状況のモニタリングが効果的に行われるよう検討してまいります。

(ロ) 監査等委員会

監査等委員会の活動状況につきましては「(3) 監査の状況 監査等委員会監査の状況 b. 監査等委員会の活動状況」に記載しております。

(ハ) 指名報酬諮問委員会

当社は、取締役候補者の指名や取締役の報酬等の公正性及び客観性を担保し、当社の適切な経営体制の構築に資することを目的として、指名報酬諮問委員会を設置し、適宜開催しております。指名報酬諮問委員会の委員はその過半数を独立社外取締役とし、取締役会は取締役の指名並びに報酬について、指名報酬諮問委員会の審議を経て決議しております。

当事業年度において当社は指名報酬諮問委員会を7回開催しており、主な検討事項、委員会の構成及び個々の委員の出席状況については次のとおりであります。

[ 当事業年度における主な検討事項 ]

- ・取締役の選解任、取締役の報酬等に係る方針を審議、答申
- ・取締役の個別の報酬案に関する事項、譲渡制限付株式の割当、役員報酬水準の検証

[ 各委員の出席状況 ]

区分	氏名	出席状況
代表取締役社長 社長執行役員	藍澤 卓弥	7回/7回(100%)
取締役 執行役員	大道 浩二	7回/7回(100%)
取締役	芝田 康弘	7回/7回(100%)
社外取締役	徳岡 國見	2回/2回(100%)
社外取締役	増井 喜一郎	4回/5回(80%)
社外取締役	武藤 雅俊	5回/5回(100%)
社外取締役	住釜 智子	5回/5回(100%)
社外取締役(監査等委員)	花房 幸範	7回/7回(100%)
社外取締役(監査等委員)	清家 麻紀	3回/4回(75%)

(注) 1.社外取締役 武藤雅俊氏、住釜智子氏については、2025年6月26日開催の取締役会において指名報酬委員に就任しておりますので、就任後に開催された指名報酬諮問委員会の開催回数・出席回数を記載しております。

(注) 2.社外取締役 徳岡國見氏については、2025年6月26日開催の定時株主総会の終結の時をもって取締役を退任し、それに伴い指名報酬諮問委員を退任しておりますので、退任までの期間に開催された指名報酬諮問委員会の開催回数・出席回数を記載しております。

(注) 3.社外取締役 増井喜一郎氏については、2025年6月26日開催の取締役会において指名報酬委員を退任し、2025年10月31日付で、再び指名報酬委員に就任しておりますので、就任期間中に開催された指名報酬諮問委員会の開催回数・出席回数を記載しております。

(注) 4.社外取締役(監査等委員) 清家麻紀氏については、2025年10月31日付での社外取締役(監査等委員) 辞任に伴い、指名報酬諮問委員についても退任しておりますので、退任までの期間に開催された指名報酬諮問委員会の開催回数・出席回数を記載しております。

## 企業統治に関するその他の事項

(企業統治に関する事項 - 内部統制システムの整備の状況、リスク管理体制の整備状況)

### (イ) 内部統制システムの整備の状況

当社は、内部統制システムの構築及びその整備は取締役会の専任事項として経営の根幹をなすものと考えております。内部統制システム構築のため、明確なルールにより組織、業務分掌、職務権限を定め、これを運用するにあたり稟議決裁制度を採用しております。

また、業務運営のためのルールを作成しており、これらルールが遵守されているか否かを監査するための専門部署として監査部を設置しております。

当社グループの内部統制については、統制組織及び統制手段の両面から内部牽制が有効に機能する仕組みを構築しております。当社の連結子会社であるアイザワ証券株式会社においては、日本証券業協会の「協会の内部管理責任者等に関する規則」に基づき、内部管理を担当する取締役1名を「内部管理統括責任者」として定めるとともに、各営業単位毎に「営業責任者」及び「内部管理責任者」を設置しております。内部管理責任者は組織上、内部管理本部の下部組織でありますコンプライアンス部に属しており、人事上の評価につきましては組織の上長並びに内部管理統括補助責任者が行うこととしており、営業部店におきましては営業部門からの独立性を保持するとともに営業部門と相互の内部牽制が働く仕組みとしております。コンプライアンス部(36名)の主たる業務としましては株式等の売買管理業務をはじめとして、営業に関する審査業務の統括及び顧客管理に関する事項並びに法令諸規則に係る社員の指導等でありますが、下部組織としましてお客様相談課を設置し、お客様からの問合せ並びに業務に関する事項について対応し内部管理体制の充実に努めております。これらの制度を通じ、金融商品取引法その他法令諸規則等の遵守、投資勧誘等の営業活動、顧客管理等が適正に行われるよう社内の監査部門が中心となり、内部管理体制の整備に努めております。

また、統制手段としては、社内規程・内規等の整備を図り、業務実施に際しての適正な管理等を行うとともに、監査等委員会及び会計監査人と連携しつつ内部監査等を実施しております。

### (ロ) リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、リスクの多様化・高度化とともに専門性が必要とされることから、「リスク管理規程」に基づき、管理すべきリスクの所在と種類を明確にしたうえで、それぞれのリスクごとに担当部署を定め管理する体制としております。

### (当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制)

当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制整備の状況は以下のとおりであります。

(イ) 当社は、当社グループを対象とする「関係会社管理規程」を定め、管理の所在等の明確化を図ることにより、当社グループとしての業務の適正性を確保するよう努めております。

(ロ) 当社は、当社グループに係る戦略の立案、子会社に係る指導及びモニタリングその他の経営管理、財務運営及び連結決算に係る管理、財務報告に係る内部統制の整備及び運用並びに有効性評価に係る管理、業務運営に係る管理等を統括しております。

(ハ) 当社は、当社が定める「倫理規程」、「アイザワ証券グループ倫理綱領」及びコンプライアンスに関する諸規程を子会社に対しても適用し、子会社の役職員に対して、法令・定款の遵守を徹底することはもとより公正で高い倫理観を有することを求め、広く社会から信頼される経営体制を確保することに努めております。

(ニ) 当社は、当社が定めるリスク管理に関する諸規程に基づき当社グループにおいて対象となるリスク及び管理の所在等を明確にすることにより、リスク管理の実効性を確保するよう努めております。

(ホ) 当社は、「関係会社管理規程」等に基づき、子会社に対し、子会社に関する重要事項を原則として事前に当社に対し報告することを義務付けております。

(ヘ)当社は、「親子法人等間の非公開情報等取扱規程」に基づき、親子法人等の間で授受を行う非公開情報についてはオプトインによる同意した顧客に限るものとしています。

(ト)当社は、主要な子会社に取締役を派遣し、取締役（監査等委員である取締役を除く）は当該子会社の取締役の職務執行を監督し、監査等委員である取締役は当該子会社の業務執行状況を監査しております。

(チ)当社は、財務報告の信頼性を確保するため、「内部統制管理規程」を定め、財務報告に係る内部統制及び運用を行うとともに、その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、必要な是正を行うものいたします。

(社外取締役、会計参与、又は会計監査人との間で会社法第427条第1項に規定する契約を締結した場合は、当該契約の内容の概要)

(イ)業務執行取締役等でない取締役との責任限定契約

当社と業務執行取締役等でない取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償の責任の限度は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

ただし、責任限定が認められるのは、当該業務執行取締役等でない取締役が責任の原因となった職務の遂行について、善意かつ重大な過失がないときに限定しております。

(ロ)取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であったものを含む。）、及び取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）、並びに第101期定時株主総会終結前の行為に関する会社法第423条第1項所定の監査役（監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(取締役の選任の決議要件)

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。なお、取締役の選任決議は累積投票によらないものとしております。

(剰余金の配当等の決定機関)

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(株主総会の特別決議要件)

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役会、指名報酬諮問委員会の活動状況

「4 [コーポレート・ガバナンスの状況等] (1) [コーポレート・ガバナンスの概要] 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由（当事業年度における会社機関の活動状況）(イ)取締役会及び(ハ)指名報酬諮問委員会」に記載のとおりであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

(イ) 2026年6月24日(有価証券報告書提出日)現在の当社の役員の状況は、以下のとおりです。

男性10名 女性2名 (役員のうち女性の比率16.6%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長 社長執行役員	藍澤 卓弥	1974年9月5日生	1997年10月 株式会社野村総合研究所 入社	(注) 3	1,436
			2005年7月 当社 入社		
			2010年3月 当社 理事 企画部専門部長		
			2012年6月 当社 取締役		
			2013年5月 八幡証券株式会社(現 当社) 取締役		
			2014年6月 当社 専務取締役 管理本部長		
			2014年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 取締役(現職)		
			2016年6月 当社 代表取締役専務 管理本部長		
			2017年3月 日本アジア証券株式会社(現 当社) 代表取締役社長		
			2017年3月 当社 取締役		
			2018年6月 JAPAN SECURITIES INC.(現Japan Securities Co., Ltd.) DIRECTOR		
			2018年7月 当社 代表取締役社長		
			2018年10月 当社 代表取締役社長COO 兼 CHO		
			2019年6月 当社 代表取締役社長CEO 兼 CHO		
			2020年4月 当社 代表取締役社長 社長執行役員		
2021年4月 アイザワ証券分割準備株式会社(現ア イザワ証券株式会社) 代表取締役社 長					
2021年10月 当社 代表取締役社長 社長執行役員 CEO					
2021年10月 アイザワ証券株式会社 代表取締役社 長 社長執行役員(現職)					
2024年4月 代表取締役社長 社長執行役員 (現職)					

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 専務執行役員	大石 敦	1967年12月10日生	1990年4月 当社 入社	(注) 3	62
			2005年7月 当社 投資銀行部長		
			2005年7月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 代表取締役社長		
			2006年7月 当社 投資銀行第一部長		
			2009年6月 当社 執行役員 企画部長		
			2009年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 取締役(現職)		
			2013年5月 八幡証券株式会社(現 当社) 取締役		
			2013年6月 当社 執行役員 事業戦略本部長 兼 企画部長		
			2014年6月 当社 取締役 事業戦略本部長 兼 企画部長		
			2017年3月 日本アジア証券株式会社(現 当社) 取締役		
			2017年4月 当社 常務取締役 営業本部長 兼 中国 営業本部長		
			2019年5月 当社 常務取締役CMO		
			2020年1月 当社 常務取締役CMO 兼 引受部長		
			2020年4月 当社 取締役 常務執行役員		
			2021年4月 当社 取締役 専務執行役員		
			2021年4月 アイザワ証券分割準備株式会社(現アイザワ証券株式会社) 取締役		
			2021年4月 ライフデザインパートナーズ株式会社 取締役(現職)		
			2021年10月 当社 取締役 専務執行役員CMO		
			2021年10月 アイザワ証券株式会社 取締役 専務執行役員(現職)		
			2023年4月 当社 取締役 専務執行役員CCO		
2023年4月 あいざわアセットマネジメント株式会社 取締役(現職)					
2024年4月 当社 取締役 専務執行役員(現職)					

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 常務執行役員	真柴 一裕	1966年4月29日生	1990年4月 内藤証券株式会社 入社 2001年4月 当社 入社 2005年7月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 取締役 2011年6月 同社 代表取締役社長 2011年10月 当社 経理部長 2013年5月 八幡証券株式会社(現 当社) 監査役 2016年6月 当社 執行役員 経理部長 2017年3月 日本アジア証券株式会社(現 当社) 監査役 2017年4月 当社 上席執行役員 管理本部長 兼 経 営企画部長 2018年3月 当社 上席執行役員 管理本部長 兼 経 営企画部長 兼 業務統括部長 2018年6月 当社 取締役 管理本部長 2019年5月 当社 取締役CFO 2019年5月 JAPAN SECURITIES INC.(現Japan Securities Co., Ltd.) DIRECTOR 2020年4月 当社 取締役 上席執行役員 2020年6月 あすかアセットマネジメント株式会社 (現あいざわアセットマネジメント株 式会社) 取締役 2021年4月 当社 取締役 常務執行役員 2021年4月 アイザワ証券分割準備株式会社(現ア イザワ証券株式会社) 取締役 2021年10月 当社 取締役 常務執行役員CFO 2021年10月 アイザワ証券株式会社 取締役 常務執 行役員(現職) 2023年4月 当社 取締役 常務執行役員CMO 2023年4月 アイザワ・インベストメンツ株式会 社 取締役(現職) 2024年4月 当社 取締役 常務執行役員(現職)	(注)3	50

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員	大道 浩二	1969年10月13日生	1993年4月 住友信託銀行株式会社 (現三井住友信託銀行株式会社) 入社 2004年11月 株式会社東京スター銀行 入行 2007年8月 株式会社ライフコート 入社 執行役員経営企画室長 2008年5月 株式会社東京スター銀行 入行 2009年5月 同社 法人企画グループ CFBプラン ニングチームリーダー 2011年11月 同社 戦略企画グループ グループリー ダー 2015年9月 同社 人事部長 2020年4月 同社 人事担当執行役 2024年4月 当社 執行役員 2024年4月 アイザワ証券株式会社 執行役員 管理本部長 2024年6月 当社 取締役 執行役員(現職) 2024年6月 アイザワ証券株式会社 取締役 執行役員 管理本部長 2025年4月 アイザワ・インベストメンツ株式会 社 取締役(現職) 2025年4月 あいざわアセットマネジメント株式会 社 取締役(現職) 2025年4月 ライフデザインパートナーズ株式会 社 取締役(現職) 2026年4月 アイザワ証券株式会社 取締役 執行役員(現職)	(注) 3	8
取締役 執行役員	馬場 雄一	1976年12月14日生	2000年4月 当社 入社 2017年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会 社 取締役(現職) 2018年7月 当社 経営企画部長 2020年6月 あすかアセットマネジメント株式会 社 (現あいざわアセットマネジメント株 式会社) 取締役(現職) 2021年10月 アイザワ証券株式会社 経営企画部長 2023年3月 当社 経営企画部長 兼 財務部長 2023年3月 アイザワ証券株式会社 経営企画部長 兼 財務部長 2023年4月 当社 執行役員 経営企画部長 兼 財務 部長 2023年4月 アイザワ証券株式会社 執行役員 管理 本部長 兼 経営企画部長 兼 財務部長 2023年6月 当社 執行役員 財務部長 2023年6月 アイザワ証券株式会社 執行役員 管理 本部長 兼 財務部長 2023年10月 当社 執行役員 2023年10月 アイザワ証券株式会社 執行役員 2025年4月 ライフデザインパートナーズ株式会 社 取締役(現職) 2025年6月 当社 取締役 執行役員(現職) 2025年6月 アイザワ証券株式会社 取締役 執行役 員(現職)	(注) 3	16

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	芝田 康弘	1963年11月24日生	1986年4月 株式会社日本興業銀行（現株式会社みずほ銀行） 入行 2005年4月 みずほ証券株式会社 クレジットトレーディング部長 2008年4月 同社 金融市場部長 2009年4月 同社 金融商品部長 2011年4月 同社 金融市場グループ副グループ長 2013年1月 同社 金融市場グループ長 2014年4月 みずほインターナショナル 副社長 2016年4月 みずほ証券株式会社 執行役員 金融市場本部共同本部長 兼 みずほインターナショナル 副社長 2018年1月 米国みずほ証券 副社長 2019年4月 みずほ証券株式会社 常務執行役員 グローバルマーケット部門長 兼 グローバルマーケットヘッド 2020年4月 株式会社みずほフィナンシャルグループ 執行役 グローバルマーケットカンパニー共同カンパニー長 兼 株式会社みずほ銀行 常務執行役員 グローバルマーケット部門共同部門長 2021年4月 株式会社みずほフィナンシャルグループ 執行役 グローバルマーケットカンパニー共同カンパニー長 兼 株式会社みずほ銀行 常務執行役員 グローバルマーケット部門共同部門長 兼 みずほ信託銀行株式会社 常務執行役員 グローバルマーケット部門共同部門長 2023年6月 当社 取締役会長 会長執行役員 2023年6月 アイザワ証券株式会社 取締役会長 会長執行役員 2023年11月 あいざわアセットマネジメント株式会社 取締役 2024年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 取締役 2025年4月 当社 取締役（現職） 2025年4月 アイザワ証券株式会社 取締役（現職）	(注) 3	27

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
社外取締役	増井 喜一郎	1950年7月16日生	1973年4月 大蔵省入省 1998年7月 大蔵省 東海財務局長 2000年6月 大蔵省 近畿財務局長 2003年7月 金融庁 総務企画局長 2005年9月 日本証券業協会 専務理事 2006年5月 日本証券業協会 副会長・専務理事 2008年7月 日本証券業協会 副会長 2012年6月 株式会社東京証券会館 取締役 2013年7月 日本投資者保護基金 理事長 2014年6月 公益財団法人日本証券経済研究所 理事長 2015年11月 公益財団法人日本中小企業福祉事業財団 評議員(現職) 2016年6月 株式会社日本格付研究所 社外取締役(現職) 2017年6月 公益財団法人金融システムセンター 監事(現職) 2017年6月 平和不動産株式会社 社外取締役 2017年6月 損害保険料率算出機構 理事 2018年6月 公益財団法人がん研究会 監事(現職) 2022年5月 公益財団法人石井記念証券研究振興財団 理事(現職) 2022年6月 当社 社外取締役(現職) 2024年9月 医療法人社団景翠会 理事(現職) 2025年6月 公益財団法人資本市場振興財団 理事(現職)	(注) 1、3	
社外取締役	武藤 雅俊	1956年1月9日生	1978年4月 株式会社日本興業銀行(現株式会社みずほ銀行) 入行 2003年4月 株式会社みずほコーポレート銀行(現株式会社みずほ銀行) 国際資金証券部長 2006年3月 同行 執行役員 国際資金証券部長 2007年4月 同行 理事 兼 Mizuho Alternative Investments LLC (NY) President & CEO 2011年4月 DIAMアセットマネジメント株式会社(現アセットマネジメントOne株式会社) 常務取締役 2013年4月 みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社 代表取締役社長 2018年6月 東邦亜鉛株式会社 社外取締役 常勤監査等委員 2025年6月 当社 社外取締役(現職) 2025年6月 株式会社あらた 社外取締役(監査等委員)(現職)	(注) 1、3	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
社外取締役	住釜 智子	1960年12月3日生	1987年10月 チェース・マンハッタン銀行 入行 1996年 5月 ホワイトニーグループジャパン バイ スプレジデント 1999年 6月 ゼネラルコンサルティング株式会社 ディレクター 2003年10月 ステート・ストリート株式会社 アシ スタント・バイス・プレジデント 2006年10月 モルガン・スタンレー証券株式会社 ディレクター 2011年 7月 ブラウン・ブラザーズ・ハリマン証券 会社 人事部長 2016年 5月 ソシエテ・ジェネラル証券株式会社 執行役員 人事部長 2019年11月 チューリッヒ保険会社 JapanCHRO 2025年 1月 同社 シニア・アドバイザー 2025年 6月 当社 社外取締役 (現職) 2026年 3月 AlphaTheta株式会社 執行役員 CHRO (現職)	(注) 1、3	
取締役 (監査等委員)	新島 直以	1960年 7月 6 日生	1989年 2月 当社 入社 2000年 8月 当社 経営企画部 経営企画課長 2007年 6月 当社 企画第一部長 2011年 8月 当社 理事 管理本部副本部長 兼 総務 人事部長 2014年 6月 当社 執行役員 管理本部副本部長 兼 総務人事部長 2015年 6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 監査役 2017年 3月 執行役員 管理本部長 2017年 3月 日本アジア証券株式会社 (現 当社) 監査役 2017年 4月 当社 執行役員 コンプライアンス本部 長 2017年 6月 当社 取締役 コンプライアンス本部長 2018年 3月 当社 取締役 コンプライアンス本部長 兼 営業管理部長 2018年 7月 当社 取締役 コンプライアンス本部長 2020年 4月 当社 取締役 兼 常務執行役員 2021年 2月 あいざわアセットマネジメント株式会 社 取締役 2021年 4月 アイザワ証券分割準備株式会社 (現アイ ザワ証券株式会社) 取締役 2021年 4月 ライフデザインパートナーズ株式会社 取締役 2021年10月 アイザワ証券株式会社 取締役 兼 常 務執行役員 2021年10月 当社 取締役 常務執行役員CCO 2023年 4月 当社 取締役 2023年 4月 アイザワ証券株式会社 取締役 2023年 6月 当社 取締役 (監査等委員) (現職)	(注) 4	36

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
社外取締役 (監査等委員)	花房 幸範	1975年5月10日生	1998年4月 青山監査法人 入所 2001年7月 公認会計士登録 2003年7月 日本アジアホールディングズ株式会社 入社 2009年8月 アカウンティングワークス株式会社設 立 代表取締役(現職) 2015年3月 アークランドサービス株式会社(現 アークランドサービスホールディング ス株式会社) 社外監査役 2016年3月 同社 社外取締役(監査等委員)(現 職) 2017年9月 ベプチドリーム株式会社 社外取締役 (監査等委員)(現職) 2018年5月 株式会社ギフト(現株式会社ギフト ホールディングス) 社外監査役 2019年1月 同社 社外取締役(監査等委員)(現 職) 2020年6月 当社 社外取締役 2021年6月 当社 社外取締役(監査等委員)(現 職) 2021年10月 八丁堀税理士法人 代表社員(現職)	(注) 2、4	
社外取締役 (監査等委員)	平尾 嘉昭	1977年12月13日生	2005年4月 最高裁判所司法研修所 入所 2006年9月 同所 司法修習 修了 2006年10月 日本弁護士連合会弁護士 登録 (第一東京弁護士会所属) 2006年10月 新生綜合法律事務所 入所(現職) 2013年4月 明星大学経営学部経営学科 非常勤講師 2013年4月 経営法曹会議 入会 2021年6月 アイザワ証券株式会 社外監査役 (現職) 2023年6月 中央魚類株式会社 社外監査役(現職) 2025年10月 当社 社外取締役監査等委員(現職)	(注) 2、4	
計					1,639

- (注) 1. 増井喜一郎氏、武藤雅俊氏、住釜智子氏は、社外取締役であります。
2. 花房幸範氏、平尾嘉昭氏は、監査等委員である社外取締役であります。
3. 取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期は、2025年3月期に係る定時株主総会終結の時から2026年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査等委員である取締役の任期は、2025年3月期に係る定時株主総会終結の時から2027年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

(口) 2026年6月26日開催予定の定時株主総会の議案(決議事項)として、「取締役(監査等委員である取締役を除く。)10名選任の件」及び「監査等委員である取締役1名選任の件」及び「補欠の監査等委員である取締役1名選任の件」を上程しており、当該決議が承認可決されますと、当社の役員の状況及びその任期は、以下の通りとなる予定です。

なお、役員の役職等については、当該定時株主総会の直後に開催が予定される取締役会の決議事項の内容(役職等)を含めて記載しています。

男性11名 女性2名 (役員のうち女性の比率15.3%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長 社長執行役員	藍澤 卓弥	1974年9月5日生	1997年10月 株式会社野村総合研究所 入社 2005年7月 当社 入社 2010年3月 当社 理事 企画部専門部長 2012年6月 当社 取締役 2013年5月 八幡証券株式会社(現 当社) 取締役 2014年6月 当社 専務取締役 管理本部長 2014年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 取締役(現職) 2016年6月 当社 代表取締役専務 管理本部長 2017年3月 日本アジア証券株式会社(現 当社) 代表取締役社長 2017年3月 当社 取締役 2018年6月 JAPAN SECURITIES INC.(現Japan Securities Co., Ltd.) DIRECTOR 2018年7月 当社 代表取締役社長 2018年10月 当社 代表取締役社長COO 兼 CHO 2019年6月 当社 代表取締役社長CEO 兼 CHO 2020年4月 当社 代表取締役社長 社長執行役員 2021年4月 アイザワ証券分割準備株式会社(現ア イザワ証券株式会社) 代表取締役社 長 2021年10月 当社 代表取締役社長 社長執行役員 CEO 2021年10月 アイザワ証券株式会社 代表取締役社 長 社長執行役員(現職) 2024年4月 代表取締役社長 社長執行役員 (現職)	(注)3	1,436

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 専務執行役員	大石 敦	1967年12月10日生	1990年4月 当社 入社 2005年7月 当社 投資銀行部長 2005年7月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 代表取締役社長 2006年7月 当社 投資銀行第一部長 2009年6月 当社 執行役員 企画部長 2009年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 取締役(現職) 2013年5月 八幡証券株式会社(現 当社) 取締役 2013年6月 当社 執行役員 事業戦略本部長 兼 企 画部長 2014年6月 当社 取締役 事業戦略本部長 兼 企画 部長 2017年3月 日本アジア証券株式会社(現 当社) 取締役 2017年4月 当社 常務取締役 営業本部長 兼 中国 営業本部長 2019年5月 当社 常務取締役CMO 2020年1月 当社 常務取締役CMO 兼 引受部長 2020年4月 当社 取締役 常務執行役員 2021年4月 当社 取締役 専務執行役員 2021年4月 アイザワ証券分割準備株式会社(現ア イザワ証券株式会社) 取締役 2021年4月 ライフデザインパートナーズ株式会社 取締役(現職) 2021年10月 当社 取締役 専務執行役員CMO 2021年10月 アイザワ証券株式会社 取締役 専務執 行役員(現職) 2023年4月 当社 取締役 専務執行役員CCO 2023年4月 あいざわアセットマネジメント株式会 社 取締役(現職) 2024年4月 当社 取締役 専務執行役員(現職)	(注)3	62

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 常務執行役員	真柴 一裕	1966年4月29日生	1990年4月 内藤証券株式会社 入社 2001年4月 当社 入社 2005年7月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 取締役 2011年6月 同社 代表取締役社長 2011年10月 当社 経理部長 2013年5月 八幡証券株式会社(現 当社) 監査役 2016年6月 当社 執行役員 経理部長 2017年3月 日本アジア証券株式会社(現 当社) 監査役 2017年4月 当社 上席執行役員 管理本部長 兼 経 営企画部長 2018年3月 当社 上席執行役員 管理本部長 兼 経 営企画部長 兼 業務統括部長 2018年6月 当社 取締役 管理本部長 2019年5月 当社 取締役CFO 2019年5月 JAPAN SECURITIES INC.(現Japan Securities Co., Ltd.) DIRECTOR 2020年4月 当社 取締役 上席執行役員 2020年6月 あすかアセットマネジメント株式会社 (現あいざわアセットマネジメント株 式会社) 取締役 2021年4月 当社 取締役 常務執行役員 2021年4月 アイザワ証券分割準備株式会社(現ア イザワ証券株式会社) 取締役 2021年10月 当社 取締役 常務執行役員CFO 2021年10月 アイザワ証券株式会社 取締役 常務執 行役員(現職) 2023年4月 当社 取締役 常務執行役員CMO 2023年4月 アイザワ・インベストメンツ株式会 社 取締役(現職) 2024年4月 当社 取締役 常務執行役員(現職)	(注)3	50

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 執行役員	大道 浩二	1969年10月13日生	1993年4月 住友信託銀行株式会社 (現三井住友信託銀行株式会社) 入社 2004年11月 株式会社東京スター銀行 入行 2007年8月 株式会社ライフコート 入社 執行役員経営企画室長 2008年5月 株式会社東京スター銀行 入行 2009年5月 同社 法人企画グループ CFBプラン ニングチームリーダー 2011年11月 同社 戦略企画グループ グループリー ダー 2015年9月 同社 人事部長 2020年4月 同社 人事担当執行役 2024年4月 当社 執行役員 2024年4月 アイザワ証券株式会社 執行役員 管理本部長 2024年6月 当社 取締役 執行役員 (現職) 2024年6月 アイザワ証券株式会社 取締役 執行役員 管理本部長 (現職) 2025年4月 アイザワ・インベストメンツ株式会 社 取締役 (現職) 2025年4月 あいざわアセットマネジメント株式会 社 取締役 (現職) 2025年4月 ライフデザインパートナーズ株式会 社 取締役 (現職) 2026年4月 アイザワ証券株式会社 取締役 執行役員 (現職)	(注) 3	8
取締役 執行役員	馬場 雄一	1976年12月14日生	2000年4月 当社 入社 2017年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会 社 取締役 (現職) 2018年7月 当社 経営企画部長 2020年6月 あすかアセットマネジメント株式会 社 (現あいざわアセットマネジメント株 式会社) 取締役 (現職) 2021年10月 アイザワ証券株式会社 経営企画部長 2023年3月 当社 経営企画部長 兼 財務部長 2023年3月 アイザワ証券株式会社 経営企画部長 兼 財務部長 2023年4月 当社 執行役員 経営企画部長 兼 財務 部長 2023年4月 アイザワ証券株式会社 執行役員 管理 本部長 兼 経営企画部長 兼 財務部長 2023年6月 当社 執行役員 財務部長 2023年6月 アイザワ証券株式会社 執行役員 管理 本部長 兼 財務部長 2023年10月 当社 執行役員 2023年10月 アイザワ証券株式会社 執行役員 2025年4月 ライフデザインパートナーズ株式会 社 取締役 (現職) 2025年6月 当社 取締役 執行役員 (現職) 2025年6月 アイザワ証券株式会社 取締役 執行役 員 (現職)	(注) 3	16

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)	
取締役 執行役員	住友 謙一	1970年12月11日生	1993年 4月	株式会社日本興業銀行 (現株式会社みずほ銀行) 入行	(注) 3	
			2011年 4月	みずほ証券株式会社 金融商品部 副部長		
			2014年11月	同社 経営企画部 ディレクター		
			2017年 4月	同社 金融市場業務部長		
			2019年 4月	同社 市場・商品業務部長		
			2019年 7月	同社 証券参与 市場・商品業務部長		
			2021年 4月	株式会社みずほフィナンシャルグループ 執行理事 グローバルマーケッツ業務部付部長 兼 株式会社みずほ銀行 執行理事 市場開発部長		
			2024年 7月	株式会社みずほフィナンシャルグループ 執行役員 グローバルマーケッツ業務部付部長 兼 株式会社みずほ銀行 執行役員 市場開発部長		
			2025年 4月	株式会社みずほフィナンシャルグループ デジタル戦略部 チーフデジタルストラテジスト		
			2025年 9月	当社 執行役員 システム部長		
			2025年 9月	アイザワ証券株式会社 執行役員 システム部長		
			2026年 4月	当社 執行役員		
			2026年 4月	アイザワ証券株式会社 執行役員		
			2026年 6月	当社 取締役 執行役員(現職)		
2026年 6月	アイザワ証券株式会社 取締役 執行役員(現職)					

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	芝田 康弘	1963年11月24日生	1986年4月 株式会社日本興業銀行（現株式会社みずほ銀行） 入行 2005年4月 みずほ証券株式会社 クレジットトレーディング部長 2008年4月 同社 金融市場部長 2009年4月 同社 金融商品部長 2011年4月 同社 金融市場グループ副グループ長 2013年1月 同社 金融市場グループ長 2014年4月 みずほインターナショナル 副社長 2016年4月 みずほ証券株式会社 執行役員 金融市場本部共同本部長 兼 みずほインターナショナル 副社長 2018年1月 米国みずほ証券 副社長 2019年4月 みずほ証券株式会社 常務執行役員 グローバルマーケット部門長 兼 グローバルマーケットヘッド 2020年4月 株式会社みずほフィナンシャルグループ 執行役 グローバルマーケットカンパニー共同カンパニー長 兼 株式会社みずほ銀行 常務執行役員 グローバルマーケット部門共同部門長 2021年4月 株式会社みずほフィナンシャルグループ 執行役 グローバルマーケットカンパニー共同カンパニー長 兼 株式会社みずほ銀行 常務執行役員 グローバルマーケット部門共同部門長 兼 みずほ信託銀行株式会社 常務執行役員 グローバルマーケット部門共同部門長 2023年6月 当社 取締役会長 会長執行役員 2023年6月 アイザワ証券株式会社 取締役会長 会長執行役員 2023年11月 あいざわアセットマネジメント株式会社 取締役 2024年6月 アイザワ・インベストメンツ株式会社 取締役 2025年4月 当社 取締役（現職） 2025年4月 アイザワ証券株式会社 取締役（現職）	(注) 3	27

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
社外取締役	増井 喜一郎	1950年7月16日生	1973年4月 大蔵省入省 1998年7月 大蔵省 東海財務局長 2000年6月 大蔵省 近畿財務局長 2003年7月 金融庁 総務企画局長 2005年9月 日本証券業協会 専務理事 2006年5月 日本証券業協会 副会長・専務理事 2008年7月 日本証券業協会 副会長 2012年6月 株式会社東京証券会館 取締役 2013年7月 日本投資者保護基金 理事長 2014年6月 公益財団法人日本証券経済研究所 理事長 2015年11月 公益財団法人日本中小企業福祉事業財団 評議員(現職) 2016年6月 株式会社日本格付研究所 社外取締役(現職) 2017年6月 公益財団法人金融システムセンター 監事(現職) 2017年6月 平和不動産株式会社 社外取締役 2017年6月 損害保険料率算出機構 理事 2018年6月 公益財団法人がん研究会 監事(現職) 2022年5月 公益財団法人石井記念証券研究振興財団 理事(現職) 2022年6月 当社 社外取締役(現職) 2024年9月 医療法人社団景翠会 理事(現職) 2025年6月 公益財団法人資本市場振興財団 理事(現職)	(注) 1、3	
社外取締役	武藤 雅俊	1956年1月9日生	1978年4月 株式会社日本興業銀行(現株式会社みずほ銀行) 入行 2003年4月 株式会社みずほコーポレート銀行(現株式会社みずほ銀行) 国際資金証券部長 2006年3月 同行 執行役員 国際資金証券部長 2007年4月 同行 理事 兼 Mizuho Alternative Investments LLC (NY) President & CEO 2011年4月 DIAMアセットマネジメント株式会社(現アセットマネジメントOne株式会社) 常務取締役 2013年4月 みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社 代表取締役社長 2018年6月 東邦亜鉛株式会社 社外取締役 常勤監査等委員 2025年6月 当社 社外取締役(現職) 2025年6月 株式会社あらた 社外取締役(監査等委員)(現職)	(注) 1、3	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
社外取締役	住釜 智子	1960年12月3日生	1987年10月 チェース・マンハッタン銀行 入行 1996年 5月 ホワイトニーグループジャパン バイ スプレジデント 1999年 6月 ゼネラルコンサルティング株式会社 ディレクター 2003年10月 ステート・ストリート株式会社 アシ スタント・バイス・プレジデント 2006年10月 モルガン・スタンレー証券株式会社 ディレクター 2011年 7月 ブラウン・ブラザーズ・ハリマン証券 会社 人事部長 2016年 5月 ソシエテ・ジェネラル証券株式会社 執行役員 人事部長 2019年11月 チューリッヒ保険会社 JapanCHRO 2025年 1月 同社 シニア・アドバイザー 2025年 6月 当社 社外取締役 (現職) 2026年 3月 AlphaTheta株式会社 執行役員 CHRO (現職)	(注) 1、3	
社外取締役 (監査等委員)	河野 美果	1964年10月 3 日生	1987年 4月 株式会社住友銀行 (現 株式会社三井 住友銀行) 入行 1990年 2月 同行 国際業務部 1998年10月 同行 国際営業部 2001年 1月 同行 国際金融法人部 2006年 4月 株式会社三井住友銀行 国際審査部 2009年 7月 同行 監査部 2012年12月 同行 監査部門 米州 (NY) 駐在副部長 (内部監査統括) 2019年 9月 同行 監査部 品質評価グループ長 2024年 4月 同行 監査部 リスク管理監査グループ 2026年 6月 当社 社外取締役 (監査等委員) (現 職)	(注) 2、4	
社外取締役 (監査等委員)	花房 幸範	1975年5月10日生	1998年 4月 青山監査法人 入所 2001年 7月 公認会計士登録 2003年 7月 日本アジアホールディングス株式会社 入社 2009年 8月 アカウンティングワークス株式会社設 立 代表取締役 (現職) 2015年 3月 アークランドサービス株式会社 (現 アークランドサービスホールディン グス株式会社) 社外監査役 2016年 3月 同社 社外取締役 (監査等委員) (現 職) 2017年 9月 ペプチドリーム株式会社 社外取締役 (監査等委員) (現職) 2018年 5月 株式会社ギフト (現株式会社ギフト ホールディングス) 社外監査役 2019年 1月 同社 社外取締役 (監査等委員) (現 職) 2020年 6月 当社 社外取締役 2021年 6月 当社 社外取締役 (監査等委員) (現 職) 2021年10月 八丁堀税理士法人 代表社員 (現職)	(注) 2、4	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
社外取締役 (監査等委員)	平尾 嘉昭	1977年12月13日生	2005年4月 最高裁判所司法研修所 入所	(注) 2、4	
			2006年9月 同所 司法修習 修了		
			2006年10月 日本弁護士連合会弁護士 登録 (第一東京弁護士会所属)		
			2006年10月 新生綜合法律事務所 入所(現職)		
			2013年4月 明星大学経営学部経営学科 非常勤講師		
			2013年4月 経営法曹会議 入会		
			2021年6月 アイザワ証券株式会 社外監査役 (現職)		
2023年6月 中央魚類株式会社 社外監査役(現職)					
2025年10月 当社 社外取締役監査等委員(現職)					
計					1,602

- (注) 1. 増井喜一郎氏、武藤雅俊氏、住釜智子氏は、社外取締役であります。
2. 河野美果氏、花房幸範氏、平尾嘉昭氏は、監査等委員である社外取締役であります。
3. 取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期は、2026年3月期に係る定時株主総会終結の時から2027年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査等委員である取締役の任期は、2025年3月期に係る定時株主総会終結の時から2027年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 当社は、法令の定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになった場合に備え、2026年6月26日開催の定時株主総会において、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員1名を選任しております。補欠の監査等委員の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
平塚 睦美	1969年6月1日	1993年4月 日新火災海上保険株式会社 入社	(注)	
		1997年4月 亀山総合法律事務所 入所		
		2003年1月 アメリカンホーム医療・損害保険株式会社 入社		
		2006年10月 司法書士資格取得		
		2007年12月 東洋証券株式会社 入社		
		2018年7月 同社 経営企画部 次長		
		2020年5月 同社 ウェルスマネジメント部長		
		2021年4月 株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー グループ法務・コンプライアンス部 担当部長		
		2022年7月 株式会社Macbee Planet 社外監査役		
		2022年8月 司法書士あおば法律事務所 代表(現職)		
		2023年7月 株式会社ニューズドテック 社外監査役		
		2023年7月 株式会社Macbee Planet 社外取締役(監査等委員)		
		2023年10月 株式会社AGBIOTECH 社外監査役(現職)		
		2023年11月 株式会社MAVEL 監査役		
		2025年7月 株式会社リーディングマーク 社外監査役(現職)		
2025年9月 株式会社バイウィル 社外監査役(現職)				

- (注) 平塚睦美氏は、監査等委員の補欠として選任したものであります。なお、監査等委員に就任した場合の任期は、就任した時から退任した監査等委員の任期の満了の時までであります。

## 社外取締役の状況

(イ) 社外取締役の選任状況に関する考え方及び当社との人的関係、資本的關係又は取引關係その他の利害關係社外取締役（監査等委員である取締役を除く。）には、増井喜一郎氏、武藤雅俊氏、住釜智子氏の3名を選任しております。また監査等委員である社外取締役には、花房幸範氏、平尾嘉昭氏の2名を選任しております。

増井喜一郎氏、武藤雅俊氏、住釜智子氏、花房幸範氏、平尾嘉昭氏はいずれも当社との間に記載すべき特別な人的關係、資本的關係又は取引關係その他の利害關係はありません。

平尾嘉昭氏が所属する新生綜合法律事務所とは、2021年に取引実績がありました。現在はありませぬ。当社の連結子会社であるアイザワ証券株式会社は、同法律事務所と法律顧問契約を締結しておりますが、当該契約に基づく案件に同氏は関与していません。また、2026年3月期の取引額は3百万円であり、同法律事務所の売上高の2%未満となります。

以上により、当社の社外取締役5名は取引所が定める一般株主と利益相反が生じるおそれがあるとされる事項に該当していないことから、株式会社東京証券取引所に独立役員として指定する旨の届出をしております。社外取締役を選任するための当社からの独立性に関する基準は「コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」に定めております。当該基本方針は、当社オフィシャルサイトに公表しております。

2026年6月26日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「取締役（監査等委員である取締役を除く。）10名選任の件」及び「監査等委員である取締役1名選任の件」を上程しており、当該決議が承認可決されますと、社外取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、増井喜一郎氏、武藤雅俊氏、住釜智子氏の3名、また監査等委員である社外取締役は、河野美果氏、花房幸範氏、平尾嘉昭氏の3名となります。

(ロ) 社外取締役が会社の企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立性、中立性を持つ立場から経営の監督機能を果たす役割及び金融・証券業等の分野における豊富な知見と経験を経営全般に活かす以下の役割を担っております。

(a) 経営の方針や経営改善について、自らの知見に基づき、当社の持続的な成長を促し中長期的な企業価値の向上を図る観点からの助言を行うこと

(b) 取締役会の重要な意思決定を通じ、経営を監督すること

(c) 当社と関連当事者との間の利益相反を監督すること

(d) 独立した客観的な立場で、少数株主をはじめとするステークホルダーの意見を取締役会に適切に反映させること

監査等委員である社外取締役は、法令、財務・会計、企業統治等に関して専門的な知見を有しており、職歴、経験、知識等を活かして、適法性の監査に留まらず、外部者の立場から経営全般について大局的な観点で監督を行っております。

具体的には、代表取締役との定期的な会合を行い、会社に対処すべき課題、会社を取り巻くリスク、監査上の重点課題等について意見交換して相互認識を深めるほか、内部監査部門等と緊密に連携し、内部監査の結果・内部統制の運用状況等についての報告を聴取して意見交換を行い、問題認識の共有化に努めております。また、会計監査人とも緊密に会合を持ち、監査結果等に関する情報交換・意見交換を行っております。

金融機関経営者としての豊富な経験や知識、他社における監査役としての豊富な経験・知見から適宜発言を行うことで、経営監視の実効性を高めております。

社外取締役による監督と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会において、監査等委員会による監査の状況、監査部による内部監査の状況その他内部統制の整備・運用状況について定期的に報告を受けております。会計監査人の意見についても、必要に応じて、常勤の監査等委員及び監査部担当役員から適宜報告を受け、加えて社外取締役である監査等委員は会計監査人から直接報告を受けているほか、監査等委員会における情報交換も行っております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

a. 組織・人員

当社の監査等委員会は、有価証券報告書提出日（2026年6月24日）現在、監査等委員である取締役3名で構成され、うち2名が社外取締役であり、東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。

常勤の監査等委員である取締役 新島直以氏（委員長）は、経営管理やコンプライアンス体制の整備・強化、リスク管理体制の構築等の豊富な経験・実績・見識を有しております。

監査等委員である社外取締役 花房幸範氏は、公認会計士として企業会計や監査に精通しているとともに、上場企業における豊富な社外役員経験や企業経営者としての経験から、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

監査等委員である社外取締役 清家麻紀氏（2025年10月31日退任）は、金融機関におけるリスクマネジメントやダイバーシティ推進、ガバナンスについて豊富な経験・実績・見識を有しております。

監査等委員である社外取締役 平尾嘉昭氏（2025年10月31日就任）は、弁護士として企業法務に精通しており、豊富な経験・実績・知見を有しております。

清家麻紀氏は2025年10月31日付で辞任により退任し、同日付で、2025年6月26日開催の当社第105期定時株主総会において補欠の監査等委員である社外取締役に選任された平尾嘉昭氏が就任しております。

b. 監査等委員会の活動状況

監査等委員会は、取締役会開催に先立ち開催するほか、必要に応じて適宜開催しております。当事業年度において当社は監査等委員会を17回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については次のとおりであります。

役職	氏名	開催回数	出席回数
取締役 常勤監査等委員	新島 直以	17回	17回
取締役（社外） 監査等委員	花房 幸範	17回	17回
取締役（社外） 監査等委員	清家 麻紀（注）1	12回	9回
取締役（社外） 監査等委員	平尾 嘉昭（注）2	5回	5回

（注）1 清家麻紀氏は、2025年10月31日付で退任しております。  
 2 平尾嘉昭氏は、2025年10月31日付で就任しております。

監査等委員会監査の役割分担については、期初に作成する監査計画に基づき、監査等委員は連携して会社の事業活動を常に把握し、業務監査・会計監査を全般的に行い、非常勤監査等委員は常勤監査等委員が監査・調査・収集した情報に基づき専門的・客観的・独立的な観点から適宜監査意見を述べるとともに、必要に応じて提言を行うこととしております。そのため、常勤監査等委員は、取締役会や経営会議、リスク管理委員会等の重要な会議へ出席するほか、取締役等との個別会合の場を通じて職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧するなどして、取締役の職務執行状況を監査しております。

一方、非常勤監査等委員は取締役会やコンプライアンス評価委員会等へ出席し、取締役等の職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、取締役の職務執行状況を監査しております。

また、常勤監査等委員を中心として、監査部、コンプライアンス部及びアイザワ証券株式会社の検査部等とは連絡会議や検査講評会等への出席により連携を図り、会計監査人とは定例会合の実施や現物実査、アイザワ証券株式会社の部支店往査時の立会い等により連携を図っております。

監査等委員会における決議・審議事項、協議事項、報告事項は以下のとおりであります。

決議・審議事項（20件）	取締役の報酬、監査方針・監査計画、監査等委員候補への同意、会計監査人の評価及び再任、会計監査人の監査報酬等に関する同意、監査報告書作成、役員等賠償責任保険、譲渡制限付株式報酬の割当て、監査費用予算、非保証業務の提供に関する包括承認等
協議事項（3件）	監査計画、監査等委員の報酬等
報告事項（48件）	代表取締役・取締役・執行役員・子会社社長との定期会合、会計監査人との会合、監査活動結果、取締役職務執行確認書の点検、内部監査計画、子会社の実地監査、子会社の社内検査結果、子会社の個人情報漏えい及び不正アクセスの件、会計監査人の実査・往査立会い、内部通報制度利用状況、稟議書閲覧状況、経営会議・リスク管理委員会等の会議出席等

監査等委員の活動状況は以下のとおりであります。

活動内容	開催 / 実施数	監査等委員
取締役会への出席	18回	常勤 / 非常勤
経営会議・リスク管理委員会・懲罰委員会への出席	都度	常勤
コンプライアンス評価委員会への出席	2回	非常勤
アイザワ証券株式会社の部店長会議への出席	2回	常勤 / 非常勤
代表取締役との定期会合	4回	常勤 / 非常勤
取締役、執行役員及び子会社社長との定期会合	20回	常勤 / 非常勤
社外取締役との定期会合	2回	常勤 / 非常勤
会計監査人（あずさ監査法人）との会合	8回	常勤 / 非常勤
会計監査人（あずさ監査法人）の実査の立会い	1回	常勤
会計監査人（あずさ監査法人）の往査の立会い	2回	常勤
重要な稟議書等の閲覧（子会社含む）	27件	常勤
監査部及びコンプライアンス部との連絡会議	4回	常勤 / 非常勤
監査部の実査への立会い	2回	常勤
アイザワ証券株式会社の部支店面談	35回	常勤
内部監査	2件	常勤
Japan Securities Co., Ltd.の監査	1回	常勤 / 非常勤

#### 内部監査の状況

当社グループの内部監査は、当社グループの経営目標の実現に寄与することを目的として、被監査部門から独立した立場で、業務執行状況や内部管理・内部統制の適切性、有効性、合理性等を検証・評価し、これに基づいて経営陣に対して助言・勧告等を行うものであり、当社グループの自律的な企業運営を確保していく上で、最も重要な企業活動の一つとしております。

具体的には、金融商品取引業者であり金融商品市場の担い手として重大な社会的責任を有する観点から、法令・諸規則の遵守、投資者保護、リスク管理等が適切に実行されているかという点について、グループ全体にわたり効率的かつ実効性ある内部監査を実施することとしております。また、業務内容やリスク特性等を勘案した上で、適切に内部監査を実施する態勢を確保するため、内部監査の専任部署として当社に監査部（5名）を設置し、当社グループにおける内部監査を実施しております。また、監査等委員会及び会計監査人と相互に情報交換を行うなど、緊密な連携を図っております。

個別の内部監査の結果については、監査部から取締役社長へ報告し承認を受け、その後、取締役会に対し、原則として月次で定期報告がなされております。さらに、内部監査部門の独立性を強化するため、内部監査に係る実施計画等については、取締役社長の承認、取締役会及び監査等委員会の同意を必要としております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

b. 継続監査期間

2003年3月期以降

c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 宮田 世紀

指定有限責任社員 業務執行社員 轡田 留美子

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の監査業務に係る補助者は、公認会計士11名、その他34名（公認会計士試験合格者含む）であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査法人の選定につきましては、当社の定めた選定基準 1. 監査法人の品質管理体制・独立性等、 2. 監査法人の監査業務の実施体制、 3. 監査報酬の妥当性等から、候補先を絞り面談・質問等を通じて選定することとしております。また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目のいずれかに該当すると判断した場合には、監査等委員会の決議に基づき、会計監査人を解任いたします。

当社監査等委員会が有限責任 あずさ監査法人を会計監査人として選任した理由は、当社の会計監査人として求められる専門性、独立性、品質管理体制、監査実施体制等につき当社の会計監査人の評価・選定基準に従って検証した結果、当社の会計監査人として適任であると判断したためであります。

f. 監査等委員会による監査法人の評価

当社の監査等委員及び監査等委員会は、監査法人に対して評価を行っており、この評価については日本監査役協会の「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づいております。この基準に基づき、毎年、会計監査人の独立性、品質管理の状況、職務遂行体制の適切性、会計監査の実施状況等を総合的に評価し、慎重に審議した結果、当該監査法人の監査の方法と結果を相当と認め再任することを決定しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	29		29	
連結子会社	38	2	38	2
計	67	2	67	2

連結子会社における非監査業務の内容は、顧客資産の分別保管に関する保証業務等であります。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク（KPMG）に対する報酬（a.を除く。）

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社				
連結子会社		0		1
計		0		1

連結子会社における非監査業務の内容は、台湾の株式譲渡益課税に係る税務報告サービスであります。

c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

会計監査人の監査人員、監査計画、監査の実施状況、品質管理体制、監査報酬の見積りの算定根拠等を勘案し、決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提出した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容及び会計監査の職務遂行状況の適切性、一般的水準と比較しての報酬算出根拠等の妥当性等について慎重に検証した結果、会社法第399条第3項に基づき同意の判断をいたしました。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、2021年2月12日開催の取締役会にて、取締役の報酬等の内容に係る決定方針（以下、「決定方針」という。）を以下のとおり定め、2025年4月18日開催の取締役会にて、決定方針に沿った役員報酬規程を制定しております。当該決定方針及び役員報酬規程は、委員の過半数を独立社外取締役とする指名報酬諮問委員会の審議、答申を踏まえ、取締役会で決議しております。

(イ) 基本方針

- ・取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬は、業績及び中長期的な企業価値との連動を重視した報酬とし、客観性・透明性を担保する適切なプロセスを経て決定され、当社が設定する経営指標に基づき、職務、業績貢献及び経営状況等に見合った報酬管理を行うことを基本方針としたうえで、取締役会の諮問機関である指名報酬諮問委員会において、審議、答申し、あらかじめ株主総会で決議された報酬枠の範囲内において取締役会で決定します。その内容は、「固定報酬：基本報酬（以下、「基本報酬」という。）」、「短期インセンティブ（業績連動報酬）：役員賞与（以下、「役員賞与」という。）」、「長期インセンティブ：譲渡制限付株式報酬（以下、「譲渡制限付株式報酬」という。）」で構成されます。
- ・監査等委員である取締役の報酬は経営に対する独立性、客観性を重視する視点から「基本報酬」のみとしております。また、指名報酬諮問委員会が原案について決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行っているため、取締役会も基本的にその答申を尊重し決定方針に沿うものであると判断しております。
- ・指名報酬諮問委員会は、主に報酬水準の設定と業績連動報酬の比率等について定期的に審議を行うほか、役員報酬に関する法制等の環境変化に応じて開催します。

(ロ) 基本報酬

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の基本報酬は、原則として、役位（執行役員の役位を含む。）や各役員が担う役割・責務に応じて決定し、毎月現金にて支給します。また役職別の報酬水準（社外取締役、監査等委員である取締役、および非常勤である取締役を除く。）は、原則社長の報酬額を最上位とし、以下役位を基本として、専務、常務、非役付役員の順に、報酬種類別に報酬額を逡減する報酬体系としております。

(ハ) 役員賞与

業務執行を担う取締役（以下「業務執行取締役」という。）の毎年度の企業価値向上への貢献意欲を高めることを目的として支給する短期業績連動報酬となります。前年度の当社グループの業績および役員等の個人の職務遂行状況に応じたKPIの目標達成度に応じて決定し、役位別の基準額に対して「0～150%」の範囲で変動します。また役員賞与は、原則として年1回、決算期より3カ月後の定時株主総会終了後に現金にて支給します。その決定にあたっては、指名報酬諮問委員会での審議を経て、取締役会で決議します。

(ニ) 譲渡制限付株式報酬

- ・業務執行取締役に對して、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、一定の譲渡制限期間を設けたうえで、当社普通株式を交付します。
- ・譲渡制限付株式は、原則として、毎年当社と付与対象者との間で譲渡制限付株式割当契約を締結したうえで、役位に応じて決定された数の基準額をベースに年間の株式報酬費用発生見込額と翌事業年度以降の業績見通しを勘案し、譲渡制限付株式報酬規程に基づき、当社普通株式を交付します。その決定にあたっては、指名報酬諮問委員会での審議を経て、取締役会で決議します。

- ・譲渡制限期間は、譲渡制限期間の開始日以降、最初に到来する当社の定時株主総会の開催日まで継続して、当社または当社子会社の取締役のいずれかの地位にあったことを条件として、本割当株式の全部につき、譲渡制限期間が満了した時点をもって譲渡制限を解除します。  
ただし、当該対象取締役が、当社取締役会が正当と認める理由により、譲渡制限期間が満了する前に当社及び当社子会社の取締役のいずれの地位からも退任した場合には、譲渡制限を解除する本割当株式の数及び譲渡制限を解除する時期を、必要に応じて合理的に調整するものとします。

(ホ) 役員の報酬等に関する株主総会の決議年月日及び決議の内容

- ・2007年6月26日開催の第87期定時株主総会において、取締役の報酬限度額は、年額6億円以内（当該総会後取締役6名、ただし、使用人兼務取締役の使用人分給与を含まない。）として、2019年6月25日開催の第99期定時株主総会において取締役（当該総会後付与対象となる取締役8名、ただし、社外取締役3名を除く。）に対する譲渡制限付株式報酬の総額を、取締役の報酬等の額とは別枠として、年額50百万円以内としてそれぞれ決議いただいております。
- ・2021年6月25日開催の第101期定時株主総会において、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬限度額は年額4億円以内（うち、社外取締役分は5千万円以内。当該総会後取締役は6名、うち社外取締役は2名。使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。）、監査等委員である取締役の報酬限度額は、年額1億円以内（当該総会後監査等委員である取締役3名、うち、社外取締役2名。）、また、当該金銭報酬とは別枠で取締役（社外取締役2名、及び監査等委員である取締役3名を除く。）に対する譲渡制限付株式報酬の総額を、年額1億円以内としてそれぞれ決議しております。

(ヘ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する役職ごとの方針

- ・取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬等は、独立社外取締役が過半数を占める指名報酬諮問委員会の諮問を経て、取締役会の決議により決定します。また、監査等委員である取締役の報酬等は、その独立性に配慮しつつ職務と責任に見合った報酬水準とすることを基本方針とし、監査等委員である取締役の協議により決定しております。執行役員の報酬等は、取締役に準じて処遇しています。

(ト) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定に関与する方針の決定権限を有する者の氏名又は名称、その権限の内容及び裁量の範囲

- ・役員の報酬等の決定に関する方針は、指名報酬諮問委員会の答申に基づき取締役会において決定します。
- ・その権限の内容及び裁量の範囲は、当社の取締役候補者の指名や取締役の報酬等の公正性及び客観性を担保することで、当社の適切な経営体制の構築に資することを目的としています。

(チ) 最近事業年度の役員の報酬等の額の決定過程における、取締役会及び委員会等の活動内容

- ・最近事業年度の取締役の報酬等につきましては、2025年5月22日開催の指名報酬諮問委員会において、世間相場を勘案のうえ審議され、2025年6月26日開催の取締役会にて決定いたしました。

(リ) 役員報酬決定の手続き

- ・役員報酬の基本方針に則り、公平性及客観性が担保され、当社の適切な経営体制の構築に資することを目的とした取締役会の諮問機関である指名報酬諮問委員会において審議、答申し、取締役会で決定しています。
- ・報酬の具体的決定については、役位（執行役員の役位を含む）や各役員が担う役割・責務に応じて定められる基本報酬、前年度の当社グループの業績および役員等の個人の職務遂行状況に応じたKPIの目標達成度に応じて決定し、役位別の基準額に対して「0～150%」の範囲で変動し定められる役員賞与、並びにこれらの報酬枠とは別枠の譲渡制限付株式報酬について審議を行い、報酬総額及び個人別報酬額を取締役に答申いたします。
- ・また、指名報酬諮問委員会の答申を踏まえ、あらかじめ株主総会で決議された報酬枠の範囲内で、取締役の報酬は取締役会で決定することとしています。
- ・譲渡制限付株式報酬についても、株主総会で決議された上限枠内で原則として毎事業年度、当社の普通株式を付与するための金銭報酬債権を対象取締役（社外取締役を除く。）に対して、指名報酬諮問委員会の答申を経て、取締役会にて決定します。
- ・取締役の個人別の報酬等の内容の決定にあたっては、指名報酬諮問委員会が原案について決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行っているため、取締役会も基本的にその答申を尊重し決定方針に沿うものと判断しております。

- ・ 監査等委員の報酬は、経営に対する独立性、客観性を重視する視点から固定報酬のみで構成され、各監査等委員報酬額は、監査等委員の協議によって決定しております。
- ・ なお、指名報酬諮問委員会は、主に報酬水準の設定と業績連動報酬の比率等について定期的に審議を行うほか、役員報酬に関する法制等の環境変化に応じて開催します。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	譲渡制限付 株式報酬	業績連動 報酬等(賞与)	
取締役 (監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	220	142	49	28	7
社外取締役 (監査等委員を除く)	22	22			4
取締役 (監査等委員) (社外取締役を除く)	11	11			1
社外取締役 (監査等委員)	12	12			3
合計	268	189	49	28	15

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 業績連動報酬等(賞与)に係る業績指標は「営業利益」と「事業基盤拡大に関するKPI」であり、2026年3月期の連結営業利益の実績は26百万円であり、事業基盤拡大に関するKPIである証券事業の総預り資産は、2026年3月末時点で2兆3,855億円であります。当該指標を選択した理由は、事業の収益力を高めることを主眼とすることからであります。
3. 上記には、2025年6月26日付で任期満了により退任した取締役1名及び社外取締役(監査等委員を除く)1名を含んでおります。
4. 上記には、2025年10月31日付で辞任により退任した社外取締役(監査等委員)1名を含んでおりません。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの  
 該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、長期的な視点により、株式の値上がりや配当による運用収益の確保を目的とする純投資目的の株式を投資株式、またそれ以外の目的の株式を政策保有株式としています。

政策保有株式については、取引先企業との関係強化、及び中長期的な企業価値向上を目的として、政策的に株式を保有することがあります。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社の「コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」第3条（株式の政策保有）にて定めたとおり、上場株式を新規に純投資目的以外の目的で保有する場合、もしくは既に純投資目的以外の目的で保有している場合については、事業戦略、取引関係、業務提携または協働ビジネスの展開などを総合的に勘案し、将来の見通し並びに中長期的な観点から資本コストに見合うリターンやリスクであるか、当社グループの企業価値の向上に資するかを検証し、確認した上で新規保有や継続保有を判断します。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

区分	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	12	1,198
非上場株式以外の株式	14	5,205

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	1	2	同業及び業界情報の収集、業界標準ルールへの策定関与等の効果も期待できること等を勘案し、出資を行いました。
非上場株式以外の株式			

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式	4	884

## c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

## 特定投資株式

銘柄	(当事業年度)	(前事業年度)	保有目的、定量的な保有効果及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
住友不動産(株)(注)2	367,000	183,500	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	1,611	1,026		
(株)清水銀行	170,304	170,304	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	418	255		
三井住友トラストグループ(株)	95,550	156,450	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中期的な企業価値向上につながっていると考えております。	無(注)3
	468	581		
(株)みずほフィナンシャルグループ	141,160	230,960	金融取引関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	無(注)4
	859	935		
平和不動産(株)(注)5	196,580	98,290	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	474	461		
幼児活動研究会(株)	208,000	208,000	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	317	280		

銘柄	(当事業年度)	(前事業年度)	保有目的、定量的な保有効果及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)ファンドクリエーショングループ	1,980,000	1,980,000	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	無(注)6
	176	158		
(株)TAKARA & COMPANY	61,400	61,400	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	232	202		
東京テアトル(株)	78,000	78,000	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	127	83		
(株)岡三証券グループ	193,000	193,000	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	158	127		
(株)オオバ	63,600	100,000	事業上の関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	無
	75	107		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	31,900	52,200	金融取引関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	無(注)7
	159	198		

銘柄	(当事業年度)	(前事業年度)	保有目的、定量的な保有効果及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)		
EUGENE INVESTMENT & SECURITIES CO.,LTD. (注)7	222,844	222,844	金融取引関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	103	53		
(株)七十七銀行 (注)7、8	7,200	2,400	金融取引関係の維持・強化のため、同社株式を保有しています。 同社株式の保有により、安定的な取引関係が構築され、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上につながっていると考えております。	有
	22	11		

- (注) 1. 定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は、中長期的な視点において、当社の企業価値向上に資するよう、関係部署にて個別銘柄ごとに定期的、継続的に保有の意義、および採算性を検証し、判断いたします。
2. 住友不動産(株)は2025年12月31日付で1株につき2株の割合で株式分割しております。
3. 三井住友トラストグループ(株)は当社株式を保有しておりませんが、同社グループの三井住友信託銀行(株)は、当社株式を保有しております。
4. (株)みずほフィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社グループの(株)みずほ銀行及びみずほ証券(株)は、当社株式を保有しております。
5. 平和不動産(株)は2025年6月30日付で1株につき2株の割合で株式分割しております。
6. (株)ファンドクリエーショングループは当社株式を保有しておりませんが、同社グループの(株)ファンドクリエーションは、当社株式を保有しております。
7. (株)三井住友フィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社グループの(株)三井住友銀行の退職給付信託口として(株)SMBC信託銀行が当社株式を保有しております。また同社グループのSMBC日興証券(株)は当社株式を保有しております。
8. EUGENE INVESTMENT & SECURITIES CO.,LTD.及び(株)七十七銀行は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。保有している銘柄が60銘柄に満たないため全銘柄について記載していません。
9. (株)七十七銀行は2026年3月31日付で1株につき3株の割合で株式分割しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数(銘柄)	貸借対照表計上額の合計額(百万円)	銘柄数(銘柄)	貸借対照表計上額の合計額(百万円)
非上場株式				
非上場株式以外の株式	1	625	1	334

当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの該当事項はありません。

## 5 【従業員の状況等】

### (1) 【人材戦略に関する基本方針等】

#### 人材戦略

当社グループは人事ビジョンを策定し、人材育成に取り組んでおります。人材戦略については、「第2 事業の状況 2 サステナビリティに関する考え方及び取組 (3) 人的資本に関する事項」に記載しております。

#### 従業員給与の額及び内容の決定に関する方針

当社グループは、変化の激しい時代の中で問題意識を持ち、自ら「目標をもって」、「計画し」、「やり抜く」人材を採用・育成していくため、「行動・役割発揮」に基づいた報酬体系を基本方針としております。

具体的には、管理職未満は成果に結びつく行動のレベル(コンピテンシー・ステージ)に基づき、管理職以上は役割発揮の実力に基づき決定しております。

### (2) 【従業員の状況】

#### 連結会社の状況

2026年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
証券事業	683 (29)
運用事業	18
投資事業	4
全社(共通)	2 (1)
合計	707 (30)

- (注) 1. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
2. 上記の従業員数には嘱託・契約社員・歩合外務員等(214名)は含んでおりません。また、臨時雇用者数は年間の平均人員を外書で記載しております。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない持株会社に所属しているものであります。

#### 提出会社の状況

2026年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)	平均年間給与の対前事業年度増減率(%)
55 (1)	44歳2ヶ月	13年9ヶ月	7,477,272	8.4

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
2. 上記の従業員数には嘱託社員、契約社員等(12名)は含んでおりません。また、臨時雇用者数は年間の平均人員を外書で記載しております。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
4. 当社は持株会社のため、特定のセグメントに属していません。

#### 最大人員会社の状況

当事業年度における従業員数が最も多い会社

アイザワ証券株式会社

2026年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)	平均年間給与の対前事業年度増減率(%)
661 (29)	40歳2ヶ月	13年5ヶ月	7,876,903	1.9

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
2. 上記の従業員数には嘱託社員、契約社員等(118名)は含んでおりません。また、臨時雇用者数は年間の平均人員を外書で記載しております。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

a. 提出会社

管理職に占める 女性労働者の割合(注1)	男性労働者の 育児休業取得率(注2)	労働者の男女の賃金の差異		
		全労働者	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者
7.7%	%	70.2%	69.2%	58.7%

(注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

- 2 当期間における男性労働者の育児休業取得対象者がいないため、取得率が算出できておりません。
- 3 従業員数は、アイザワ証券株式会社からの兼務出向者数となります。

b. 連結子会社

提出会社及び 連結子会社	管理職に占める 女性労働者の割合 (注1)	男性労働者の 育児休業取得率 (注2)	労働者の男女の賃金の差異		
			全労働者	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者
アイザワ証券株式会社	15.1%	100.0%	78.4%	76.7%	84.8%

(注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

- 2 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

労働組合の状況

労働組合は結成されておりません。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

信託を用いた従業員向けインセンティブ・プラン

当社は、当社の中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員向けインセンティブ・プランを導入しております。

詳細につきましては、連結財務諸表の「注記事項(追加情報)」をご参照下さい。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。)並びに同規則第46条及び第68条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」(昭和49年11月14日付日本証券業協会自主規制規則)に準拠して作成しております。

(2) 当社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」(昭和49年11月14日付日本証券業協会自主規制規則)に準拠して作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同法人が主催する研修への参加やメールマガジンによる情報配信を受けております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金・預金	14,405	24,239
預託金	24,783	27,008
顧客分別金信託	24,783	27,007
その他の預託金	0	0
営業投資有価証券	11,230	10,949
トレーディング商品	347	135
商品有価証券等	347	135
約定見返勘定	1,294	1,521
信用取引資産	15,478	15,306
信用取引貸付金	15,190	15,128
信用取引借証券担保金	287	178
立替金	521	278
顧客への立替金	520	276
その他の立替金	0	1
その他の流動資産	8 1,985	8 2,335
貸倒引当金		5
<b>流動資産合計</b>	<b>70,047</b>	<b>81,770</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	2 753	2 907
器具備品（純額）	2 365	2 408
土地	696	632
賃貸不動産（純額）	2、 3 9,259	2、 3 9,299
その他	135	
<b>有形固定資産合計</b>	<b>11,211</b>	<b>11,247</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	21	29
その他	10	10
<b>無形固定資産合計</b>	<b>32</b>	<b>40</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1、 3 25,208	1、 3 28,532
退職給付に係る資産	1,263	1,413
その他	1,773	1,320
貸倒引当金	8	0
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>28,237</b>	<b>31,265</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>39,481</b>	<b>42,554</b>
<b>資産合計</b>	<b>109,529</b>	<b>124,324</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
トレーディング商品	24	48
商品有価証券等	24	48
信用取引負債	4,722	2,353
信用取引借入金	3 4,173	3 2,033
信用取引貸証券受入金	548	319
有価証券担保借入金	482	2,009
有価証券貸借取引受入金	482	2,009
預り金	23,291	30,329
顧客からの預り金	18,927	21,147
その他の預り金	4,363	9,182
受入保証金	4,350	4,324
短期借入金	3 9,675	3 7,512
短期社債	6,000	12,085
未払法人税等	851	745
賞与引当金	680	826
役員賞与引当金	66	28
その他の流動負債	9 1,006	9 1,589
流動負債合計	51,150	61,853
<b>固定負債</b>		
長期借入金	3 5,156	3 5,315
繰延税金負債	4,994	5,986
株式給付引当金	349	379
その他の固定負債	117	115
固定負債合計	10,618	11,797
<b>特別法上の準備金</b>		
金融商品取引責任準備金	6 160	6 187
特別法上の準備金合計	160	187
負債合計	61,929	73,837
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	8,000	8,000
資本剰余金	7,828	7,826
利益剰余金	28,237	27,925
自己株式	8,508	8,429
株主資本合計	35,557	35,321
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	7,968	11,174
為替換算調整勘定	1,061	946
退職給付に係る調整累計額	22	42
その他の包括利益累計額合計	9,007	12,163
非支配株主持分	3,035	3,001
純資産合計	47,599	50,486
負債・純資産合計	109,529	124,324

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
営業収益		
受入手数料	14,190	16,713
トレーディング損益	2 3,025	2 2,474
金融収益	3 885	3 975
その他の営業収益	4 2,486	4 810
営業収益計	1 20,588	1 20,973
金融費用	5 99	5 120
その他の営業費用	6 466	6 947
純営業収益	20,022	19,905
販売費・一般管理費		
取引関係費	7 3,869	7 4,873
人件費	8 9,099	8 9,462
不動産関係費	9 1,487	9 1,483
事務費	10 2,663	10 2,805
減価償却費	268	401
租税公課	11 319	11 383
貸倒引当金繰入れ		5
その他	12 428	12 463
販売費・一般管理費計	18,135	19,879
営業利益	1,886	26
営業外収益		
受取利息	112	103
受取配当金	468	486
収益分配金	256	261
その他	46	50
営業外収益合計	884	901
営業外費用		
支払利息	128	114
社債利息	11	122
為替差損	27	
繰延資産償却	3	
和解金	1	0
自己株式取得費用	16	
その他	12	23
営業外費用合計	199	261
経常利益	2,571	666

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	2,345	3,865
特別利益合計	2,345	3,865
特別損失		
固定資産売却損	13 5	
固定資産除却損		14 10
投資有価証券償還損	256	270
減損損失	15 4	15 68
金融商品取引責任準備金繰入れ	0	27
特別損失合計	266	375
税金等調整前当期純利益	4,650	4,156
法人税、住民税及び事業税	1,456	1,506
法人税等調整額	70	27
法人税等合計	1,526	1,533
当期純利益	3,124	2,623
非支配株主に帰属する当期純損失( )	48	129
親会社株主に帰属する当期純利益	3,172	2,752

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
当期純利益	3,124	2,623
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,368	3,208
為替換算調整勘定	461	134
退職給付に係る調整額	80	64
その他の包括利益合計	1,987	3,466
包括利益	2,136	5,761
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,038	5,909
非支配株主に係る包括利益	98	147

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株 主持分	純資産合 計
	資本金	資本剰余 金	利益剰余 金	自己株式	株主資本合 計	その他有 価証券評 価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調 整累計額	その他の 包括利益 累計額合 計		
当期首残高	8,000	8,207	35,484	6,179	45,513	9,337	746	58	10,141	3,002	58,657
当期変動額											
剰余金の配当			2,520		2,520						2,520
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,172		3,172						3,172
自己株式の取得				10,775	10,775						10,775
譲渡制限付株式報酬		82		52	134						134
株式交付信託による 自己株式の処分		1		33	32						32
自己株式の消却		460	7,899	8,360							
非支配株主との取引 に係る親会社の持分 変動											
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）						1,368	315	80	1,134	32	1,101
当期変動額合計		379	7,247	2,329	9,955	1,368	315	80	1,134	32	11,057
当期末残高	8,000	7,828	28,237	8,508	35,557	7,968	1,061	22	9,007	3,035	47,599

当連結会計年度(自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株 主持分	純資産合 計
	資本金	資本剰余 金	利益剰余 金	自己株式	株主資本合 計	その他有 価証券評 価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る調 整累計額	その他の 包括利益 累計額合 計		
当期首残高	8,000	7,828	28,237	8,508	35,557	7,968	1,061	22	9,007	3,035	47,599
当期変動額											
剰余金の配当			3,065		3,065						3,065
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,752		2,752						2,752
自己株式の取得											
譲渡制限付株式報酬		11		44	55						55
株式交付信託による 自己株式の処分				34	34						34
自己株式の消却											
非支配株主との取引 に係る親会社の持分 変動		13			13						13
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）						3,206	114	64	3,156	33	3,122
当期変動額合計		2	312	78	235	3,206	114	64	3,156	33	2,887
当期末残高	8,000	7,826	27,925	8,429	35,321	11,174	946	42	12,163	3,001	50,486

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,650	4,156
減価償却費	268	401
減損損失	4	68
貸倒引当金の増減額(は減少)		5
賞与引当金の増減額(は減少)	87	145
役員賞与引当金の増減額(は減少)	1	37
株式給付引当金の増減額(は減少)	36	29
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	74	61
受取利息及び受取配当金	1,477	1,605
支払利息	239	357
投資有価証券売却損益(は益)	2,345	3,865
投資有価証券償還損益(は益)	256	270
固定資産売却損益(は益)	5	
固定資産除却損		10
顧客分別金信託の増減額(は増加)	2,848	2,224
立替金の増減額(は増加)	422	243
トレーディング商品(資産)の増減額(は増加)	114	211
約定見返勘定の増減額(は増加)	31	227
営業投資有価証券の増減額(は増加)	458	274
信用取引資産の増減額(は増加)	1,731	171
賃貸不動産の増減額(は増加)	94	38
金融商品取引責任準備金の増減額(は減少)	0	27
預り金の増減額(は減少)	5,516	7,037
トレーディング商品(負債)の増減額(は減少)	24	23
信用取引負債の増減額(は減少)	2,590	2,368
有価証券担保借入金の増減額(は減少)	919	1,527
受入保証金の増減額(は減少)	1,289	25
その他	490	201
小計	4,865	4,709
利息及び配当金の受取額	1,500	1,551
利息の支払額	237	292
法人税等の支払額	2,157	1,646
法人税等の還付額	0	180
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,759	4,503

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	2,657	2,721
定期預金の払戻による収入	3,065	2,664
有形固定資産の取得による支出	479	198
有形固定資産の売却による収入	14	
無形固定資産の取得による支出	8	27
資産除去債務の履行による支出	11	61
投資有価証券の取得による支出	2,776	3,232
投資有価証券の売却による収入	3,645	5,233
投資有価証券の償還による収入	693	2,238
差入保証金の差入による支出	90	24
差入保証金の回収による収入	30	43
貸付金の回収による収入	0	0
長期前払費用の取得による支出	246	444
その他	0	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,180</b>	<b>3,470</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	2,785	1,660
長期借入れによる収入		1,300
長期借入金の返済による支出	345	1,643
自己株式の取得による支出	10,775	
自己株式の売却による収入	32	34
短期社債の純増減額( は減少)	6,000	6,085
非支配株主からの払込による収入	283	100
非支配株主への分配金の支払額	349	
配当金の支払額	2,517	3,059
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,886</b>	<b>1,156</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	82	82
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	9,547	9,213
現金及び現金同等物の期首残高	22,709	13,161
現金及び現金同等物の期末残高	1 13,161	1 22,375

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 8社  
連結子会社の名称 アイザワ証券株式会社  
アイザワ・インベストメンツ株式会社  
あいざわアセットマネジメント株式会社  
ライフデザインパートナーズ株式会社  
Japan Securities Co.,Ltd.  
アイザワ4号投資事業有限責任組合  
Ariake Secondary Fund LP  
Ariake Secondary Fund LP

(2) 主要な非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社又は関連会社の名称等

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社又は関連会社の名称等

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、あいざわアセットマネジメント株式会社の決算日は11月30日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、2月末現在で本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎としております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

連結子会社のうち、Japan Securities Co.,Ltd.、アイザワ4号投資事業有限責任組合、Ariake Secondary Fund LP及びAriake Secondary Fund LPの決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、アイザワ4号投資事業有限責任組合については連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。また、Japan Securities Co.,Ltd.、Ariake Secondary Fund LP及びAriake Secondary Fund LPについては同社の決算日現在の財務諸表を基礎としております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) トレーディングに関する有価証券等の評価基準及び評価方法

トレーディング商品(売買目的有価証券)及びデリバティブ取引等については、時価法を採用しております。

(2) トレーディング関連以外の有価証券等の評価基準及び評価方法

トレーディング関連以外の有価証券等については、以下の評価基準及び評価方法を採用しております。

(その他有価証券)

市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法によっております。

投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(3) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 3年～50年

器具・備品 2年～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における見込利用可能期間（主として5年）による定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

長期前払費用

均等償却を採用しております。なお、主な償却期間は5年であります。

(4) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、当連結会計年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(5) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、また、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算方法（支給見込額基準）により算出した額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算方法（支給見込額基準）により算出した額を計上しております。

株式給付引当金

「従業員向け株式交付規程」に基づく従業員への当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(6) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、発生年度において一括費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理することとしております。

(7) 重要な収益及び費用の計上基準

約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点については、（収益認識関係）に記載のとおりです。

(8) 特別法上の準備金の計上基準

金融商品取引責任準備金

証券事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の5第1項の規定に定めるところにより算出された額を計上しております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金及び当座預金、普通預金等の随時引き出し可能な預金からなっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」（企業会計基準第34号 2024年9月13日）
  - ・「リースに関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日）
- ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるもの。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用が連結財務諸表に及ぼす影響については、現時点で評価中であります。

(追加情報)

信託を用いた従業員向けインセンティブ・プラン

当社は、2019年7月22日より、当社の中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員向けインセンティブ・プラン（以下、「本制度」といいます。）を導入しております。

(1) 本制度の目的および概要

当社従業員（以下、「従業員」といいます。）の当社業績や当社株式価値への意識を高めることにより、業績向上を目指した業務遂行を一層促進するとともに、中長期的な企業価値向上を図ることを目的としたインセンティブ・プランとして、本制度を導入しております。

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として本信託を設定し、本信託を通じて当社の普通株式（以下、「当社株式」といいます。）の取得を行い、従業員のうち一定の要件を充足する者に対して、当社取締役会が定める「従業員向け株式交付規程」に従い、従業員の役職や勤続年数に応じて、本信託を通じて当社株式を交付するインセンティブ・プランであります。本信託により取得する取得資金は、全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。本制度の導入により、従業員は当社株式の株価上昇による経済的な利益を享受することができるため、株価を意識した従業員の業務遂行を促すとともに、従業員の勤労意欲を高める効果が期待できます。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、512百万円及び778千株であります。なお、前連結会計年度末における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、546百万円及び831千株であります。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

該当事項はありません。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
投資有価証券(株式)	0百万円	0百万円

2 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
建物	1,632百万円	1,625百万円
器具備品	746百万円	826百万円
賃貸不動産	248百万円	373百万円
計	2,627百万円	2,826百万円

3 担保に供している資産の状況は、次のとおりであります。

前連結会計年度(2025年3月31日)

科目	被担保債務 (百万円)	担保資産(百万円)		
		投資有価証券	賃貸不動産	計
短期借入金	750	1,557		1,557
金融機関借入金	700	1,462		1,462
証券金融会社借入金	50	95		95
信用取引借入金	4,173	28		28
長期借入金	5,501		9,243	9,243
計	10,424	1,585	9,243	10,828

- (注) 1. 上記の表の金額は連結貸借対照表計上額によっております。  
 2. 上記のほか、清算基金等の代用として投資有価証券1,530百万円を差し入れております。  
 3. 長期借入金には1年内返済予定額を含んでおります。

当連結会計年度(2026年3月31日)

科目	被担保債務 (百万円)	担保資産(百万円)		
		投資有価証券	賃貸不動産	計
短期借入金	350	899		899
証券金融会社借入金	350	899		899
信用取引借入金	2,033	24		24
長期借入金	5,157		9,299	9,299
計	7,541	923	9,299	10,222

- (注) 1. 上記の表の金額は連結貸借対照表計上額によっております。  
 2. 上記のほか、清算基金等の代用として投資有価証券1,933百万円を差し入れております。  
 3. 長期借入金には1年内返済予定額を含んでおります。

4 担保等として差入をした有価証券の時価等

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
信用取引貸証券	568百万円	350百万円
信用取引借入金の本担保証券	3,744百万円	1,876百万円
差入保証金代用有価証券	5,783百万円	4,442百万円
消費貸借契約により貸付けた有価証券	540百万円	273百万円

- (注) 1. 「 3 担保に供している資産」は除いております。

5 担保等として差入を受けた有価証券の時価等

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
信用取引借証券	274百万円	172百万円
信用取引貸付金の本担保証券	13,611百万円	13,312百万円
受入保証金等代用有価証券	26,902百万円	31,161百万円
消費貸借により借り入れた有価証券	百万円	2百万円

6 特別法上の準備金

金融商品取引責任準備金

金融商品取引法第46条の5の規定に基づく準備金であります。

7 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの総額	38,050百万円	41,050百万円
借入実行残高	8,130百万円	7,170百万円
差引額	29,920百万円	33,880百万円

8 その他の流動資産のうち、顧客との契約から生じた債権の金額はそれぞれ以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
未収収益	671百万円	850百万円

9 その他の流動負債のうち、契約負債の金額はそれぞれ以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
契約負債	18百万円	77百万円

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

営業収益については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係） 1. 収益の分解情報」に記載しております。

2 トレーディング損益の内訳は以下のとおりであります。

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

	実現損益	評価損益	計
株券等トレーディング損益	2,507百万円	4百万円	2,511百万円
債券等トレーディング損益	183百万円	10百万円	172百万円
その他トレーディング損益	341百万円	百万円	341百万円
計	3,031百万円	6百万円	3,025百万円

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

	実現損益	評価損益	計
株券等トレーディング損益	2,081百万円	2百万円	2,078百万円
債券等トレーディング損益	118百万円	3百万円	122百万円
その他トレーディング損益	273百万円	百万円	273百万円
計	2,473百万円	1百万円	2,474百万円

## 3 金融収益の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
信用取引受取利息・品貸料	524百万円	469百万円
受取配当金	0百万円	百万円
受取債券利子	7百万円	4百万円
受取利息	330百万円	478百万円
その他	22百万円	21百万円
計	885百万円	975百万円

## 4 その他の営業収益の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業投資有価証券売上高	1,988百万円	305百万円
不動産賃貸収入	497百万円	504百万円
その他	0百万円	0百万円
計	2,486百万円	810百万円

## 5 金融費用の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
信用取引支払利息・品借料	51百万円	61百万円
支払利息	47百万円	58百万円
その他	0百万円	0百万円
計	99百万円	120百万円

## 6 その他の営業費用の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業投資有価証券売上原価	236百万円	718百万円
不動産売上原価	230百万円	229百万円
計	466百万円	947百万円

## 7 販売費・一般管理費のうち取引関係費の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
支払手数料	2,543百万円	3,508百万円
取引所・協会費	111百万円	115百万円
通信・運送費	1,033百万円	1,061百万円
旅費・交通費	89百万円	82百万円
広告宣伝費	69百万円	83百万円
交際費	21百万円	23百万円
計	3,869百万円	4,873百万円

## 8 販売費・一般管理費のうち人件費の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
報酬・給料	5,426百万円	5,449百万円
歩合外務員報酬	532百万円	601百万円
その他の報酬・給料	627百万円	707百万円
福利厚生費	1,581百万円	1,645百万円
賞与引当金繰入額	709百万円	820百万円
役員賞与引当金繰入額	65百万円	28百万円
退職給付費用	156百万円	208百万円
計	9,099百万円	9,462百万円

## 9 販売費・一般管理費のうち不動産関係費の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
不動産費	965百万円	982百万円
器具・備品費	521百万円	501百万円
計	1,487百万円	1,483百万円

## 10 販売費・一般管理費のうち事務費の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
事務委託費	2,574百万円	2,721百万円
事務用品費	88百万円	84百万円
計	2,663百万円	2,805百万円

## 11 販売費・一般管理費のうち租税公課の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
事業所税	10百万円	11百万円
事業税	205百万円	235百万円
固定資産税	18百万円	20百万円
印紙税	0百万円	1百万円
消費税	68百万円	96百万円
その他	15百万円	18百万円
計	319百万円	383百万円

## 12 販売費・一般管理費のうちその他の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
情報提供料等	44百万円	38百万円
水道光熱費	46百万円	42百万円
研修費	30百万円	36百万円
消耗品費	21百万円	20百万円
採用費	45百万円	48百万円
その他	239百万円	276百万円
計	428百万円	463百万円

13 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。  
 前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)  
 店舗土地建物の売却によるものであります。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)  
 該当事項はありません。

14 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。  
 前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)  
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)  
 賃貸不動産及びソフトウェアの除却によるものであります。

15 減損損失  
 当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。  
 前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

事業セグメント	用途	場所	種類	減損損失額
証券事業	遊休資産	山梨県	建物	3百万円
			土地	1百万円
合計				4百万円

当社グループは、資産を事業セグメント・用途により事業用資産、賃貸不動産及び遊休資産に分類しております。また、管理会計上の区分を基準に、事業用資産は営業店等の独立した会計単位、賃貸不動産及び遊休資産は物件単位にグルーピングを行い、特定のグループとの関係が明確ではない資産については、共用資産としています。

当社の連結子会社であり、証券事業を営むアイザワ証券株式会社は、営業損益の実績をベースに市場の動向や経営環境等の変動を考慮した金額に、資産または資産グループの経済的残存使用年数を乗じて将来キャッシュ・フローを算出しておりますが、当該将来キャッシュ・フローの減少が見込まれたことにより、支店の移転により、使用見込みがなくなったため減損損失4百万円として特別損失に計上しております。

当該減損損失の計上に際し用いられた回収可能価額は、正味売却価額によっており、不動産については不動産鑑定評価基準に準じて算出した評価額から、処分費用見込額等を控除して算出しております。

なお、減損損失の測定まで行った証券事業の資産については、割引前将来キャッシュ・フローがマイナスであるため割引率の記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

事業セグメント	用途	場所	種類	減損損失額
証券事業	事業用資産	静岡県	建物	4百万円
			土地	61百万円
全社資産	遊休資産	静岡県	土地	2百万円
合計				68百万円

当社グループは、資産を事業セグメント・用途により事業用資産、賃貸不動産及び遊休資産に分類しております。また、管理会計上の区分を基準に、事業用資産は営業店等の独立した会計単位、賃貸不動産及び遊休資産は物件単位にグルーピングを行い、特定のグループとの関係が明確ではない資産については、共用資産としています。

当社の連結子会社であり、証券事業を営むアイザワ証券株式会社は、営業損益の実績をベースに市場の動向や経営環境等の変動を考慮した金額に、資産または資産グループの経済的残存使用年数を乗じて将来キャッシュ・フローを算出しておりますが、事業用資産について収益性が低下したため減損損失66百万円として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上に際し用いられた回収可能価額は、正味売却価額又は使用価値により測定しており、正味売却価額は主に不動産鑑定評価基準に準じて算出した評価額から、処分費用見込額等を使用しております。また、使用価値は将来キャッシュ・フローを8.23%で割り引いて算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

## 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	35百万円	7,518百万円
組替調整額	2,027百万円	3,374百万円
税効果調整前合計	1,991百万円	4,143百万円
税効果額	622百万円	935百万円
その他有価証券評価差額金	1,368百万円	3,208百万円
為替換算調整勘定：		
当期発生額	461百万円	134百万円
組替調整額	百万円	百万円
税効果調整前合計	461百万円	134百万円
税効果額	百万円	百万円
為替換算調整勘定	461百万円	134百万円
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	106百万円	88百万円
組替調整額	10百万円	6百万円
税効果調整前	116百万円	94百万円
税効果額	35百万円	29百万円
退職給付に係る調整額	80百万円	64百万円
その他の包括利益合計	987百万円	3,138百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	47,525		8,000	39,525
合計	47,525		8,000	39,525
自己株式				
普通株式	10,383	6,164	8,099	8,447
合計	10,383	6,164	8,099	8,447

(注) 普通株式には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託が保有する当社株式が、当連結会計年度期首株式数に881千株、当連結会計年度末株式数に831千株含まれております。

(変動事由の概要)

普通株式の自己株式の増加数の内訳は、次のとおりであります。

2024年1月30日及び2025年5月1日の取締役会決議による自己株式の取得 6,163千株  
 単元未満株式の買取りによる増加 0千株

普通株式の自己株式の減少数の内訳は、次のとおりであります。

2024年7月22日の取締役会決議による譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分 49千株  
 2025年2月21日の取締役会決議による自己株式の消却 8,000千株  
 「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託における給付のための処分 50千株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年5月21日 取締役会	普通株式	988	26.00	2024年3月31日	2024年6月6日
2024年10月30日 取締役会	普通株式	1,531	48.00	2024年9月30日	2024年12月2日

(注) 1. 2024年5月21日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託が保有する当社株式に対する配当金22百万円が含まれております。

2. 2024年10月30日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託が保有する当社株式に対する配当金41百万円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年5月22日 取締役会	普通株式	1,531	利益剰余金	48.00	2025年3月31日	2025年6月6日

(注) 2025年5月22日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託が保有する当社株式に対する配当金39百万円が含まれております。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	39,525			39,525
合計	39,525			39,525
自己株式				
普通株式	8,447		94	8,352
合計	8,447		94	8,352

(注) 普通株式には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託が保有する当社株式が、当連結会計年度期首株式数に831千株、当連結会計年度末株式数に778千株含まれております。

(変動事由の概要)

普通株式の自己株式の減少数の内訳は、次のとおりであります。

2025年7月18日の取締役会決議による譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分 42千株  
「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託における給付のための処分 52千株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年5月22日 取締役会	普通株式	1,531	48.00	2025年3月31日	2025年6月6日
2025年10月30日 取締役会	普通株式	1,533	48.00	2025年9月30日	2025年12月1日

(注) 1. 2025年5月22日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託が保有する当社株式に対する配当金39百万円が含まれております。  
2. 2025年5月22日開催の取締役会決議による1株当たり配当額には、特別配当35円が含まれております。  
3. 2025年10月30日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託が保有する当社株式に対する配当金39百万円が含まれております。  
4. 2025年10月30日開催の取締役会決議による1株当たり配当額には、特別配当35円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2026年5月20日 取締役会	普通株式	2,204	利益剰余金	69.00	2026年3月31日	2026年6月8日

(注) 1. 2026年5月20日開催の取締役会決議による配当金の総額には、「従業員向けインセンティブ・プラン」の信託が保有する当社株式に対する配当金53百万円が含まれております。  
2. 2026年5月20日開催の取締役会決議による1株当たり配当額には、特別配当35円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
現金・預金	14,405百万円	24,239百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,244百万円	1,864百万円
現金及び現金同等物	13,161百万円	22,375百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループの主たる事業は、有価証券の売買及びその取次ぎ、有価証券の引受け及び売出し、有価証券の募集及び売出しの取扱い等の業務を中核とする第一種金融商品取引業であります。これらの事業を行うため、当社グループでは主に自己資金によるほか、必要な資金調達については金融機関からの借入れ及び社債の発行によっております。

資金運用については、短期的な預金や貸付金によるほか、顧客の資金運用やリスクヘッジなどのニーズに対応するための顧客との取引及び自己の計算に基づき会社の利益を確保するためのトレーディング業務等を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社グループが保有する金融商品は、法令等に基づき外部金融機関に信託する顧客分別金信託、顧客の資金運用ニーズに対応するための信用取引貸付金、自己の計算に基づき保有する商品有価証券や投資有価証券等のほか、顧客の資金運用に伴い受入れた預り金や受入保証金等があります。

信用取引貸付金は顧客の資金運用ニーズに対応するための6ヶ月以内の短期貸付金で、顧客の信用リスクに晒されています。顧客分別金信託は、金融商品取引法により当社の固有の財産と分別され信託銀行に信託されておりますが、その信託財産は信託法により保全されております。

また、自己の計算に基づき保有する商品有価証券及び投資有価証券は、主に株式、債券等であり、顧客の資金運用やリスクヘッジなどのニーズに対応するための顧客との取引及び自己の計算に基づき会社の利益を確保するための取引等のトレーディング業務のため保有しているもの、純投資目的、政策投資目的並びに事業推進目的で保有しているものがあります。これらはそれぞれの発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

当社グループが保有する預金は、預入先を大手都市銀行などの信用力の高い金融機関を中心に預け入れることとし、それ以外の場合は原則として国の預金保護の対象となる決済性預金に預け入れることを基本的な方針としています。

信用取引貸付金については、顧客管理に関する規程等の社内規程に基づき、当初貸付金額及びその後のマーケットの変動に応じて相当額の担保を顧客より受入れることとし、日々与信管理を行う体制を整備しております。

市場リスクの管理

市場リスクとは、保有する有価証券等に、株価、金利、外国為替相場等の市場全体に共通の要素の変動によって発生し得る損失の危険や、その他の理由によって発生し得る損失の危険をいいます。当社グループでは、市場リスクはあらかじめ定めた限度額の範囲内(市場リスク枠)に収めることで管理を行っております。

当該市場リスク枠は、取締役会において決定し、市場の変動や財務の健全性等を勘案して、市場リスク枠の見直しを行っております。

さらに市場リスク額を日々計測し、管理を適切に行うとともに、その結果を毎日内部管理統括責任者へ報告しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2025年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 営業投資有価証券	237	237	
(2) 商品有価証券等	347	347	
(3) 投資有価証券	23,954	23,954	
資産 計	24,540	24,540	
(1) 商品有価証券等	24	24	
(2) 長期借入金	5,156	5,124	32
負債 計	5,181	5,148	32

(注) 1. 「現金・預金」、「預託金」、「信用取引貸付金」、「信用取引借証券担保金」、「信用取引借入金」、「信用取引貸証券受入金」、「有価証券担保借入金」、「短期借入金」、「短期社債」、「預り金」、「受入保証金」等については、現金であること、及びこれらが短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 市場価格のない株式等は「(1) 営業投資有価証券」及び「(3) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2025年3月31日)
非上場株式	3,326

3. 連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資については記載を省略しております。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2025年3月31日)
投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資	8,920

当連結会計年度（2026年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 営業投資有価証券	225	225	
(2) 商品有価証券等	135	135	
(3) 投資有価証券	27,275	27,275	
資産 計	27,636	27,636	
(1) 商品有価証券等	48	48	
(2) 長期借入金	5,315	5,281	34
負債 計	5,364	5,329	34

(注) 1. 「現金・預金」、「預託金」、「信用取引貸付金」、「信用取引借証券担保金」、「信用取引借入金」、「信用取引貸証券受入金」、「有価証券担保借入金」、「短期借入金」、「短期社債」、「預り金」、「受入保証金」等については、現金であること、及びこれらが短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 市場価格のない株式等は「(1) 営業投資有価証券」及び「(3) 投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (2026年3月31日)
非上場株式	2,707

3. 連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資については記載を省略しております。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (2026年3月31日)
投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資	9,273

(注1) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金・預金	14,405			
預託金	24,783			
信用取引貸付金	15,190			
信用取引借証券担保金	287			
営業投資有価証券				
その他		100		
合計	54,667	100		

当連結会計年度(2026年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金・預金	24,239			
預託金	27,008			
信用取引貸付金	15,128			
信用取引借証券担保金	178			
営業投資有価証券				
その他		100		
投資有価証券				
その他			319	
合計	66,554	100	319	

(注2) その他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
信用取引借入金	4,173			
有価証券担保借入金	482			
短期借入金	9,675			
短期社債	6,000			
長期借入金		1,387	1,594	2,174
合計	20,330	1,387	1,594	2,174

当連結会計年度(2026年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
信用取引借入金	2,033			
有価証券担保借入金	2,009			
短期借入金	7,512			
短期社債	12,085			
長期借入金		1,883	1,529	1,902
合計	23,640	1,883	1,529	1,902

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産または負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融商品

前連結会計年度（2025年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
営業投資有価証券				
株式	137			137
公社債		100		100
商品有価証券等				
株式	121			121
公社債	7	218		226
投資信託		0		0
投資有価証券				
株式	15,217			15,217
投資信託		4,234		4,234
上場投資信託等	4,502			4,502
資産 計	19,987	4,552		24,540
商品有価証券等				
株式	24			24
負債 計	24			24

当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
営業投資有価証券				
株式	125			125
公社債		100		100
商品有価証券等				
株式	20			20
公社債	8	106		115
投資信託		0		0
投資有価証券				
株式	17,494			17,494
投資信託		2,557		2,557
上場投資信託等	7,223			7,223
資産 計	24,872	2,764		27,636
商品有価証券等				
株式	48			48
負債 計	48			48

(2) 時価をもって連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2025年3月31日)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金		5,124		5,124
負債計		5,124		5,124

当連結会計年度(2026年3月31日)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金		5,281		5,281
負債計		5,281		5,281

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

営業投資有価証券、商品有価証券等、投資有価証券

株式及び上場国債並びに上場投資信託は取引所の価格をもって時価としており、市場の活発性に基づき、レベル1に分類しております。上場国債以外の債券は市場価額情報(売買参考統計値等)をもって時価としており、投資信託は基準価格をもって時価としております。

これらは、レベル2に分類しております。

長期借入金

変動金利による長期借入金の時価については、短期間で市場金利を反映するため時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

なお、固定金利による長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しております。これらは、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	6	1

2. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(2025年3月31日)及び当連結会計年度(2026年3月31日)

該当事項はありません。

3. その他有価証券

前連結会計年度(2025年3月31日)

種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	16,290	4,690	11,600
その他	2,014	1,945	69
小計	18,305	6,635	11,669
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	3,581	3,806	225
債券	100	100	
その他	2,219	2,500	280
小計	5,901	6,406	505
合計	24,206	13,042	11,164

(注) 1. 前連結会計年度において、市場価格のない株式等は、上表に含めておりません。

当連結会計年度（2026年3月31日）

種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差 額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	17,378	3,782	13,595
その他	6,961	5,211	1,750
小計	24,340	8,994	15,345
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	258	305	46
債券	100	100	
その他	2,819	2,889	69
小計	3,178	3,294	116
合計	27,518	12,288	15,229

(注) 1. 当連結会計年度において、市場価格のない株式等は、上表に含めておりません。

4. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	2,399	2,231	
その他	614	114	
合計	3,013	2,345	

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	4,366	3,790	
その他	880	77	
合計	7,128	3,868	

5. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

前連結会計年度においては、重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

当連結会計年度において、株式252百万円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。また、市場価格のない株式等については、当該株式等の発行会社の財政状態の回復可能性を検討し、回復見込みがあると認められる場合を除き減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度を設けているほか、2015年4月1日以降の積立分は確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,209百万円	970百万円
利息費用	12百万円	16百万円
数理計算上の差異の発生額	56百万円	31百万円
退職給付の支払額	194百万円	121百万円
退職給付債務の期末残高	970百万円	834百万円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
年金資産の期首残高	2,503百万円	2,233百万円
期待運用収益	87百万円	78百万円
数理計算上の差異の発生額	162百万円	56百万円
退職給付の支払額	194百万円	121百万円
年金資産の期末残高	2,233百万円	2,247百万円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	970百万円	834百万円
年金資産	2,233百万円	2,247百万円
非積立型制度の退職給付債務	百万円	百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,263百万円	1,413百万円
退職給付に係る負債	百万円	百万円
退職給付に係る資産	1,263百万円	1,413百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,263百万円	1,413百万円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
利息費用	12百万円	16百万円
期待運用収益	87百万円	78百万円
数理計算上の差異の費用処理額	10百万円	6百万円
確定給付制度に係る退職給付費用	85百万円	55百万円

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
数理計算上の差異	116百万円	94百万円
合計	116百万円	94百万円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
未認識数理計算上の差異	32百万円	61百万円
合計	32百万円	61百万円

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
株式	26%	30%
債券	72%	67%
一般勘定	%	%
その他	2%	3%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
割引率	1.729%	2.544%
長期期待運用収益率	3.500%	3.500%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度239百万円、当連結会計年度239百万円であります。

(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	207百万円	276百万円
長期未払金	7百万円	6百万円
貸倒引当金限度超過額	0百万円	0百万円
投資有価証券評価損	225百万円	380百万円
固定資産減損損失	432百万円	409百万円
金融商品取引責任準備金	50百万円	59百万円
投資事業組合運用損	583百万円	666百万円
未払事業税	103百万円	87百万円
その他	387百万円	421百万円
税務上の繰越欠損金(注)2	887百万円	734百万円
繰延税金資産小計	2,884百万円	3,043百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注)2	887百万円	734百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引 当額	1,849百万円	2,231百万円
評価性引当額小計(注)1	2,736百万円	2,965百万円
繰延税金資産合計	148百万円	77百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	3,802百万円	4,737百万円
退職給付に係る資産	397百万円	445百万円
買換資産圧縮積立金	889百万円	792百万円
その他	53百万円	89百万円
繰延税金負債合計	5,143百万円	6,064百万円
繰延税金負債の純額	4,994百万円	5,986百万円

(注) 1. 評価性引当額が前連結会計年度より229百万円増加しております。この増減の主な内容は、投資有価証券評価損に係る評価性引当額155百万円の増加、投資事業組合運用損に係る評価性引当額が82百万円の増加によるものであります。

## 2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2025年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)		7	19		36	824	887
評価性引当額		7	19		36	824	887
繰延税金資産							

(a)税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度(2026年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	7	19		36	19	652	734
評価性引当額	7	19		36	19	652	734
繰延税金資産							

(a)税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となつた主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.6%	30.6%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6%	1.3%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	14.1%	1.0%
住民税均等割等	0.8%	0.9%
評価性引当額の増減	0.9%	5.5%
税率変更による繰延税金資産の増額修正	1.4%	%
税率変更による繰延税金負債の増額修正	2.8%	%
その他	13.4%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.8%	36.9%

(賃貸等不動産関係)

当社グループでは、東京都その他の地域において、賃貸住宅(土地を含む。)を有しております。

2025年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は267百万円(賃貸収益はその他の営業収益に、主な賃貸費用はその他の営業費用に計上)であります。

2026年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は275百万円(賃貸収益はその他の営業収益に、主な賃貸費用はその他の営業費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	9,165	9,259
	期中増減額	94	39
	期末残高	9,259	9,299
期末時価		8,395	8,821

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、不動産の取得(194百万円)、主な減少は、減価償却費(100百万円)であります。  
 当連結会計年度の主な増加は、不動産の取得(157百万円)、主な減少は、減価償却費(113百万円)であります。
3. 当連結会計年度末の時価は、社外の不動産鑑定士による不動産鑑定書に基づく金額で算定しております。

## (収益認識関係)

## 1. 収益の分解情報

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	証券事業	運用事業	投資事業	
財またはサービスの種類別				
株券	5,707			5,707
債券	1			1
受益証券	5,798			5,798
その他	2,385	298	497	3,180
顧客との契約から生じる収益	13,892	298	497	14,688
その他の収益	3,910	103	1,885	5,899
外部顧客からの収益	17,803	402	2,382	20,587

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	証券事業	運用事業	投資事業	
財またはサービスの種類別				
株券	7,165			7,165
債券	3			3
受益証券	6,630			6,630
その他	2,739	174	504	3,418
顧客との契約から生じる収益	16,539	174	504	17,218
その他の収益	3,447		305	3,753
外部顧客からの収益	19,986	174	810	20,971

## 2. 収益を理解するための基礎となる情報

当社グループでは、幅広いサービスを提供しており、主な収益を以下のとおり認識しております。なお、重大な金融要素が含まれる契約は含まれておりません。

「委託手数料」においては、顧客と締結した取引約款・規程等に基づいて、売買執行サービス等を履行する義務を負っております。当履行義務は、当社グループが注文を執行する都度充足されることから、約定時点（一時点）で収益を認識しております。通常の支払期限について、履行義務の充足時点である約定日から概ね数営業日以内に支払いを受けております。

「引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料」においては、有価証券の発行会社等との契約に基づき、引受け・売出しに係るサービス等を履行する義務を負っております。当履行義務は、引受契約証券に係る引受けの諸条件が決定し、引受ポジションとして市場リスクが計測できる要件が整った時点で充足されることから、条件決定日等の当該業務の完了時（一時点）に収益を認識しております。通常の支払期限について、各履行義務の充足時点から発行会社等への払込日または受渡日等までに支払いを受けております。

「募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料」においては、有価証券の引受会社等との契約に基づき、募集に係るサービス等を履行する義務を負っております。当履行義務は、募集等の申し込みが完了した時点で充足されることから、募集等申込日等の当該業務の完了時（一時点）に収益を認識しております。通常の支払期限について、履行義務の充足時点である募集等申込日から払込日または受渡日等までに支払いを受けております。

「その他の受入手数料」には、様々なサービスに係る受入手数料が含まれておりますが、主な受入手数料は「受益証券代行手数料」となります。

「受益証券代行手数料」においては、主に投信委託会社等との契約に基づき、募集・販売の取扱い等に関する代理事務を履行する義務を負っております。収益の金額は投資信託の純資産等を参照して算定されます。当履行義務は、当社グループが日々サービスを提供すると同時に顧客により便益が費消されるため、一定期間にわたり収益を認識しております。通常の支払期限について、多くの場合、投資信託等の決算日後から数営業日以内に支払いを受けております。

### 3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

当連結会計年度末における残存履行義務に配分された取引価格の総額について、契約期間が1年以内のものは注記対象に含めておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループにおいては、持株会社である当社の下で、各連結子会社がそれぞれ事業を展開しており、「証券事業」、「運用事業」、「投資事業」の3つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成において採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部営業収益及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	証券事業	運用事業	投資事業	合計		
営業収益						
外部顧客からの営業収益	17,803	402	2,382	20,587		20,587
セグメント間の内部営業収益又は振替高	69	21	25	115	115	
計	17,872	423	2,407	20,703	115	20,587
セグメント利益又はセグメント損失( )	255	116	1,539	1,678	208	1,886
セグメント資産	61,127	5,835	39,160	106,123	3,405	109,529
セグメント負債	40,376	96	10,052	50,525	11,403	61,929
その他の項目						
減価償却費	227	3	4	235	33	268
金融収益	885			885	0	885
金融費用	101			101	1	99

(注) 1. (1) セグメント利益の調整額208百万円には、セグメント間取引消去等 1,860百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用2,069百万円が含まれております。全社費用は、持株会社としての当社の費用であります。

(2) セグメント資産の調整額3,405百万円には、セグメント間債権債務の相殺消去等 44,216百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産47,622百万円が含まれております。全社資産は、持株会社としての当社の資産であります。

(3) セグメント負債の調整額11,403百万円には、セグメント間債権債務の相殺消去等 1,536百万円、各報告セグメントに配分していない全社負債12,940百万円が含まれております。全社負債は、持株会社としての当社の負債であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	連結 財務諸表 計上額 (注)2
	証券事業	運用事業	投資事業	合計		
営業収益						
外部顧客からの営業収益	19,986	174	810	20,971	2	20,973
セグメント間の内部営業収益又は振替高	141	20	22	184	184	
計	20,127	194	832	21,155	182	20,973
セグメント利益又はセグメント損失( )	1,054	364	722	32	58	26
セグメント資産	66,898	5,565	43,189	115,653	8,671	124,324
セグメント負債	45,592	102	10,055	55,750	18,086	73,837
その他の項目						
減価償却費	360	1	4	367	34	401
金融収益	972			972	2	975
金融費用	127			127	7	120

- (注)1.(1)セグメント利益の調整額58百万円には、セグメント間取引消去等4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用54百万円が含まれております。全社費用は、持株会社としての当社の費用であります。
- (2)セグメント資産の調整額8,671百万円には、セグメント間債権債務の相殺消去等42,315百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産50,987百万円が含まれております。全社資産は、持株会社としての当社の資産であります。
- (3)セグメント負債の調整額18,086百万円には、セグメント間債権債務の相殺消去等116百万円、各報告セグメントに配分していない全社負債18,203百万円が含まれております。全社負債は、持株会社としての当社の負債であります。
- 2.セグメント利益又はセグメント損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報」に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1)売上高(営業収益)

本邦の外部顧客への営業収益が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3.主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報」に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高(営業収益)

本邦の外部顧客への営業収益が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	連結 財務諸表 計上額
	証券事業	運用事業	投資事業	合計		
減損損失	4			4		4

(注) 調整額は、持株会社としての当社帰属分であります。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	連結 財務諸表 計上額
	証券事業	運用事業	投資事業	合計		
減損損失	66			66	2	68

(注) 調整額は、持株会社としての当社帰属分であります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等  
 前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)  
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)  
 該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等  
 前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)  
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)  
 該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等  
 前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は出 資金(百 万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及 びその 近親者	藍澤 基彌			アイザワ証 券株式会社 相談役	(被所有) 直接 3.63		相談役報 酬の支払	16		

(注) 当社の代表取締役を経験しており、長年にわたる経営の経験に基づき経営陣への様々な助言を行う目的から相談役を委嘱しております。報酬額については、委託する業務の内容等を勘案し決定しております。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)  
 重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産	1,433.95円	1,523.27円
1株当たり当期純利益	100.20円	88.44円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。  
 3. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。  
 1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前連結会計年度15,469,471株、当連結会計年度8,398,533株であります。

項目	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,172	2,752
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,172	2,752
普通株式の期中平均株式数(千株)	31,661	31,127

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
アイザワ証券グループ株式会社	第1回無担保社債	2024年 11月29日	500 (500)		1.10	無担保社債	2025年 11月28日
"	第2回無担保社債	2024年 12月24日	1,500 (1,500)		1.10	無担保社債	2025年 12月23日
"	第3回無担保社債	2025年 1月28日	1,500 (1,500)		1.10	無担保社債	2026年 1月27日
"	第4回無担保社債	2025年 2月21日	1,500 (1,500)		1.20	無担保社債	2026年 2月20日
"	第5回無担保社債	2025年 3月25日	1,000 (1,000)		1.20	無担保社債	2026年 3月24日
"	第6回無担保社債	2025年 4月23日		1,000 (1,000)	1.25	無担保社債	2026年 4月22日
"	第7回無担保社債	2025年 5月23日		800 (800)	1.25	無担保社債	2026年 5月22日
"	第8回無担保社債	2025年 6月24日		800 (800)	1.25	無担保社債	2026年 6月23日
"	第9回無担保社債	2025年 7月25日		800 (800)	1.25	無担保社債	2026年 7月24日
"	第10回無担保社債	2025年 8月22日		795 (795)	1.25	無担保社債	2026年 8月21日
"	第11回無担保社債	2025年 9月25日		795 (795)	1.25	無担保社債	2026年 9月24日
"	第12回無担保社債	2025年 10月24日		795 (795)	1.25	無担保社債	2026年 10月23日
"	第13回無担保社債	2025年 11月28日		800 (800)	1.30	無担保社債	2026年 11月27日
"	第14回無担保社債	2025年 12月24日		1,500 (1,500)	1.30	無担保社債	2026年 12月23日
"	第15回無担保社債	2026年 1月28日		1,500 (1,500)	1.40	無担保社債	2027年 1月27日
"	第16回無担保社債	2026年 2月20日		1,500 (1,500)	1.50	無担保社債	2027年 2月19日
"	第17回無担保社債	2026年 3月24日		1,000 (1,000)	1.70	無担保社債	2027年 3月23日
合計			6,000 (6,000)	12,085 (12,085)			

(注) 1. 「当期首残高」及び「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
12,085				

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	8,830	7,170	1.62	
1年以内に返済予定の長期借入金	845	342	1.36	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,156	5,315	1.19	2027年4月1日～ 2042年5月31日
その他有利子負債				
信用取引借入金	4,173	2,033	1.60	
有価証券担保借入金	482	2,009	1.47	
合計	19,486	16,871		

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	343	843	346	349

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

## (2) 【その他】

## 当連結会計年度における半期情報等

	第1四半期 連結累計期間	中間連結会計期間	第3四半期 連結累計期間	当連結会計年度
営業収益 (うち受入手数料) (百万円)	4,242 (3,273)	9,937 (7,629)	15,547 (12,108)	20,973 (16,713)
税金等調整前中間 (四半期)(当期)純利益 (百万円)	388	1,561	3,023	4,156
親会社株主に帰属する 中間(四半期)(当期)純利 益 (百万円)	127	1,000	2,076	2,752
1株当たり中間 (四半期)(当期)純利益 (円)	4.09	32.18	66.74	88.44

	第1四半期 連結会計期間	第2四半期 連結会計期間	第3四半期 連結会計期間	第4四半期 連結会計期間
1株当たり四半期純利益 (円)	4.09	28.04	34.54	21.70

(注) 第1四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間に係る財務情報に対するレビュー : 無

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金・預金	162	2,771
預託金	102	
金銭の信託	99	174
前払金	0	0
前払費用	65	49
未収入金	7	3
未収還付法人税等	39	
その他の流動資産	0	0
流動資産合計	478	2,999
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	186	168
器具備品（純額）	56	42
土地	46	44
有形固定資産合計	290	255
無形固定資産		
ソフトウェア	1	0
無形固定資産合計	1	0
投資その他の資産		
投資有価証券	6,009	7,029
関係会社株式	40,486	40,349
長期差入保証金	416	411
その他	32	30
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	46,943	47,821
固定資産合計	47,234	48,077
資産合計	47,712	51,076

(単位：百万円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
預り金	134	212
短期借入金	4,450	3,750
関係会社短期借入金	1,300	
短期社債	6,000	12,100
未払金	109	87
未払費用	26	79
未払法人税等	4	244
賞与引当金		2
役員賞与引当金	66	28
その他の流動負債	25	25
流動負債合計	12,115	16,531
固定負債		
長期借入金		500
繰延税金負債	819	1,167
長期預り金	5	5
固定負債合計	824	1,672
負債合計	12,940	18,203
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,000	8,000
資本剰余金		
資本準備金	7,863	7,863
その他資本剰余金		11
資本剰余金合計	7,863	7,874
利益剰余金		
利益準備金	3,202	3,202
その他利益剰余金		
別途積立金	6,000	6,000
繰越利益剰余金	16,108	13,415
利益剰余金合計	25,310	22,618
自己株式	8,508	8,429
株主資本合計	32,665	30,063
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,106	2,809
評価・換算差額等合計	2,106	2,809
純資産合計	34,772	32,872
負債・純資産合計	47,712	51,076

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)	当事業年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日)
営業収益		
経営指導料	1 1,046	1 1,020
関係会社受取配当金	1 2,001	
関係会社貸付利息	1 0	1 7
金融収益	1 0	1 2
営業収益計	3,048	1,030
純営業収益	3,048	1,030
販売費・一般管理費		
取引関係費	1 13	1 20
人件費	1、 2 655	1、 2 646
不動産関係費	1 135	1 107
事務費	1 77	1 84
減価償却費	37	35
租税公課	28	45
その他	1 36	1 37
販売費・一般管理費計	983	977
営業利益	2,065	53
営業外収益		
不動産賃貸料	0	0
受取配当金	79	164
関係会社有価証券貸借取引収益	1 66	19
その他	1 10	13
営業外収益合計	157	197
営業外費用		
支払利息	1 91	1 63
社債利息	11	1 122
社債発行費	1 70	1 142
自己株式取得費用	16	
和解金	1	
その他		0
営業外費用合計	190	328
経常利益又は経常損失( )	2,032	78
特別利益		
投資有価証券売却益	89	823
特別利益合計	89	823
特別損失		
関係会社株式評価損	352	136
減損損失		3 2
特別損失合計	352	138
税引前当期純利益	1,768	606
法人税、住民税及び事業税	3	245
法人税等調整額	14	11
法人税等合計	18	234
当期純利益	1,750	372

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	8,000	7,863	379	8,242	3,202	26,000	4,777	33,980
当期変動額								
剰余金の配当							2,520	2,520
当期純利益							1,750	1,750
別途積立金の取崩						20,000	20,000	
自己株式の取得								
譲渡制限付株式報酬			82	82				
株式交付信託による自己株式の処分			1	1				
自己株式の消却			460	460			7,899	7,899
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計			379	379		20,000	11,330	8,669
当期末残高	8,000	7,863		7,863	3,202	6,000	16,108	25,310

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	6,179	44,043	1,997	1,997	46,041
当期変動額					
剰余金の配当		2,520			2,520
当期純利益		1,750			1,750
別途積立金の取崩					
自己株式の取得	10,775	10,775			10,775
譲渡制限付株式報酬	52	134			134
株式交付信託による自己株式の処分	33	32			32
自己株式の消却	8,360				
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			108	108	108
当期変動額合計	2,329	11,378	108	108	11,269
当期末残高	8,508	32,665	2,106	2,106	34,772

当事業年度（自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	8,000	7,863		7,863	3,202	6,000	16,108	25,310
当期変動額								
剰余金の配当							3,065	3,065
当期純利益							372	372
別途積立金の取崩								
自己株式の取得								
譲渡制限付株式報酬			11	11				
株式交付信託による自己株式の処分								
自己株式の消却								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計			11	11			2,692	2,692
当期末残高	8,000	7,863	11	7,874	3,202	6,000	13,415	22,618

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	8,508	32,665	2,106	2,106	34,772
当期変動額					
剰余金の配当		3,065			3,065
当期純利益		372			372
別途積立金の取崩					
自己株式の取得					
譲渡制限付株式報酬	44	55			55
株式交付信託による自己株式の処分	34	34			34
自己株式の消却					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			702	702	702
当期変動額合計	78	2,602	702	702	1,899
当期末残高	8,429	30,063	2,809	2,809	32,872

【注記事項】

(重要な会計方針)

1．有価証券等の評価基準及び評価方法

有価証券等については、以下の評価基準及び評価方法を採用しております。

(1) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法によっております。

投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

2．固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 3年～39年

器具・備品 5年～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(主として5年)による定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

均等償却を採用しております。なお、主な償却期間は5年であります。

3．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、当事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4．引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、また、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算方法(支給見込額基準)により算出した額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支払いに備えるため、当社所定の計算方法(支給見込額基準)により算出した額を計上しております。

5．重要な収益及び費用の計上基準

約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点については、(収益認識関係)に記載のとおりです。

(追加情報)

信託を用いた従業員向けインセンティブ・プラン

当社は、2019年7月22日より、当社の中長期的な企業価値を高めることを目的として、従業員向けインセンティブ・プランを導入しております。

詳細につきましては、連結財務諸表の「注記事項(追加情報)」をご参照下さい。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産の状況

前事業年度(2025年3月31日)

科目	被担保債務 (百万円)	担保資産(百万円)	
		投資有価証券	計
短期借入金	700	1,462	1,462
金融機関借入金	700	1,462	1,462
計	700	1,462	1,462

(注) 上記の表の金額は貸借対照表計上額によっております。

当事業年度(2026年3月31日)

該当事項はありません。

2 担保等として差入をした有価証券の時価等

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
消費貸借契約により貸し付けた有価証券	255百万円	2,114百万円

3 担保等として差入を受けた有価証券の時価等

該当事項はありません。

4 保証債務

下記の関係会社の金融機関等からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (2025年3月31日)		当事業年度 (2026年3月31日)
アイザワ・インベストメンツ株式会社	3,359百万円	アイザワ・インベストメンツ株式会社	1,816百万円
計	3,359百万円	計	1,816百万円

5 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	7,250百万円	8,250百万円
借入実行残高	3,250百万円	3,750百万円
差引額	4,000百万円	4,500百万円

## (損益計算書関係)

## 1 関係会社との取引高は次のとおりです。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業取引による取引高		
営業収益	3,048百万円	1,028百万円
営業費用	63百万円	63百万円
営業取引以外の取引高		
営業外収益	76百万円	28百万円
営業外費用	68百万円	131百万円

## 2 人件費の中に含まれている引当金繰入額は次のとおりです。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
賞与引当金繰入額	百万円	2百万円
役員賞与引当金繰入額	65百万円	28百万円
退職給付費用	1百万円	2百万円

## 3 減損損失の内容は、次のとおりです。

前事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

事業セグメント	用途	場所	種類	減損損失額
全社資産	遊休資産	静岡県	土地	2百万円
合計				2百万円

当該減損損失の計上に際し用いられた回収可能価額は、正味売却価額によってあり、不動産については不動産鑑定評価基準に準じて算出した評価額から、処分費用見込額等を控除して算出しております。

## (有価証券関係)

## 1. 子会社株式

前事業年度(2025年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (百万円)
子会社株式	40,486
計	40,486

当事業年度(2026年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	当事業年度 (百万円)
子会社株式	40,349
計	40,349

2. 減損処理を行った有価証券

前事業年度(2025年3月31日)

関係会社株式について352百万円の減損処理を行っております。なお、減損処理にあたっては、株式の実質価額が取得価額よりも著しく下落した場合は、回収可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて、実質価額まで減額を行い、評価差額を評価損として計上しております。

当事業年度(2026年3月31日)

関係会社株式について136百万円の減損処理を行っております。なお、減損処理にあたっては、株式の実質価額が取得価額よりも著しく下落した場合は、回収可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて、実質価額まで減額を行い、評価差額を評価損として計上しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	11百万円	14百万円
貸倒引当金限度超過額	0百万円	0百万円
投資有価証券評価損	169百万円	296百万円
固定資産減損損失	41百万円	42百万円
未払事業税	1百万円	16百万円
その他	98百万円	115百万円
税務上の繰越欠損金(注)2	1百万円	百万円
繰延税金資産小計	324百万円	486百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注)2	1百万円	百万円
将来減算一時差異の合計に係る評価性引当額	306百万円	445百万円
評価性引当額小計(注)1	307百万円	445百万円
繰延税金資産合計	16百万円	40百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	807百万円	1,166百万円
その他	28百万円	41百万円
繰延税金負債合計	836百万円	1,208百万円
繰延税金負債の純額	819百万円	1,167百万円

(注) 1. 評価性引当額が前事業年度より137百万円増加しております。この増減の主な内容は、投資有価証券評価損に係る評価性引当額127百万円の増加によるものであります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前事業年度(2025年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)						1	1
評価性引当額						1	1
繰延税金資産							

(a)税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当事業年度(2026年3月31日)

該当事項はありません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となつた主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.6%	30.6%
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.7%	4.9%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	34.9%	1.6%
住民税均等割等	0.2%	0.6%
評価性引当額の増減	2.6%	22.7%
税率変更による繰延税金資産の増額修正	0.5%	%
税率変更による繰延税金負債の増額修正	1.4%	%
その他	4.2%	18.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	1.0%	38.6%

(収益認識関係)

収益を理解するための基礎となる情報

当社の顧客との契約から生じる主要な収益は、当社子会社等からの経営指導料であり、当該子会社等に対し指導・助言等を行うことを履行義務として識別しております。

当該履行義務は、時の経過につれて充足されるため、一定の期間にわたる履行義務を充足した時点で収益を計上しております。

## 【関連当事者情報】

## 関連当事者との取引

財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

前事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高	
子会社	アイザワ証券株式会社	東京都港区	3,000	金融商品取引業	所有直接100.0	資金の借入等	資金の借入(注)1	1,100	関係会社短期借入金	500	
							借入の返済(注)1	600			
							支払利息(注)1	3			
							証券取引等	有価証券貸借取引(注)2			255
有価証券貸借取引に係る収益(注)2	67										
子会社の管理	経営指導料(注)3	981									
社債発行費の支払	社債取扱手数料(注)3	60									
子会社	アイザワ・インベストメント株式会社	東京都港区	100	投資事業、投資事業組合財産の運用及び管理 不動産関連事業	所有直接100.0	配当の受入	関係会社受取配当金	2,001	関係会社短期借入金	800	
							資金の借入等	資金の借入(注)1			800
							支払利息(注)1	4			
							債務保証	借入金に対する保証(注)4			3,359
子会社の管理	経営指導料(注)3	49									
子会社	ライフデザインパートナーズ株式会社	東京都港区	30	金融商品仲介業 生命保険の募集に関する業務	所有直接100.0	資金の貸付等	貸付金の返済(注)1	20	関係会社短期貸付金		
							受取利息(注)1	0			
						子会社の管理	経営指導料(注)3	15			

(注) 1. 資金の借入及び貸付については、市場金利を勘案して決定しております。なお、担保の授受はありません。

2. 当該取引条件は、市場実勢等を勘案して決定しております。なお、担保は受け入れておりません。

3. 取引条件については、役務提供の対価として交渉の上、決定しております。

4. 金融機関から借入金につき、債務保証を行っております。

当事業年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資 金額 (百万 円)	事業の 内容 又は 職業	議決権 等の所有 割合 (%)	関連当事 者との 関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高	
子会社	アイザワ証券株式会社	東京都港区	3,000	金融商品取引業	所有直接 100.0	資金の貸付等	資金の貸付 (注)1	4,500	関係会社 短期貸付金		
							貸付金の返済 (注)1	4,500			
							受取利息 (注)1	7			
							資金の借入等	資金の借入 (注)1	500		関係会社 短期借入金
								借入の返済 (注)1	1,000		
支払利息 (注)1	4										
証券取引等	有価証券貸借取引 (注)2	2,114	未収収益	0							
	有価証券貸借取引に係る収益 (注)2	19									
子会社の管理	経営指導料 (注)3	669									
社債発行費の支払	社債取扱手数料 (注)3	121									
子会社	アイザワ・インベストメント株式会社	東京都港区	100	投資事業、投資事業組合財産の運用及び管理 不動産関連事業	所有直接 100.0	資金の借入等	資金の借入 (注)1	2,000	関係会社 短期借入金		
							借入の返済 (注)1	2,800			
							支払利息 (注)1	6			
債務保証	借入金に対する保証 (注)4	1,816									
子会社の管理	経営指導料 (注)3	342									
子会社	ライフデザインパートナーズ株式会社	東京都港区	30	金融商品仲介業 生命保険の募集に関する業務	所有直接 100.0	子会社の管理	経営指導料 (注)3	9			

(注) 1. 資金の借入及び貸付については、市場金利を勘案して決定しております。なお、担保の授受はありません。

2. 当該取引条件は、市場実勢等を勘案して決定しております。なお、担保は受け入れておりません。

3. 取引条件については、役務提供の対価として交渉の上、決定しております。

4. 金融機関から借入金につき、債務保証を行っております。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産	1,118.86円	1,054.53円
1株当たり当期純利益	55.28円	11.98円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。
3. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- 1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前事業年度15,469,471株、当事業年度8,398,533株であります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	1,750	372
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,750	372
普通株式の期中平均株式数(千株)	31,661	31,127

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	239			239	70	17	168
器具備品	134			134	91	14	42
土地	46		2 (2)	44			44
有形固定資産計	420		2 (2)	417	162	31	255
無形固定資産							
ソフトウェア				4	3	0	0
無形固定資産計				4	3	0	0
長期前払費用				16	5	3	11 (3)

(注) 1. 当期減少額の主な内容は次のとおりであります。

1. 土地 遊休資産減損 2百万円
2. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。
3. 無形固定資産及び長期前払費用の金額が、資産総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。
4. 長期前払費用の差引当期末残高欄の( )内の金額は内数で、1年以内償却予定の長期前払費用であり、貸借対照表では「前払費用」に含めて表示しております。

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(注) 1	0				0
賞与引当金(注) 2		2			2
役員賞与引当金(注) 3	66	28	66	0	28

(注) 1. 債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、また、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

2. 従業員に対する賞与の支払いに備えるため、当社所定の計算方法(支給見込額基準)により算出した額を計上しております。
3. 役員に対する賞与の支払いに備えるため、当社所定の計算方法(支給見込額基準)により算出した額を計上しております。なお、当期減少額その他は引当差異の戻入を行ったことによるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載し、そのアドレスは次のとおりであります。 <a href="https://www.aizawa-group.jp">https://www.aizawa-group.jp</a>
株主に対する特典	なし

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を有しておりません。  
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利  
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利  
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利  
 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社に金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から本書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 訂正発行登録書

2025年6月27日関東財務局長に提出

2025年7月14日関東財務局長に提出

2025年7月18日関東財務局長に提出

#### (2) 発行登録追補書類（社債）及びその添付書類

2025年4月30日関東財務局長に提出

2025年5月30日関東財務局長に提出

2025年6月30日関東財務局長に提出

2025年7月31日関東財務局長に提出

2025年8月29日関東財務局長に提出

2025年9月30日関東財務局長に提出

2025年10月31日関東財務局長に提出

2025年11月28日関東財務局長に提出

2026年1月6日関東財務局長に提出

2026年1月30日関東財務局長に提出

2026年2月27日関東財務局長に提出

2026年3月31日関東財務局長に提出

2026年4月30日関東財務局長に提出

2026年5月29日関東財務局長に提出

#### (3) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第105期(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

2025年6月24日関東財務局長に提出

#### (4) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

事業年度 第105期(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

2025年7月14日関東財務局長に提出

#### (5) 内部統制報告書

事業年度 第105期(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

2025年6月24日関東財務局長に提出

#### (6) 半期報告書及び確認書

第106期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

2025年11月13日関東財務局長に提出

(7) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づき臨時報告書

2025年6月27日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2（第三者割当による自己株式の処分）の規定に基づく臨時報告書

2025年7月18日関東財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年6月19日

アイザワ証券グループ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮 田 世 紀

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 轡 田 留 美 子

### < 連結財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアイザワ証券グループ株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アイザワ証券グループ株式会社及び連結子会社の2026年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

委託手数料計算の正確性に関する内部統制の有効性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>アイザワ証券グループ株式会社（以下、「会社」という。）の連結損益計算書における営業収益の大宗は、証券業務を営む連結子会社のアイザワ証券株式会社の営業収益が占めている。</p> <p>当事業年度の連結損益計算書における営業収益は20,973百万円であり、そのうち、委託手数料は、会社の連結財務諸表の注記事項（収益認識関係）「1. 収益の分解情報」[監オベ4.1]に記載された財又はサービスの種類別の「株券」として計上されている7,165百万円と当連結会計年度の営業収益の中で金額的重要性が高い収益項目となっており、これはアイザワ証券株式会社の証券事業から生じた収益である。</p> <p>アイザワ証券株式会社の証券事業は日々の証券取引を処理する基幹システム（以下、「証券取引システム」）を利用しており、委託取引や店頭取引等に関する取引データは証券取引システムにおいて記録されている。</p> <p>委託手数料は、単一の手数料率になっているその他の証券業務に係る収益と異なり、口座種類及び約定代金（以下、注文形態）に応じた手数料率体系となっており、取引量が多いことから、当該委託手数料計算は証券取引システムへの依拠の程度が高い。</p> <p>したがって、委託手数料計算の正確性に関する内部統制に不備が存在する場合、又は当該システムの全般的な内部統制に不備が存在する等、証券取引システムによる自動処理が想定どおりに行われなかった場合には財務報告に重要な影響を及ぼす可能性がある。</p> <p>以上より、金額的重要性が高く、注文形態によって適用される手数料率が異なり、システムへの依拠の程度が高い委託手数料について、手数料計算の正確性に関する内部統制の有効性が損なわれた場合、重要な虚偽表示が発生するリスクが相対的に高くなるため、監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、ITの専門家を利用し、委託手数料計算の正確性に関する内部統制の整備状況及び運用状況の有効性を評価するため以下の手続を実施した。</p> <p>(1) ITに係る全般統制</p> <p>証券取引システムに関するITに係る業務処理統制（以下、「IT業務処理統制」という。）の有効性の前提となるITに係る全般統制に関して、以下の手続を検証した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部委託先に係る内部統制に関する保証報告書及び内部統制の後発事象報告書の閲覧を実施した。</li> <li>システム部門責任者への質問、新規のシステム導入やプログラム変更時の承認証跡の閲覧、アクセス権限の定期的な点検証跡の閲覧を実施した。</li> </ul> <p>(2) 業務プロセスに係る内部統制及びIT業務処理統制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>口座種類に関して、口座開設の際に顧客より受け入れた口座開設申請書類と証券取引システム上の個人情報照会画面が整合していることを再実施により確認した。</li> <li>約定代金に関して、証券取引システムの約定データと取引に係る証憑が整合していることを再実施により確認した。</li> <li>委託手数料計算の正確性に関するIT業務処理統制の有効性を評価するために、手数料が証券システムに設定されたとおりに計算されていることを検証した。</li> </ul>

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 内部統制監査 >

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、アイザワ証券グループ株式会社の2026年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、アイザワ証券グループ株式会社が2026年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

##### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

##### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

##### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### < 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等 (3)【監査の状況】に記載されている。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

2026年6月19日

アイザワ証券グループ株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮 田 世 紀

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 轡 田 留 美 子

### < 財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアイザワ証券グループ株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第106期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アイザワ証券グループ株式会社の2026年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

当監査法人は、監査報告書において報告すべき監査上の主要な検討事項はないと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

- (注) 1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。